

令和5年度
学校体育のあしあと



新潟市教育委員会

新潟市の子ども



確かな学力



豊かな心



健やかな体

目 次

(フォルダ No.)

表紙			01
巻頭言	学校支援課長	三條 貴之	01
I 新潟市児童生徒の体力状況			
1 令和5年度児童生徒の体力等調査結果			02
2 体力向上にかかわる研修会等			03
○ 新潟市小学校体力向上指導者研修会	木戸小学校	鈴木健太郎	
○ 新潟市中学校体力向上指導者研修会	東石山中学校	高橋 航平	
○ 新潟市中学校柔道安全指導講習会	大形中学校	坂井 孝行	
II 教育研究協議会の研究			
1 小学校教育研究協議会体育部の研究			04
○ 研究の概要	沼垂小学校	熊野 昌彦	
○ 研究授業 6年 器械運動 (マット運動)	小針小学校	三本 雄樹	
○ 研究授業 3年 体づくり運動 (多様な動き)	桃山小学校	田村 真輝	
2 中学校教育研究協議会保健体育部の研究			05
○ 研究の概要	木戸中学校	阿部 健	
○ 第1分科会 3年 器械運動 (跳び箱運動)	葛塚中学校	渡部 洋太	
○ 第2分科会 1年 器械運動 (マット運動)	寄居中学校	大島 佳子	
○ 第3分科会 1年 保健分野 (心身の機能の発達と心の健康)	白根北中学校	新井 慧真	
○ 第4分科会 2年 器械運動 (マット運動)	中野小屋中学校	大滝 泰樹	
III 各体育連盟の活動			06
1 小学校体育連盟の活動	沼垂小学校	竹松 譲	
2 中学校体育連盟の活動	白新中学校	梅津 雅史	
IV 教育課程等に係る事項			07
1 年間指導計画例 小学校 中学校			
2 評価に関する参考資料			
3 指導の手引き (URL 紹介)			

学校体育に関する総括と展望

新潟市教育委員会
学校支援課長 三條 貴之

日頃より、各校園において体育・保健体育や健康領域の指導、また、体力向上の活動に真摯に取り組んでいただき、感謝申し上げます。

令和5年5月に新型コロナウイルス感染症は、2類相当から5類に移行されました。これまで、子どもたちの活動にも大きく制限が掛かることがありましたが、感染対策を行いながらも各自の対応や判断に任される部分が大きくなったと言えます。各校では、体育・保健体育の授業や部活動等の場面において、元の生活に近い活動の様子や児童生徒の関わりの場面が見られるようになりました。

ここ数年はコロナ禍にあり、本市における全国体力運動能力、運動習慣等調査（体力テスト）でも体力低下傾向が見られましたが、今年度の体力テスト合計点では、小学校5年生、中学校2年生の男子で上向き傾向となりました。スポーツ庁も「全体としては横ばい、向上傾向と捉えられる結果」と今年度の結果をまとめています。

また、意識調査で「体育の授業にすすんで取り組んでいる」「友達と対話したり ICT を活用したりして『わかる』や『できる』を実感している」と回答した児童生徒の割合が全国平均より大きいのも新潟市の子どもの特徴と言えます。教育研究協議会の体育・保健体育部の研究、さらに、各校における ICT 端末を活用した学び、小中学校の体育連盟による日々の取組の賜物であると認識しています。

しかし、「体育が楽しいですか」という問いについては、小学校5年生女子のみ全国平均を上回り、それ以外の調査対象は全国平均より低い数値となりました。本市の児童生徒においては、「わかる」「できる」の基盤となる「楽しい」「またやってみよう」と思えるような授業づくりが求められていると感じます。自校の児童生徒が感じる「体育における『楽しい』とは何か」という洗い出しも必要かもしれません。

各校で行われている体力向上ジャンプアップを見ると、意欲の高まりを目指した授業づくりの取組が随所に見られます。令和6年度も、体育・保健体育でたくさんの経験を積み、学力・体力を伸ばすとともに、児童生徒が「またやりたい」と思える授業づくりを進めてほしいと願っています。

終わりに、「学校体育のあしあと」の発刊に当たり、寄稿いただいた皆様にお礼を申し上げますとともに、本冊子が政令市新潟の学校体育の充実・発展のために活用されることを祈念し、発刊の言葉といたします。

1 新潟市児童生徒の体力状況

【令和5年度児童生徒の体力調査結果】 一小学校5年生、中学校2年生の結果から一

調査事項

(1) 実技調査（8種目）

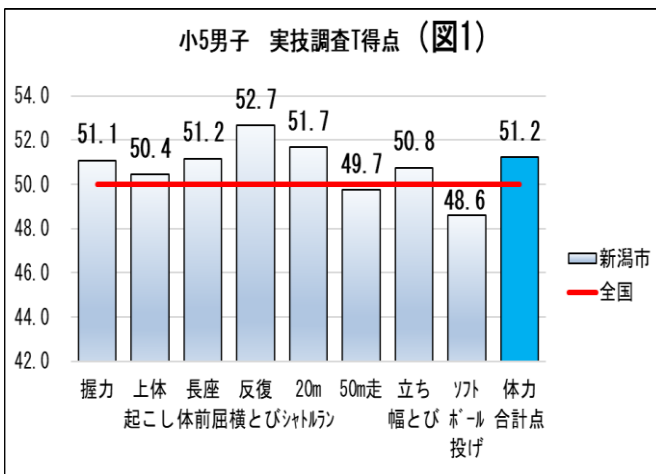
- 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横跳び、シャトルラン、50m走、立ち幅跳び、ボール投げ（小学校はソフトボール、中学校はハンドボール）

(2) 意識調査

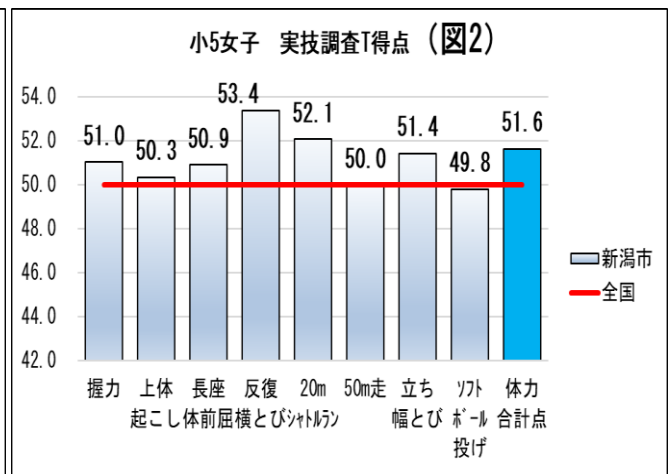
- 運動習慣、生活習慣等に関する質問調査紙

新潟市調査結果概要

(1) 小学校5年生 実技（図1, 2） ※（ ）は昨年度順位

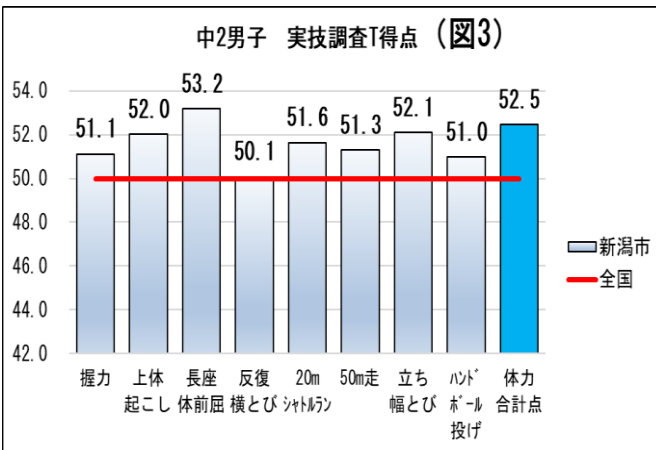


〔政令指定都市別〕全国1位（1位）

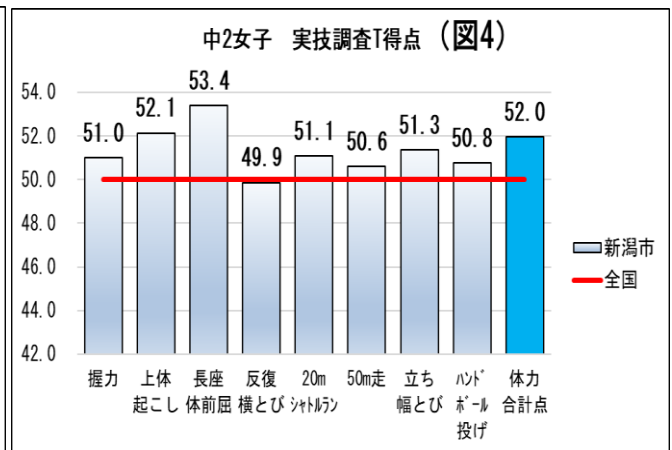


〔政令指定都市別〕全国1位（1位）

(2) 中学校2年生 実技（図3, 4） ※（ ）は昨年度順位



〔政令指定都市別〕全国1位（1位）



〔政令指定都市別〕全国2位（4位）

- 小学校5年生・中学校2年生ともに全国平均を上回った種目が多い。
- 中学校では、シャトルランを持久走に置き換えて実施してもよいこととなっているが、本市では全中学校が体力テストでシャトルランを行っている。

(3) 質問紙調査

◇本市が全国平均を上回っている内容

- ・健康三原則への意識が高く、運動、食事、休養（睡眠）を大切なものと感じている児童生徒が多い。
- ・体育や保健体育の学習時のICT活用の割合が大きい。
- ・ICT活用により運動の仕方がわかる、できると実感している児童生徒の割合が大きい。

◇本市が全国平均を下回っている内容

- ・中学校2年生女子の「運動やスポーツへの好感度」が低い傾向がある。
- ・小学校5年生男子、中学校2年生男女の「体育や保健体育の授業への楽しさの実感」が全校平均より低い

新潟市の取組の実態

◇自校の体力面の課題を焦点化し、体力向上の取組を実施している。

「体力ジャンプアップ」の取組例

- ・校内で実技講習会を設定し、指導方法や授業マネジメントについて検討
- ・体育的行事や児童会・生徒会活動とタイアップし、運動機会を拡充
- ・健康増進・生活リズム改善のために、中学校区全校で共通した取組を実施

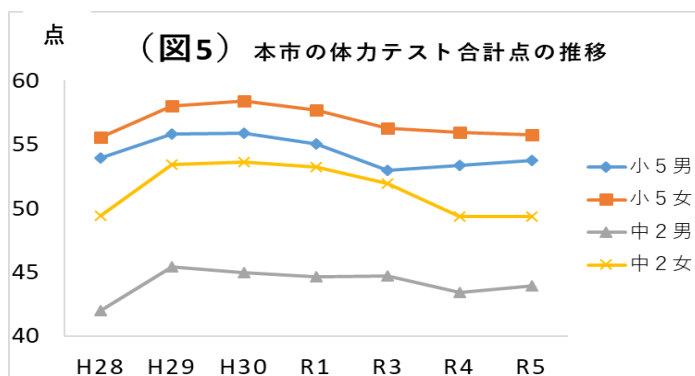
◇体育授業指導者研修会を行い、各校の体育主任や保健体育担当の教員に指導法や理論を伝達している。

◇体育や保健体育の授業での多様な方法でICT端末を活用している。動きの比較、客観視など有効な活用の方法についても実践の中で検証されてきている。

調査結果から

◇コロナ禍による体力低下傾向は、横ばい、または、上向き傾向に転じた。

◇本市は、政令指定都市における順位や体力テスト合計点の全国平均と比較すると上位に位置しているが、コロナ前と比較すると小中男女とも体力得点はまだ低い状況(図5)にある。しかし、いずれの校種でも運動制限があった時期の影響は少なくなってきたと考える。



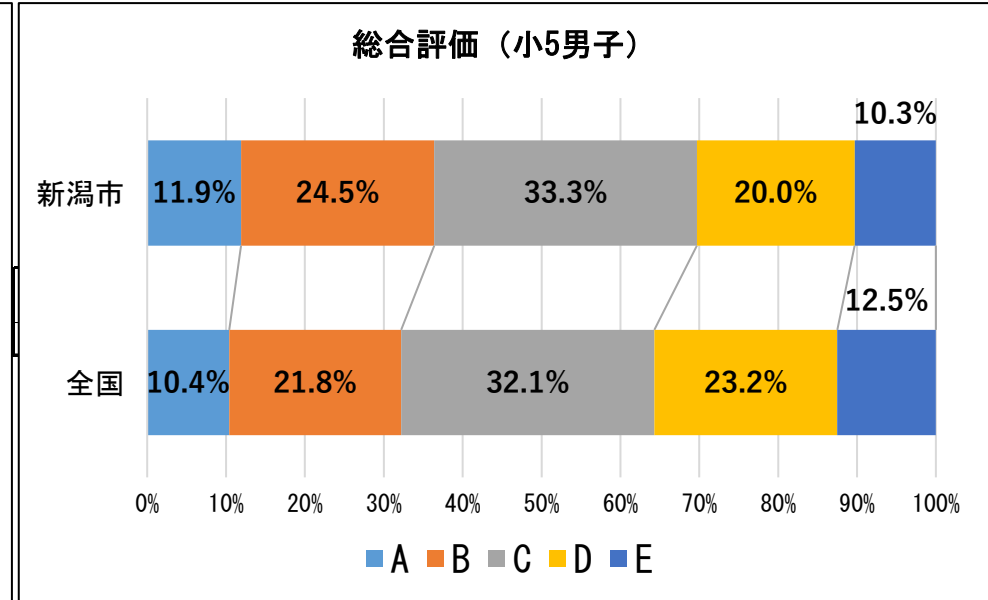
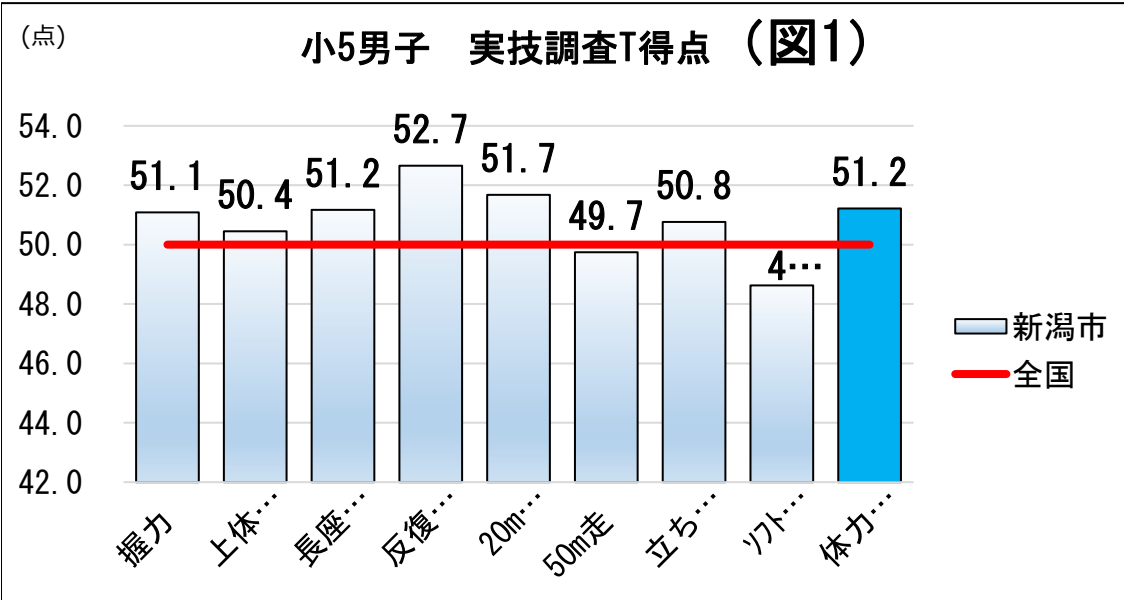
(※得点基準は男女により異なる)

【小学校5年男子】

小学校 5年男子	握力(kg)				上体起こし(回)				長座体前屈(cm)				反復横とび(点)			
	標本数	平均値	標準偏差	T得点	標本数	平均値	標準偏差	T得点	標本数	平均値	標準偏差	T得点	標本数	平均値	標準偏差	T得点
全国	495,919	16.13	3.88	50.0	493,063	19.00	6.06	50.0	493,810	33.99	8.79	50.0	491,993	40.61	8.28	50.0
新潟市	2,996	16.56	3.96	51.1	3,000	19.27	6.01	50.4	2,994	34.99	8.54	51.2	2,990	42.76	8.09	52.7

小学校 5年男子	20mシャトルラン(回)				50m走(秒)				立ち幅とび(cm)			
	標本数	平均値	標準偏差	T得点	標本数	平均値	標準偏差	T得点	標本数	平均値	標準偏差	T得点
全国	487,225	46.91	21.30	50.0	491,775	9.48	1.14	50.0	492,197	151.16	23.59	50.0
新潟市	2,978	50.66	22.36	51.7	2,979	9.51	1.17	49.7	2,986	152.93	23.16	50.8

小学校 5年男子	ソフトボール投げ(m)				体力合計点(点)				総合評価(%)					
	標本数	平均値	標準偏差	T得点	標本数	平均値	標準偏差	T得点	標本数	A	B	C	D	E
全国	491,448	20.51	8.14	50.0	460,678	52.60	9.57	50.0	504,439	10.4%	21.8%	32.1%	23.2%	12.5%
新潟市	2,996	19.51	7.28	48.6	2,877	53.74	9.36	51.2	3,022	11.9%	24.5%	33.3%	20.0%	10.3%



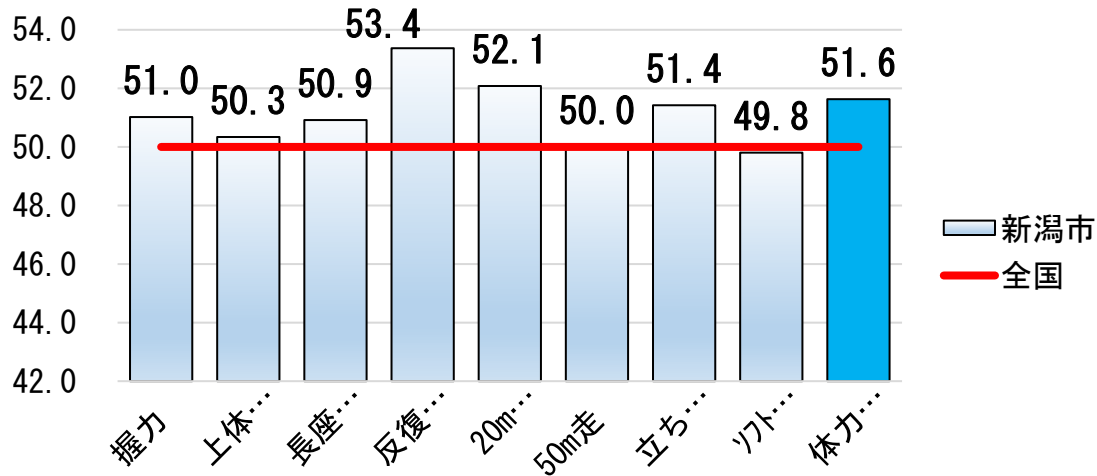
■実技集計

小学校 5年女子	握力(kg)				上体起こし(回)				長座体前屈(cm)				反復横とび(点)			
	標本数	平均値	標準偏差	T得点	標本数	平均値	標準偏差	T得点	標本数	平均値	標準偏差	T得点	標本数	平均値	標準偏差	T得点
全国	479,049	16.02	3.93	50.0	476,292	18.05	5.45	50.0	477,449	38.47	9.08	50.0	475,531	38.74	7.49	50.0
新潟市	2,833	16.42	3.92	51.0	2,831	18.23	5.31	50.3	2,833	39.26	8.61	50.9	2,825	41.13	7.09	53.4

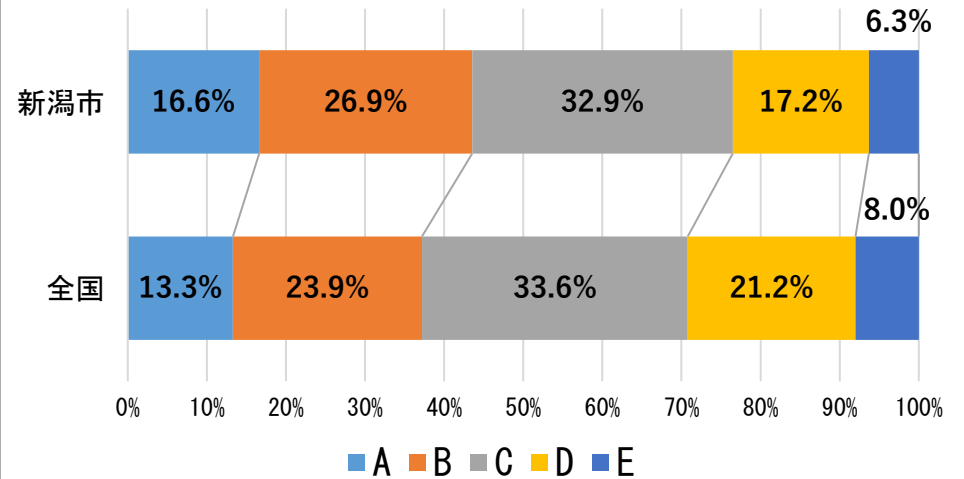
小学校 5年女子	20mシャトルラン(回)				50m走(秒)				立ち幅とび(cm)			
	標本数	平均値	標準偏差	T得点	標本数	平均値	標準偏差	T得点	標本数	平均値	標準偏差	T得点
全国	470,024	36.81	16.03	50.0	474,460	9.71	0.94	50.0	475,375	144.34	22.24	50.0
新潟市	2,803	40.21	16.34	52.1	2,818	9.71	0.93	50.0	2,819	147.38	21.37	51.4

小学校 5年女子	ソフトボール投げ(m)				体力合計点(点)				総合評価(%)					
	標本数	平均値	標準偏差	T得点	標本数	平均値	標準偏差	T得点	標本数	A	B	C	D	E
全国	474,127	13.22	4.76	50.0	446,900	54.29	9.00	50.0	485,726	13.3%	23.9%	33.6%	21.2%	8.0%
新潟市	2,823	13.13	4.60	49.8	2,742	55.72	8.77	51.6	2,846	16.6%	26.9%	32.9%	17.2%	6.3%

小5女子 実技調査T得点 (図2)



総合評価 (小5女子)



【中学校2年男子】

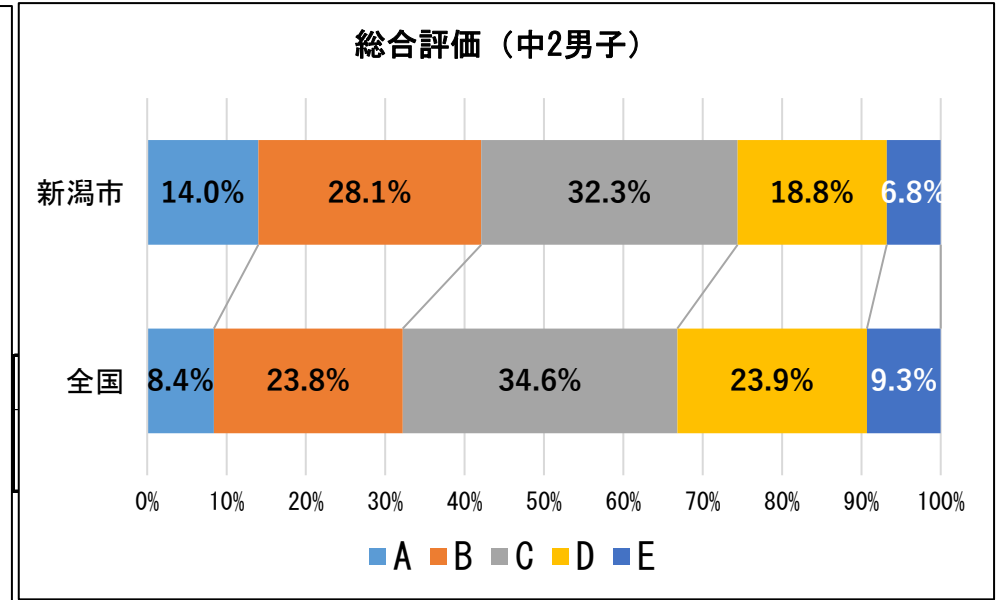
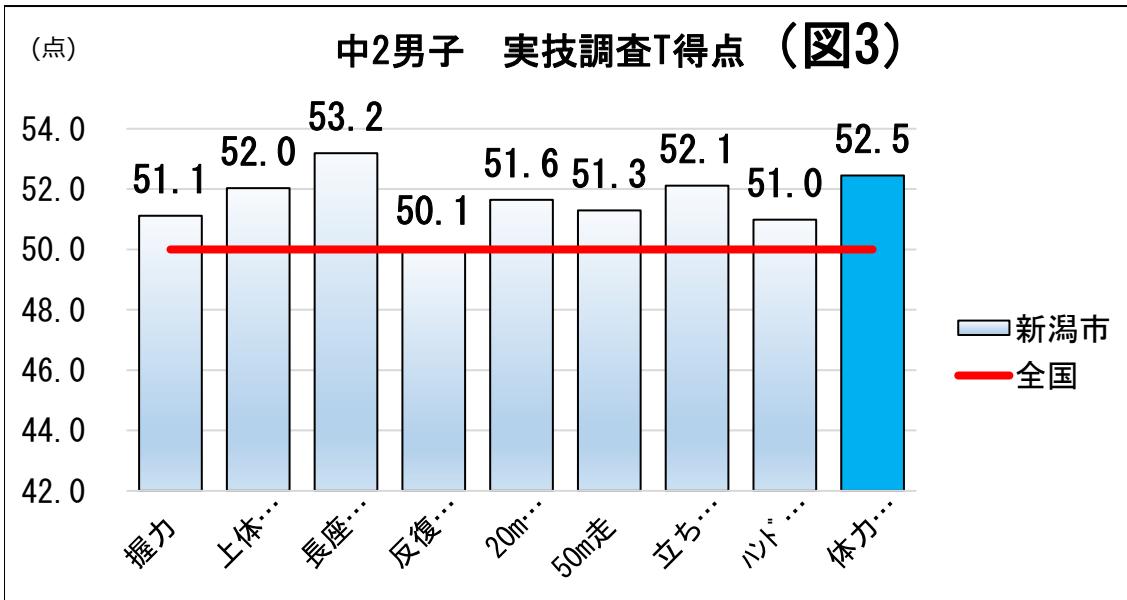
資料3

新潟市教育委員会

中学校 2年男子	握力(kg)				上体起こし(回)				長座体前屈(cm)				反復横とび(点)			
	標本数	平均値	標準偏差	T得点	標本数	平均値	標準偏差	T得点	標本数	平均値	標準偏差	T得点	標本数	平均値	標準偏差	T得点
全国	464,802	28.98	7.25	50.0	460,636	25.71	6.24	50.0	461,675	44.04	11.18	50.0	458,147	51.19	8.77	50.0
新潟市	2,764	29.78	7.16	51.1	2,747	26.98	6.25	52.0	2,755	47.68	11.41	53.2	2,740	51.26	8.94	50.1

中学校 2年男子	持久走(秒)				20mシャトルラン(回)				50m走(秒)				立ち幅とび(cm)			
	標本数	平均値	標準偏差	T得点	標本数	平均値	標準偏差	T得点	標本数	平均値	標準偏差	T得点	標本数	平均値	標準偏差	T得点
全国	170,410	409.92	68.82	50.0	327,681	77.76	25.44	50.0	454,090	8.01	0.95	50.0	458,075	196.97	30.41	50.0
新潟市	103	424.10	83.21	48.3	2,710	81.79	24.50	51.6	2,723	7.90	0.85	51.3	2,747	203.38	30.31	52.1

中学校 2年男子	ハンドボール投げ(m)				体力合計点(点)				総合評価(%)					
	標本数	平均値	標準偏差	T得点	標本数	平均値	標準偏差	T得点	標本数	A	B	C	D	E
全国	456,752	20.32	6.24	50.0	418,486	41.18	10.86	50.0	473,858	8.4%	23.8%	34.6%	23.9%	9.3%
新潟市	2,734	20.93	6.18	51.0	2,589	43.92	11.18	52.5	2,779	14.0%	28.1%	32.3%	18.8%	6.8%

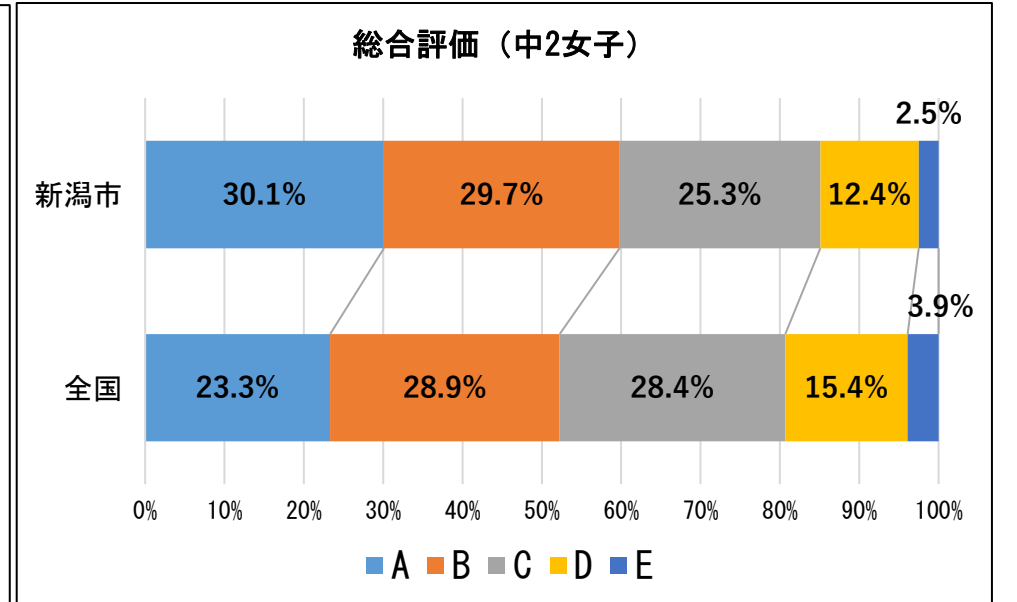
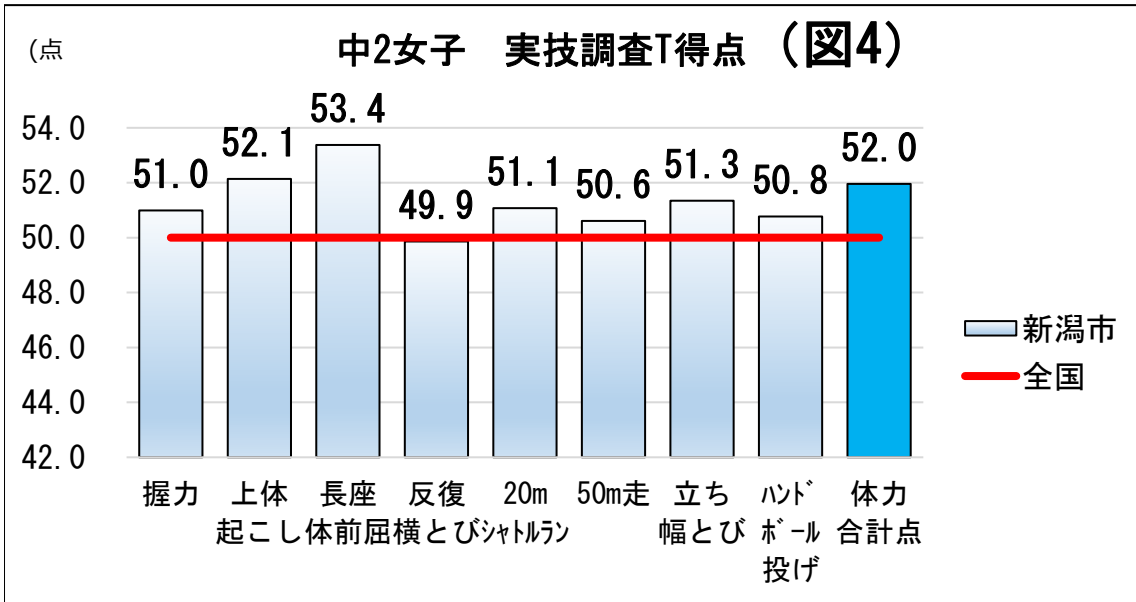


■実技集計

中学校 2年女子	握力(kg)				上体起こし(回)				長座体前屈(cm)				反復横とび(点)			
	標本数	平均値	標準偏差	T得点	標本数	平均値	標準偏差	T得点	標本数	平均値	標準偏差	T得点	標本数	平均値	標準偏差	T得点
全国	435,662	23.17	4.70	50.0	439,169	21.53	5.99	50.0	440,966	46.26	10.66	50.0	436,578	45.65	7.34	50.0
新潟市	2,808	23.62	4.54	51.0	2,797	22.81	5.98	52.1	2,797	49.91	10.81	53.4	2,791	45.55	7.17	49.9

中学校 2年女子	持久走(秒)				20mシャトルラン(回)				50m走(秒)				立ち幅とび(cm)			
	標本数	平均値	標準偏差	T得点	標本数	平均値	標準偏差	T得点	標本数	平均値	標準偏差	T得点	標本数	平均値	標準偏差	T得点
全国	160,588	307.02	49.35	50.0	310,468	50.46	19.49	50.0	430,850	8.95	0.89	50.0	436,298	166.21	26.39	50.0
新潟市	106	322.56	55.23	47.2	2,746	52.52	19.16	51.1	2,764	8.90	0.82	50.6	2,790	169.62	25.34	51.3

中学校 2年女子	ハンドボール投げ(m)				体力合計点(点)				総合評価(%)					
	標本数	平均値	標準偏差	T得点	標本数	平均値	標準偏差	T得点	標本数	A	B	C	D	E
全国	434,603	12.36	4.23	50.0	398,855	47.08	11.69	50.0	450,122	23.3%	28.9%	28.4%	15.4%	3.9%
新潟市	2,790	12.67	4.02	50.8	2,660	49.35	11.59	52.0	2,821	30.1%	29.7%	25.3%	12.4%	2.5%



令和5年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査について

【児童・生徒質問紙】		設問1 運動やスポーツをすることが好き	設問2 朝食を毎日食べる	設問3 体育・保健体育の授業は楽しい	設問4 目標を意識した学習で、できたり分かったりする	設問5 友達と助け合ったり教えあったりする学習で、できたり分かったりする	設問6 ICTを使って学習することで、できたり分かったりする	設問7 保健で学んだ運動、食事、休養および睡眠に気をつけた生活を送っている
小学校 5年男子	全国	92.9%	95.9%	94.6%	82.9%	82.9%	55.4%	82.6%
	新潟市	93.7%	97.4%	93.9%	84.5%	83.8%	66.8%	85.1%
小学校 5年女子	全国	85.7%	96.3%	89.9%	82.1%	85.4%	57.2%	82.9%
	新潟市	87.1%	97.6%	90.5%	84.4%	87.2%	70.0%	86.3%
中学校 2年男子	全国	89.2%	93.6%	89.4%	82.7%	84.1%	55.2%	78.0%
	新潟市	89.7%	95.2%	86.0%	84.7%	87.0%	67.5%	82.5%
中学校 2年女子	全国	76.4%	93.2%	82.6%	82.2%	85.9%	54.2%	70.9%
	新潟市	74.1%	95.2%	76.3%	84.5%	87.3%	69.6%	75.1%

※設問2、設問7等の間については全国的に上位にあり、健康的な生活を送ろうとする意識が見られる。

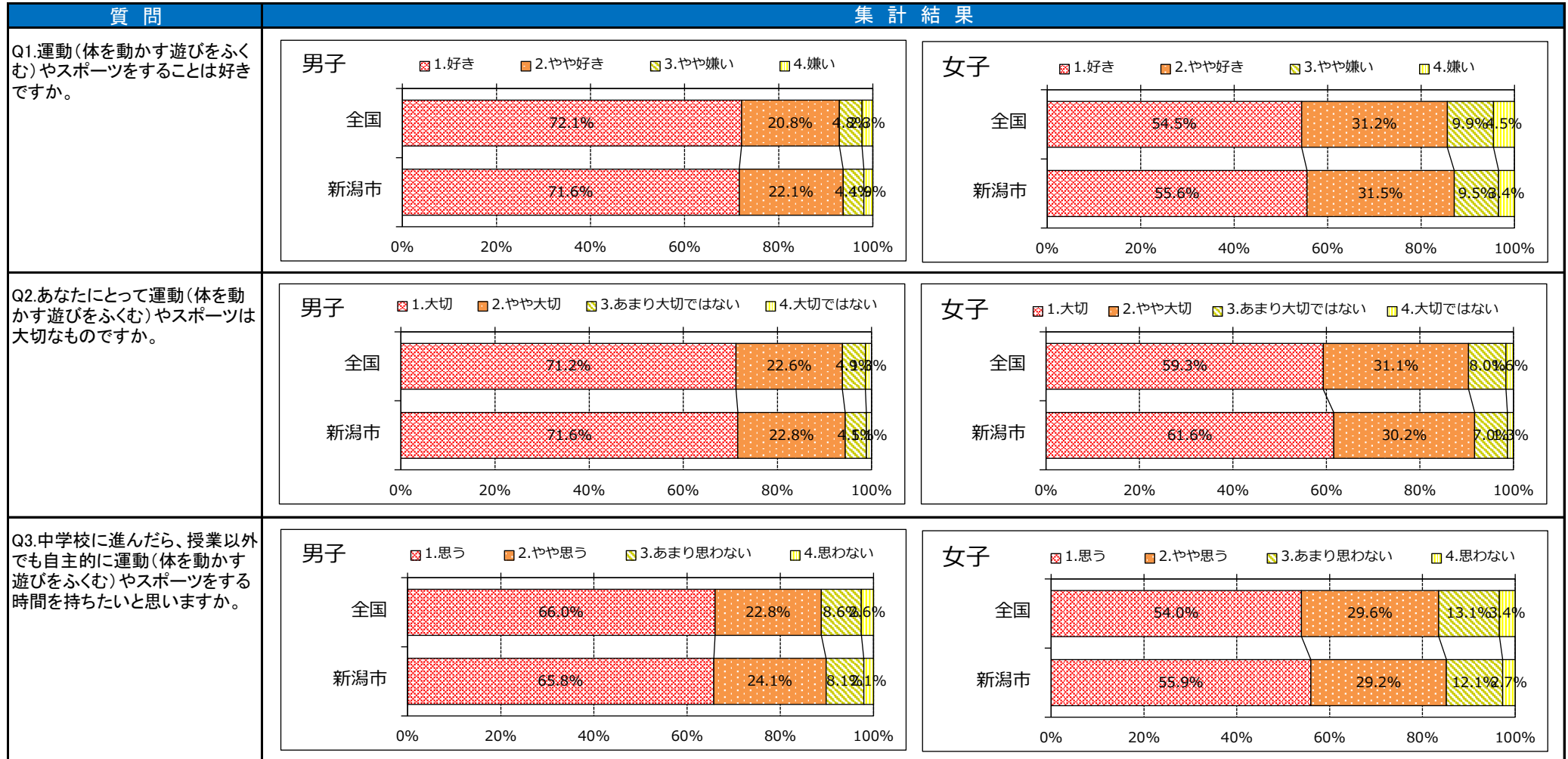
※設問1、設問3で、全国平均値を下回った項目（数値細字）があった。「できる」「わかる」授業を目指すとともに、「楽しさ」を実感できる授業づくりが求められる。

【学校質問紙】		設問1 体力・運動能力向上のための学校としての目標を設定している	設問2 体育・保体の授業で話し合う活動を全ての学年で行っている	設問3 体育・保体の授業でICTを活用している（毎時間～1週間に1回以上）	設問4 運動やスポーツが苦手（嫌い）な児童生徒に応じた取組を行っている	設問5 研修等に参加し、自校の体力向上に係る取組に反映させている	設問6 健康三原則の大切さを児童生徒に伝えている	設問7 運動やスポーツ、児童生徒の体力について家庭と連携している
小学校	全国	78.9%	60.2%	34.9%	50.8%	74.6%	92.6%	87.0%
	新潟市	92.3%	70.2%	46.2%	65.4%	77.9%	96.2%	95.2%
中学校	全国	69.1%	87.8%	49.0%	66.2%	77.5%	96.6%	68.5%
	新潟市	90.7%	100.0%	64.8%	77.8%	81.5%	98.1%	83.3%

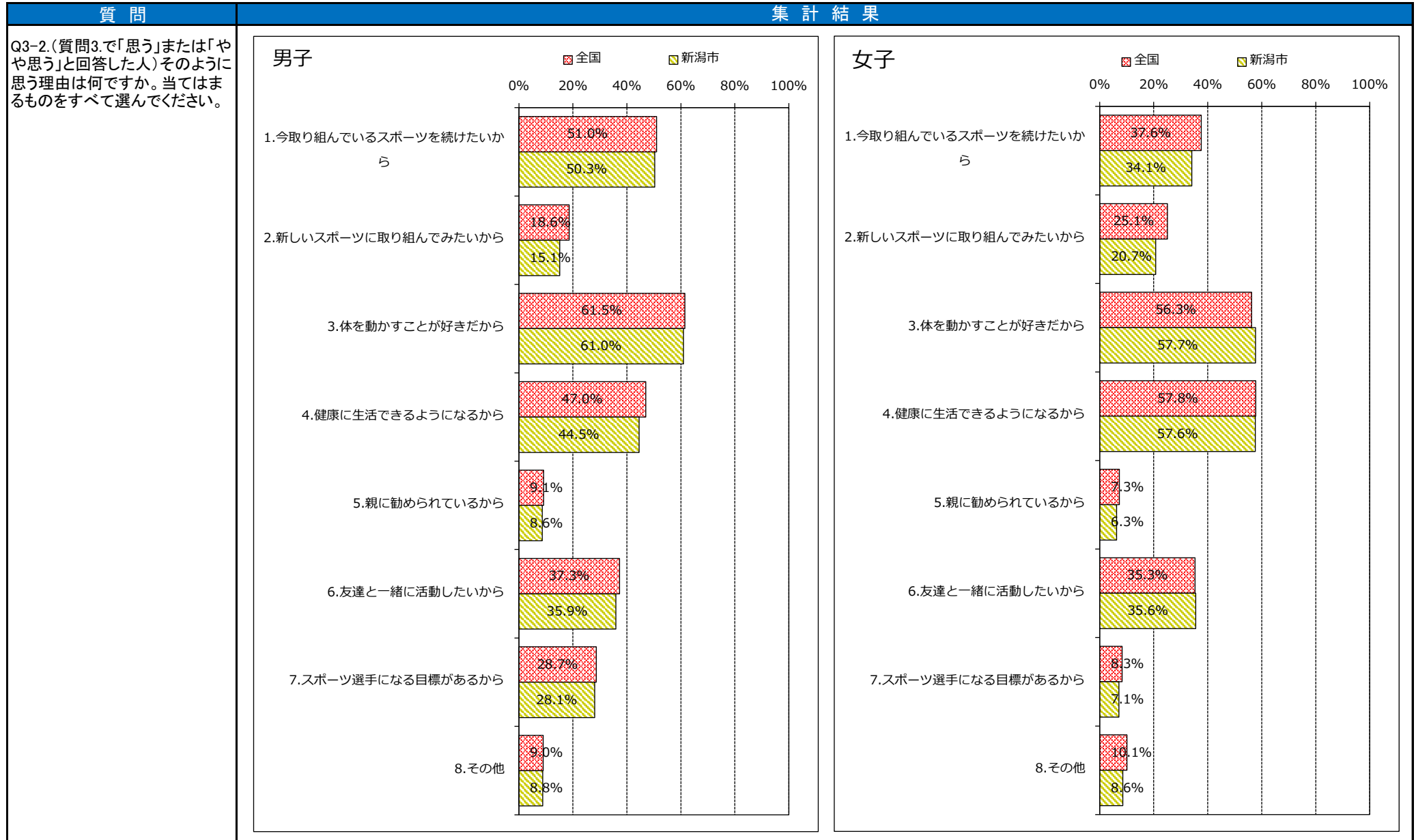
※例年、学校で「体力向上ジャンプアップ」の計画に基づいて目標を設定し、授業等を通じて児童生徒の体力向上に取り組んでいる学校が多い。

※互いの体の動きや試合の様子を撮り合って改善や作戦に生かすなど、授業でICTを有効活用し、運動が苦手な児童生徒にも応じた授業づくりを行っている。

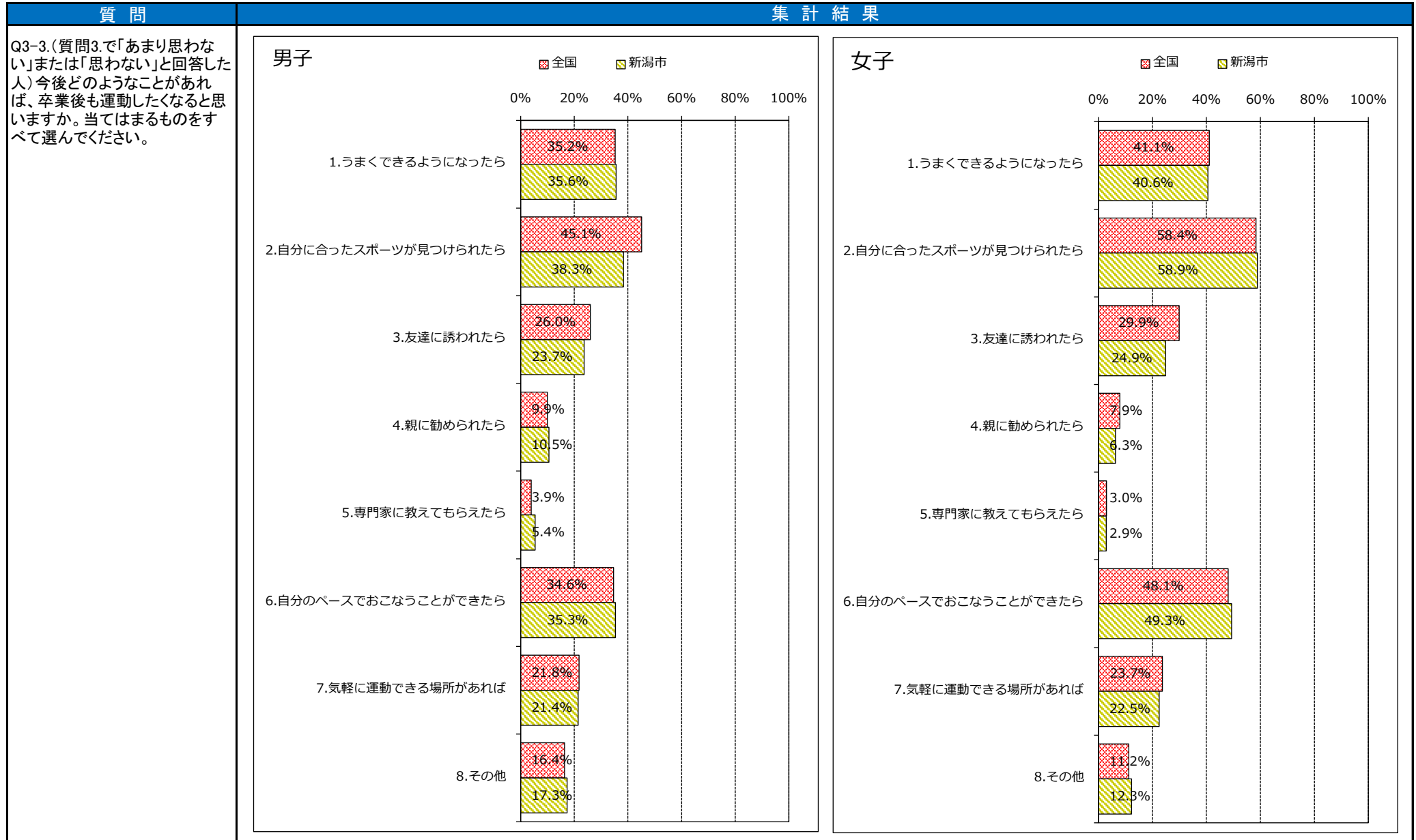
■児童質問紙集計



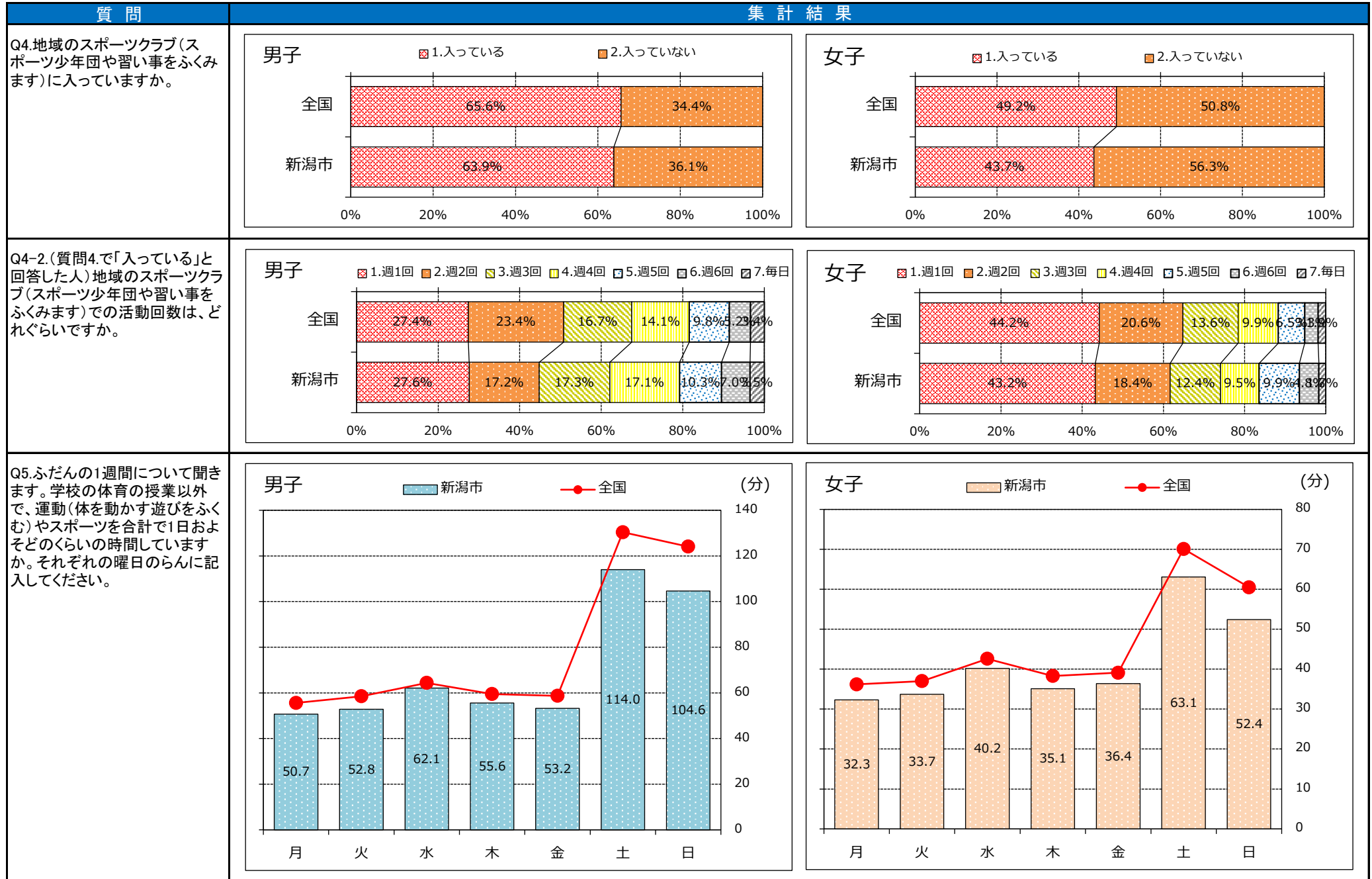
■児童質問紙集計



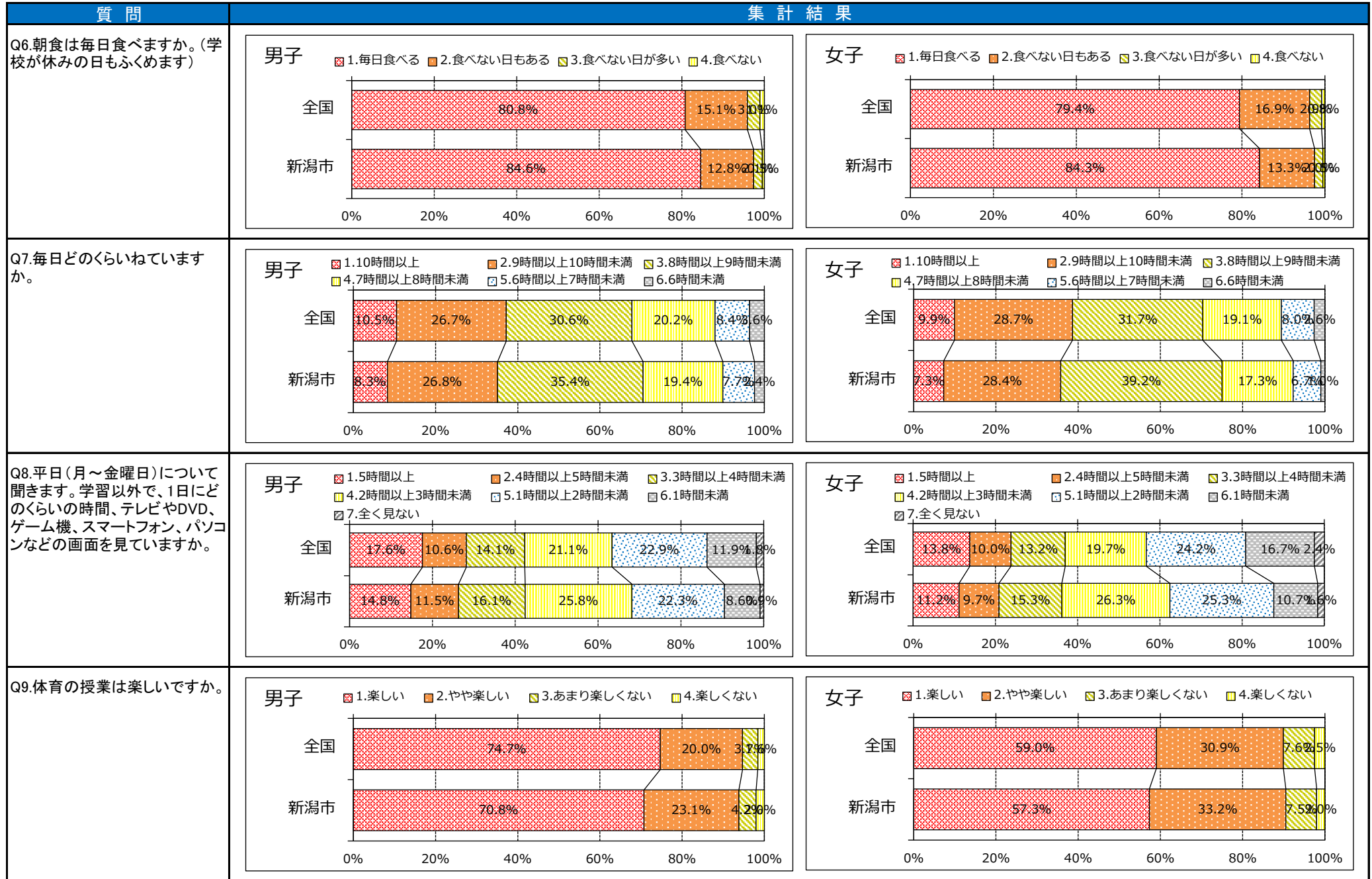
■児童質問紙集計



■児童質問紙集計



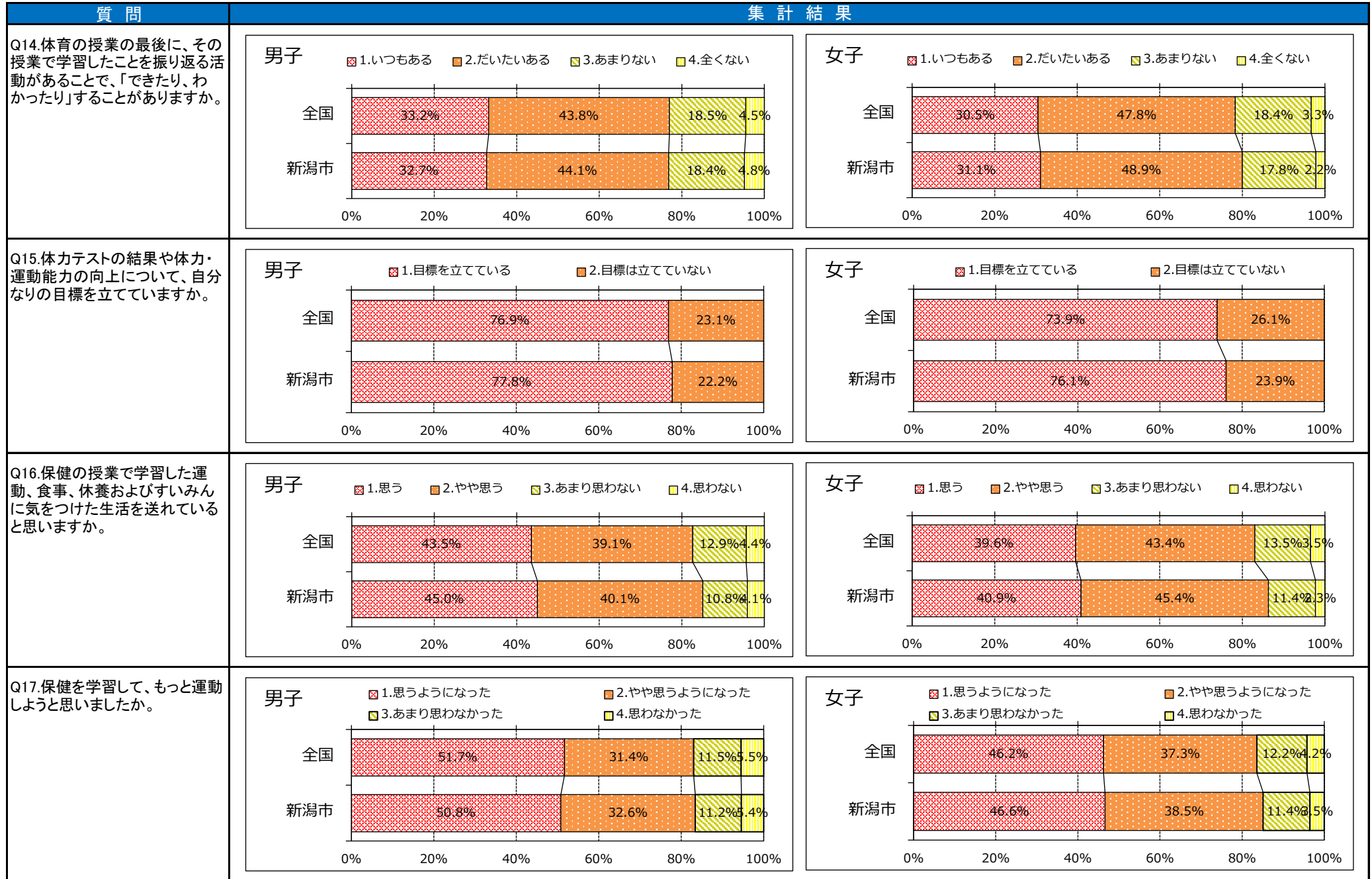
■児童質問紙集計



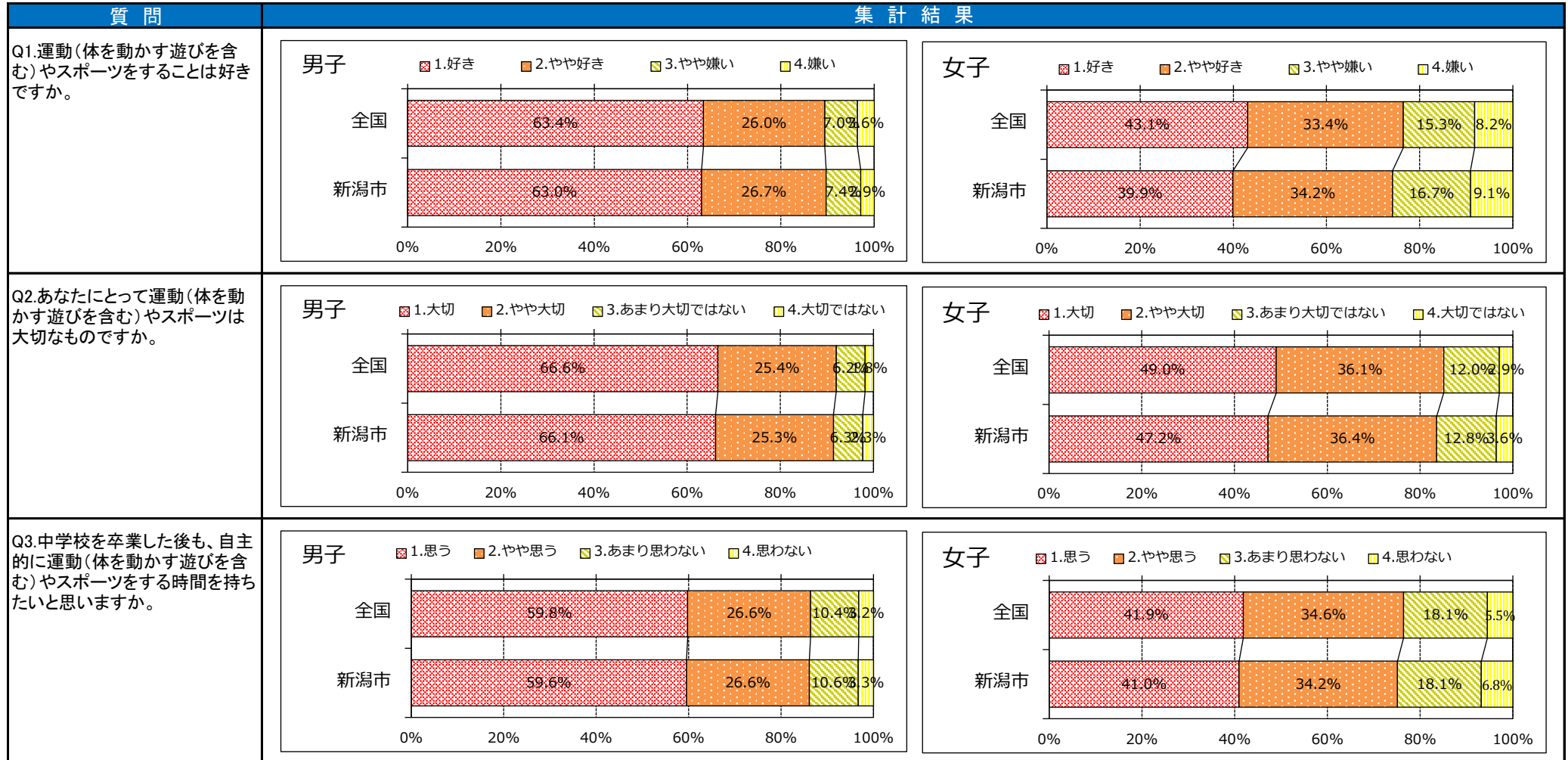
■児童質問紙集計



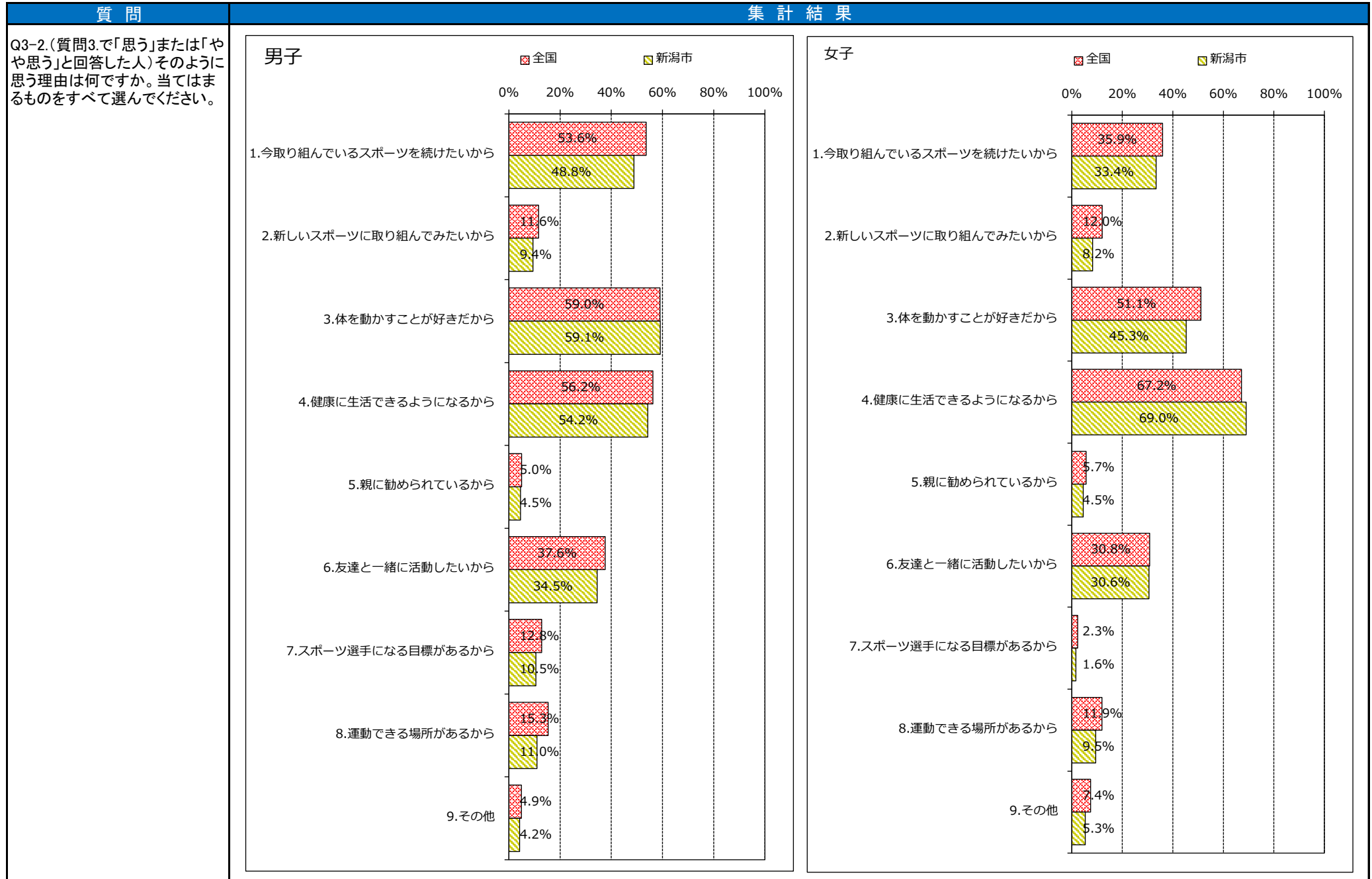
■児童質問紙集計



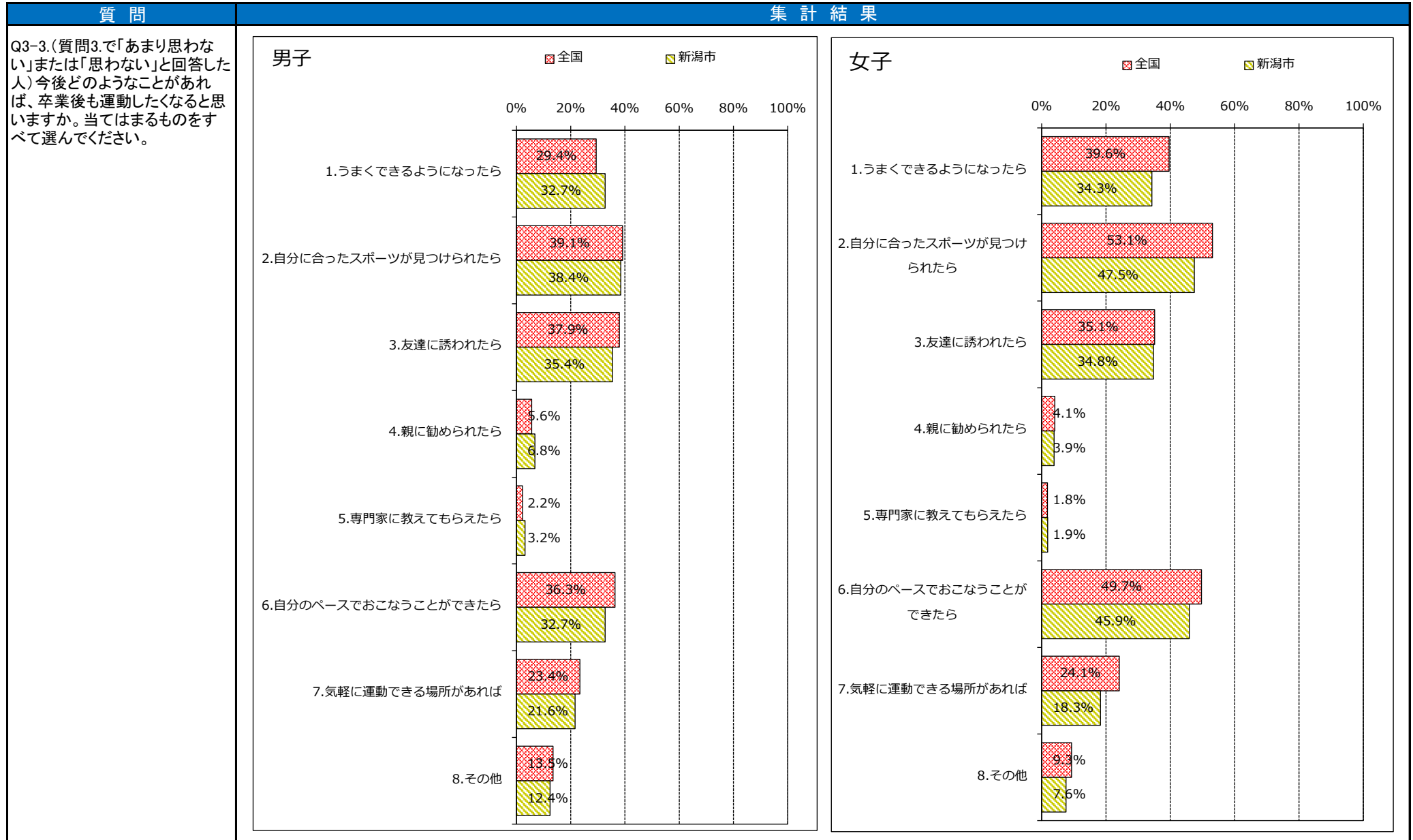
■生徒質問紙集計



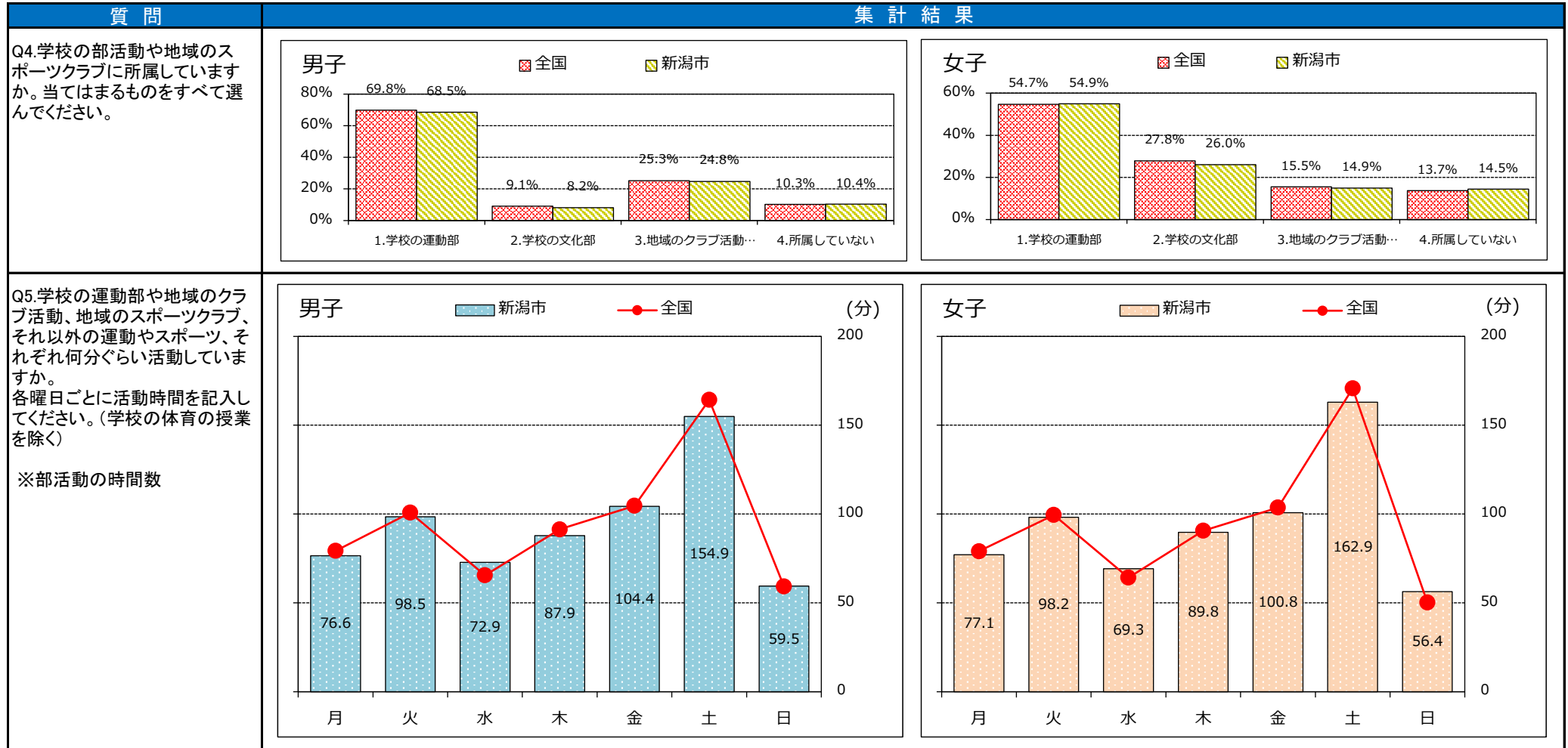
■生徒質問紙集計



■生徒質問紙集計



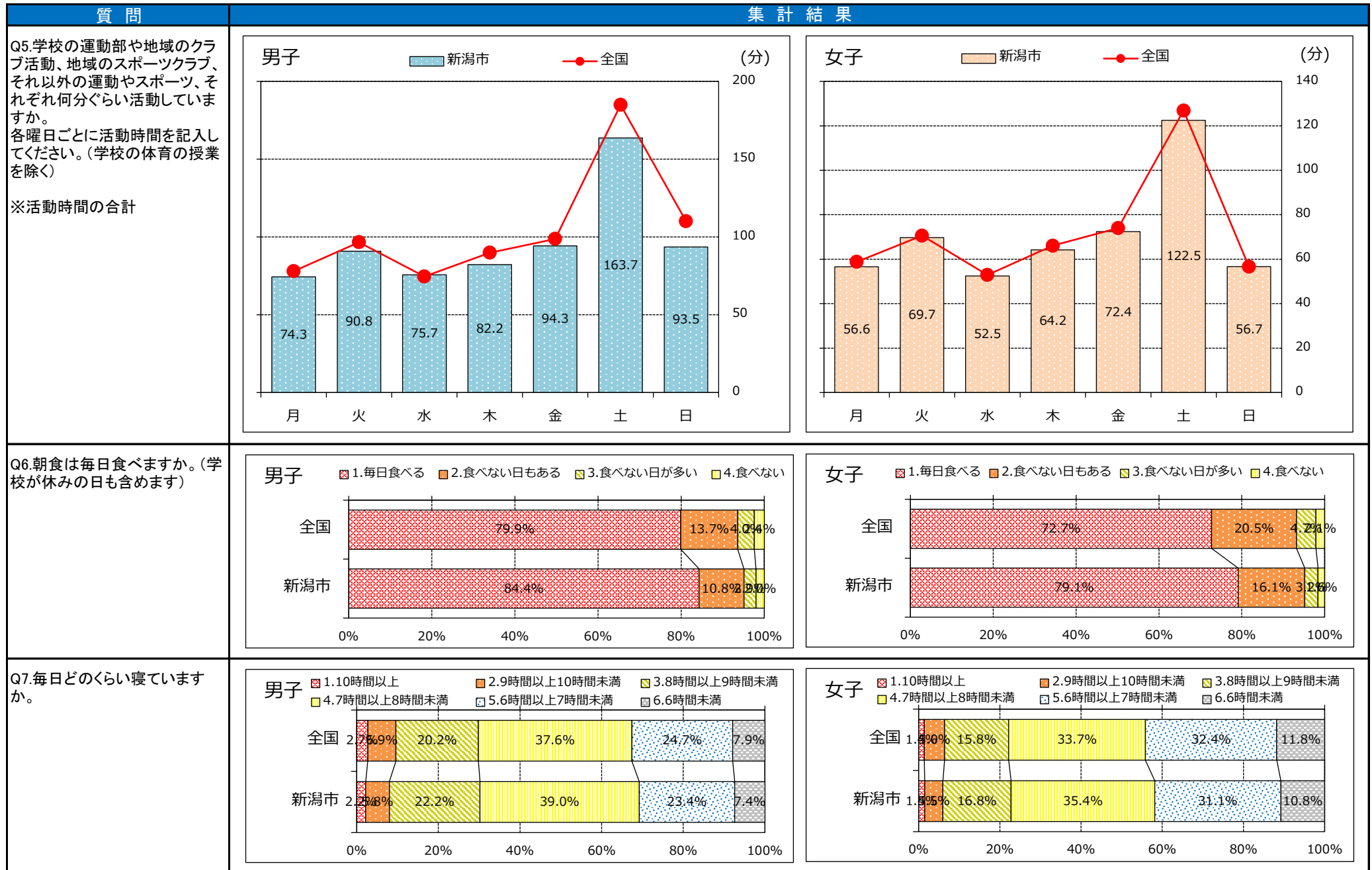
■生徒質問紙集計



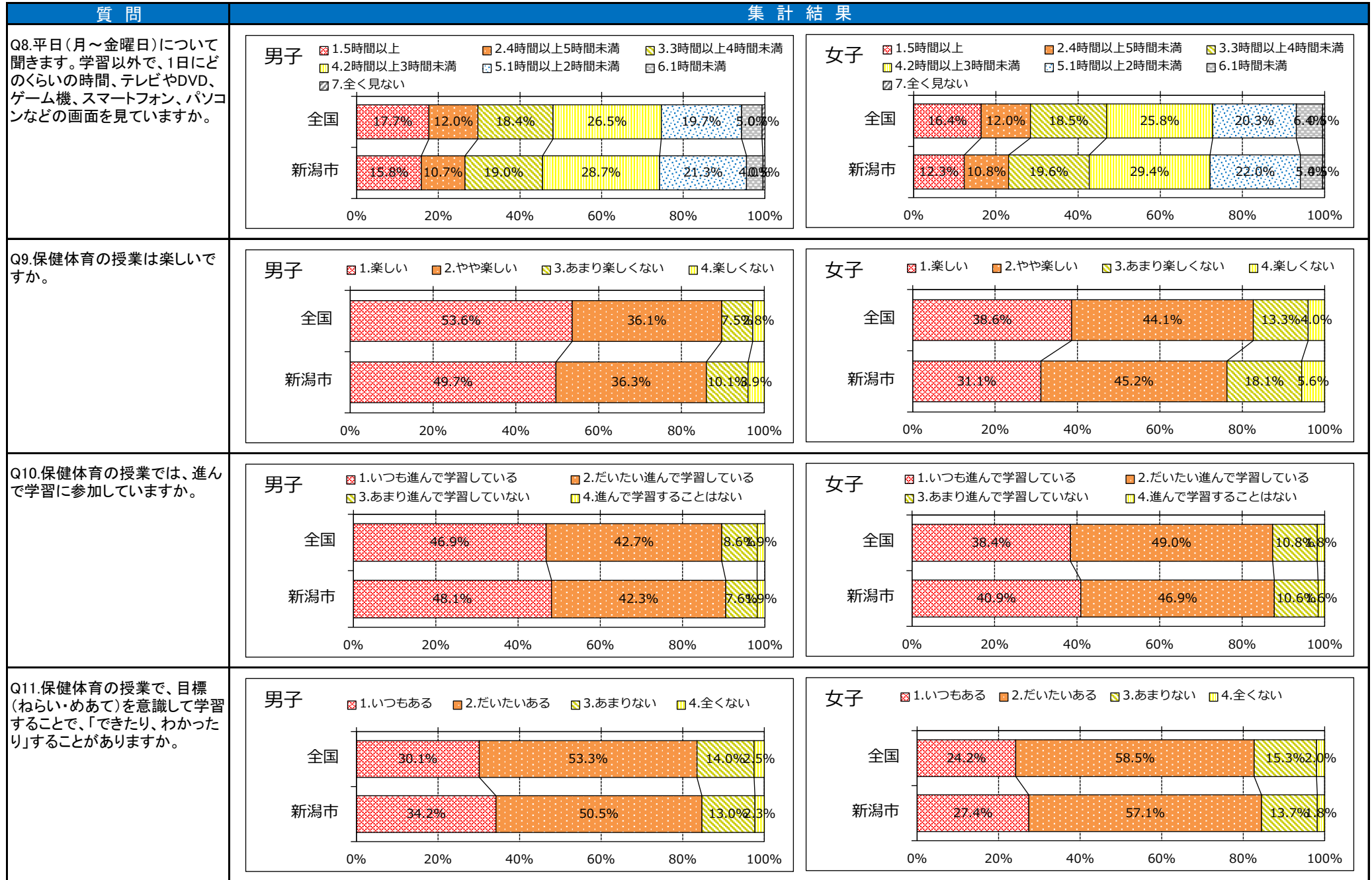
■生徒質問紙集計



■生徒質問紙集計



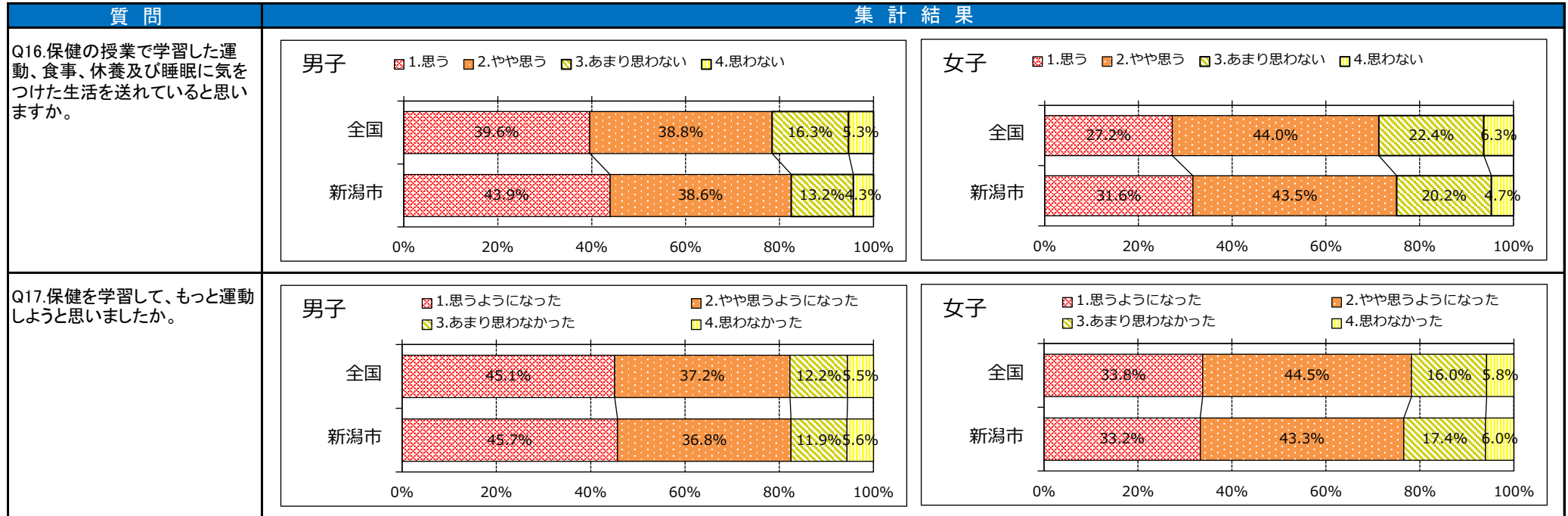
■生徒質問紙集計



■生徒質問紙集計



■生徒質問紙集計



■学校質問紙集計

小学校	調査数 (枚数)	集計項目	児童数(人)					
			全校			第5学年		
			男子	女子	合計	男子	女子	合計
全国	18,533	項目内回答率	158	151	309	28	26	54
新潟市	104	項目内回答率	176	167	343	33	31	63

の箇所は平均値です。

小学校	調査数 (枚数)	集計項目	Q1.前年度、学校全体の体力・運動能力向上の目標設定			Q2.前年度、学年としての体力・運動能力向上の目標設定			Q3.体育授業以外での、体力・運動能力の向上に係る取組			Q3-2.取組を行った期間				Q3-3.取組を行った時間(複数回答可)				
			1.設定していた	2.設定していなかった	3.設定しなかった	1.全学年で設定していた	2.一部の学年が設定していた	3.設定しなかった	1.全ての児童に対して行った	2.一部の学年の児童に対して行った	3.行っていない	1.年間を通して行った	2.半年程度行った	3.3か月程度行った	4.1か月程度行った	1.始業前	2.中休み	3.昼休み	4.放課後	5.その他
全国	18,533	項目内回答率	79.3%	20.7%	44.4%	18.6%	37.0%	79.6%	7.5%	12.9%	52.3%	7.3%	14.0%	26.3%	31.7%	60.0%	45.8%	7.8%	11.0%	
新潟市	104	項目内回答率	92.3%	7.7%	52.9%	16.3%	30.8%	74.0%	4.8%	21.2%	43.9%	7.3%	15.9%	32.9%	6.1%	50.0%	74.4%	6.1%	12.2%	

小学校	調査数 (枚数)	集計項目	Q3-4.活動の内容(複数回答可)								Q3-5.活動を行う上での取組(複数回答可)						
			1.なわとび	2.ランニング	3.体操	4.ボール運動	5.複合した活動	6.運動遊び	7.特定していない	8.その他	1.縦割り(異学年)での交流を行った	2.児童による自主的な準備・計画を取り入れた	3.学級対抗などの対戦形式を取り入れた	4.数値目標を設定した	5.記録カードなどを活用し自己の成果を記録した	6.児童が行える運動遊びの種類を多く設定した	7.その他
全国	18,533	項目内回答率	65.0%	55.9%	14.6%	22.7%	16.5%	32.5%	3.5%	10.7%	40.7%	41.1%	19.1%	33.5%	58.5%	22.9%	3.7%
新潟市	104	項目内回答率	56.1%	45.1%	7.3%	28.0%	20.7%	40.2%	2.4%	12.2%	36.6%	50.0%	18.3%	25.6%	59.8%	35.4%	1.2%

小学校	調査数 (枚数)	集計項目	Q3-6.教師の参加状況			Q3-7.取組時間の変化			Q4.研修や研究会に参加し、体力・運動能力の向上に係る取組に反映				Q5.運動・スポーツが苦手な児童向けの取組、能力差に応じた取組		
			1.全教師が参加する	2.該当学年の担当教師が参加する	3.一部担当教師が参加する	1.増えた	2.ほとんど変わらない	3.減った	1.よくしている	2.どちらかといえばしている	3.あまりしていない	4.全くしていない	1.行っている	2.行う予定である	3.行っていない
全国	18,533	項目内回答率	57.0%	25.1%	17.9%	26.6%	70.3%	3.1%	14.6%	60.3%	24.2%	0.9%	50.7%	29.2%	20.2%
新潟市	104	項目内回答率	40.2%	25.6%	34.1%	12.2%	84.1%	3.7%	12.5%	65.4%	22.1%	0.0%	65.4%	25.0%	9.6%

■学校質問紙集計

小学校	調査数 (枚数)	集計項目	Q6.調査結果を踏まえた 取り組み		Q6-2 取り組み内容 (複数回答可)							体育の授業について							
												Q7.体育授業の 目標を児童に 示す活動				Q8.体育授業の 振り返り活動			
												1.いつも 取り入れている	2.だいたい 取り入れている	3.あまり 取り入っていない	4.全く 取り入っていない	1.いつも 取り入れている	2.だいたい 取り入れている	3.あまり 取り入っていない	4.全く 取り入っていない
全国	18,533	項目内回答率	55.7%	27.5%	16.8%	73.2%	58.9%	25.6%	6.6%	15.5%	1.6%	46.4%	51.0%	2.6%	0.1%	33.8%	60.7%	5.3%	0.1%
新潟市	104	項目内回答率	55.8%	26.9%	17.3%	83.7%	44.2%	25.6%	3.5%	11.6%	1.2%	30.8%	66.3%	2.9%	0.0%	19.2%	73.1%	7.7%	0.0%

小学校	調査数 (枚数)	集計項目	体育の授業について											
			Q9.体育授業で児童同士が 助け合い、役割を果たす活動				Q10.体育授業で児童同士で 話し合う活動			Q11.体育授業でのICT活用頻度				
			1.いつも 取り入れている	2.だいたい 取り入れている	3.あまり 取り入っていない	4.全く 取り入っていない	1.全ての 学年で取り 入れている	2.一部の 学年で取り 入れている	3.取り入 れていない	1.毎時間 活用して いる	2.週に1 時間程度 活用して いる	3.月に1 時間程度 活用して いる	4.年に数 時間程度 活用して いる	5.ICTを 活用して いない
全国	18,533	項目内回答率	39.2%	58.8%	1.9%	0.1%	60.3%	38.3%	1.3%	4.0%	30.9%	35.4%	26.7%	2.9%
新潟市	104	項目内回答率	35.6%	62.5%	1.9%	0.0%	70.2%	29.8%	0.0%	5.8%	40.4%	38.5%	15.4%	0.0%

小学校	調査数 (枚数)	集計項目	体育の授業について															
			Q11-2.(体育授業でICTを活用している場合) 活用内容(複数回答可)					Q12.体育の授業で大切にしていること(上位3つ)										
			1.児童の 動きを撮影し、児童 同士で確認	2.ゲーム や試合の様子を撮影し、作 戦の参考に にする	3.以前に 撮影した 動きと比 較し、変 容を確認	4.毎時間 記録し、 技能向上 に役立 てる	5.その他	1.体を動 かすこと の楽しさ を実感さ せること	2.技や動 きができ るよう になること	3.仲間と 協力して 課題を解 決させる こと	4.苦手意 識を持た せないこと	5.運動量 を確保す ること	6.学習し たことを 実生活に 生かせる ようにす る	7.動きの ポイント などの知 識を理 解させる こと	8.自ら工 夫して練 習やゲー ムが出来 るように すること	9.技能の 程度、障 害の有無 等に係 わらず、 共に学 習させ ること	10.運動 領域と保 健領域の 関連を 図ること	11.その他
全国	18,533	項目内回答率	91.4%	35.0%	61.4%	15.6%	7.1%	93.9%	35.9%	55.2%	17.6%	60.0%	3.3%	10.6%	13.3%	7.8%	0.3%	0.5%
新潟市	104	項目内回答率	84.6%	56.7%	62.5%	19.2%	5.8%	98.1%	34.6%	48.1%	21.2%	59.6%	1.0%	13.5%	10.6%	5.8%	1.0%	1.0%

■学校質問紙集計

小学校	調査数 (枚数)	集計項目	体育の授業について											
			Q13.体育の授業での課題(上位3つ)											
			1.体づくり 運動系の 指導	2.器械運 動系の指 導	3.陸上運 動系の指 導	4.水泳運 動系の指 導	5.ボール 運動系の 指導	6.表現運 動系の指 導	7.個に応 じた指導	8.学級全 体に目を 行き渡せ ること	9.評価の 方法	10.運動 が苦手な 児童への 対応	11.障害 のある児 童への対 応	12.その 他
全国	18,533	項目内回答率	16.3%	32.5%	8.8%	30.8%	13.4%	32.8%	47.5%	16.1%	34.1%	54.0%	9.0%	1.2%
新潟市	104	項目内回答率	14.4%	15.4%	8.7%	31.7%	13.5%	39.4%	49.0%	19.2%	35.6%	56.7%	8.7%	1.0%

小学校	調査数 (枚数)	集計項目	体育の授業について										
			Q14.家庭との連携について(複数回答可)							Q15.健康三原則の大切さを伝えているか			
			1.一緒に 運動やス ポーツを する機会 を設ける	2.啓発す るための 資料を配 布	3.生活習 慣改善に ついての 資料を配 布	4.地域の 運動行事 に参加す るよう促 す	5.体力に 関する調 査結果を 家庭に連 絡する	6.その他	7.特に連 携はして いない	1.計画的 に伝える ようにし ている	2.機会を とらえて 適宜伝え ている	3.担当や 担任に任 せている	4.特に伝 えていな い
全国	18,533	項目内回答率	11.3%	31.4%	36.3%	23.1%	51.1%	1.5%	12.8%	34.4%	58.3%	7.0%	0.4%
新潟市	104	項目内回答率	8.7%	21.2%	66.3%	15.4%	51.9%	0.0%	4.8%	46.2%	50.0%	3.8%	0.0%

小学校	調査数 (枚数)	集計項目	体育の授業について													
			Q16.体育授業での 教科担任制の導入		Q16-2.(教科担任制を導入している場合) 具体的な取組(複数回答可)					Q16-3.(教科担任制を導入している場合) 実施学年(複数回答可)						
			1.導入し ている	2.導入し ていない	1.常勤、 非常勤の 体育専科 教員の配 置	2.校内教 員の授業 交換	3.地域の 複数小学 校との連 携	4.地域の 中学校と の連携	5.その他	1.第1学 年	2.第2学 年	3.第3学 年	4.第4学 年	5.第5学 年	6.第6学 年	7.特別支 援学級
全国	18,533	項目内回答率	27.0%	73.0%	19.3%	80.6%	1.1%	4.7%	2.4%	26.0%	30.8%	39.6%	47.0%	72.2%	74.3%	12.8%
新潟市	104	項目内回答率	16.3%	83.7%	5.9%	94.1%	0.0%	0.0%	0.0%	35.3%	35.3%	35.3%	41.2%	64.7%	70.6%	5.9%

■学校質問紙集計

小学校	調査数 (枚数)	集計項目	体育の授業について															
			Q17.体育専科教員の配置状況															
			令和4年度								令和5年度							
			常勤				非常勤				常勤				非常勤			
1人	2人	3人以上	0人	1人	2人	3人以上	0人	1人	2人	3人以上	0人	1人	2人	3人以上	0人			
全国	18,533	項目内回答率	3.9%	0.7%	1.1%	94.3%	2.1%	0.2%	0.2%	97.5%	4.6%	0.8%	1.1%	93.5%	2.4%	0.2%	0.2%	97.3%
新潟市	104	項目内回答率	1.0%	0.0%	0.0%	99.0%	1.0%	0.0%	0.0%	99.0%	0.0%	0.0%	1.0%	99.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

小学校	調査数 (枚数)	集計項目	体育の授業について													
			Q18.学校外の人材の活用人数							Q18-2.(Q18で活用している人数が1人以上と回答した学校) 学校外の人材の活用領域(複数回答可)						
			1人	2人	3人	4人	5人以上	0人	1.体づくり 運動系	2.器械運 動系	3.陸上運 動系	4.水泳運 動系	5.ボール 運動系	6.表現運 動系	7.保健	
全国	18,533	項目内回答率	11.7%	6.5%	4.1%	2.1%	7.6%	67.9%	24.0%	16.7%	29.6%	46.1%	33.1%	14.3%	6.3%	
新潟市	104	項目内回答率	5.8%	4.8%	1.9%	2.9%	10.6%	74.0%	18.5%	7.4%	18.5%	74.1%	11.1%	3.7%	3.7%	

小学校	調査数 (枚数)	集計項目	体育の授業について									
			Q19.実施学年(複数回答可)						Q20.運動領域と保健領域との関連			
			1.第1学年	2.第2学年	3.第3学年	4.第4学年	5.第5学年	6.第6学年	1.図って いる	2.やや 図ってい る	3.あまり 図ってい ない	4.図って いない
全国	18,533	項目内回答率	76.1%	78.2%	83.8%	89.0%	99.0%	90.3%	33.6%	49.5%	15.8%	1.1%
新潟市	104	項目内回答率	74.5%	75.5%	99.0%	100.0%	99.0%	100.0%	32.7%	54.8%	12.5%	0.0%

■学校質問紙集計

中学校	調査数 (枚数)	集計項目	生徒数(人)					
			全校			第2学年		
			男子	女子	合計	男子	女子	合計
全国	9,202	項目内回答率	153	144	297	51	48	99
新潟市	54	項目内回答率	159	155	314	52	52	104

の箇所は平均値です。

中学校	調査数 (枚数)	集計項目	Q1.前年度、学校全体の体力・運動能力向上の目標設定			Q2.前年度、学年としての体力・運動能力向上の目標設定			Q3.体育授業以外での、体力・運動能力の向上に係る取組			Q3-2.取組を行った期間				Q3-3.取組を行った時間(複数回答可)				
			1.設定していた	2.設定していなかった	3.設定しなかった	1.全学年で設定していた	2.一部の学年が設定していた	3.設定しなかった	1.全ての生徒に対して行った	2.一部の生徒に対して行った	3.行っていない	1.年間を通して行った	2.半年程度行った	3.3か月程度行った	4.1か月程度行った	1.始業前	2.中休み	3.昼休み	4.放課後	5.その他
全国	9,202	項目内回答率	71.5%	28.5%	50.0%	7.5%	42.5%	43.6%	10.3%	46.2%	63.3%	6.8%	10.0%	20.0%	25.0%	2.6%	35.2%	31.9%	27.0%	
新潟市	54	項目内回答率	90.7%	9.3%	75.9%	0.0%	24.1%	57.4%	1.9%	40.7%	81.3%	6.3%	9.4%	3.1%	25.0%	3.1%	68.8%	25.0%	12.5%	

中学校	調査数 (枚数)	集計項目	Q3-4.活動の内容(複数回答可)								Q3-5.活動を行う上での取組(複数回答可)						
			1.なわとび	2.ランニング	3.体操	4.ボール運動	5.複合した活動	6.運動遊び	7.特定していない	8.その他	1.縦割り(異学年)での交流を行った	2.生徒による自主的な準備・計画を取り入れた	3.学級対抗などの対戦形式を取り入れた	4.数値目標を設定した	5.記録カードなどを活用し自己の成果を記録した	6.生徒が行える運動遊びの種類を多く設定した	7.その他
全国	9,202	項目内回答率	15.2%	43.6%	16.1%	26.9%	23.9%	19.2%	13.5%	15.3%	34.4%	50.4%	19.0%	21.7%	17.0%	22.0%	6.8%
新潟市	54	項目内回答率	0.0%	31.3%	15.6%	59.4%	31.3%	28.1%	3.1%	12.5%	25.0%	81.3%	37.5%	12.5%	9.4%	37.5%	3.1%

中学校	調査数 (枚数)	集計項目	Q3-6.教師の参加状況			Q3-7.取組時間の変化			Q4.研修や研究会に参加し、体力・運動能力の向上に係る取組に反映			
			1.全教師が参加する	2.該当学年の担当教師が参加する	3.一部担当教師が参加する	1.増えた	2.ほとんど変わらない	3.減った	1.よくしている	2.どちらかといえばしている	3.あまりしていない	4.全くしていない
全国	9,202	項目内回答率	22.5%	19.6%	57.8%	19.0%	77.5%	3.4%	17.4%	61.8%	19.3%	1.5%
新潟市	54	項目内回答率	9.4%	28.1%	62.5%	21.9%	75.0%	3.1%	13.0%	68.5%	18.5%	0.0%

■学校質問紙集計

中学校	調査数 (枚数)	集計項目	Q5.運動・スポーツが 苦手な生徒向けの 取組、能力差に応じた取組			Q6.調査結果を踏ま えた取組			Q6-2.どのような取組みをしたか (複数回答可)						保健体育の授業について Q7.その授業の目標を 生徒に示しているか			
			1.行っ ている	2.行 う予 定である	3.行っ て いない	1.し て い る	2.予 定 し て い る	3.し て い ない	1.保健 体育 の授 業 改 善 に 取 組 ん だ	2.保健 体育 の授 業 以 外 で 、 取 組 を 行 っ た	3.家 庭 や 保 護 者 へ 働 き か け を 行 っ た	4.地 域 と 連 携 し て 取 組 を 行 っ た	5.運 動 時 間 が 少 な い 生 徒 に 取 組 を 行 っ た	6.そ の 他	1.い つ も 取 り 入 れ て い る	2.だ い た い 取 り 入 れ て い る	3.あ ま り 取 り 入 れ て い ない	4.全 く 取 り 入 れ て い ない
全国	9,202	項目内回答率	66.5%	19.7%	13.7%	53.7%	28.0%	18.2%	95.6%	31.2%	11.4%	4.2%	9.8%	1.1%	67.0%	31.9%	0.9%	0.1%
新潟市	54	項目内回答率	77.8%	11.1%	11.1%	66.7%	22.2%	11.1%	97.9%	22.9%	12.5%	8.3%	16.7%	0.0%	59.3%	40.7%	0.0%	0.0%

中学校	調査数 (枚数)	集計項目	保健体育の授業について											
			Q8.保健体育授業で学習したことを 振り返る活動				Q9.保健体育授業で生徒同士が 助け合い、役割を果たす活動				Q10.保健体育授業での 生徒同士で話し合う活動			
			1.い つ も 取 り 入 れ て い る	2.だ い た い 取 り 入 れ て い る	3.あ ま り 取 り 入 れ て い ない	4.全 く 取 り 入 れ て い ない	1.い つ も 取 り 入 れ て い る	2.だ い た い 取 り 入 れ て い る	3.あ ま り 取 り 入 れ て い ない	4.全 く 取 り 入 れ て い ない	1.全 て の 学 年 で 取 り 入 れ て い る	2.一 部 の 学 年 で 取 り 入 れ て い る	3.取 り 入 れ て い な い	
全国	9,202	項目内回答率	53.4%	43.8%	2.6%	0.1%	47.8%	50.3%	1.7%	0.2%	88.9%	9.3%	1.8%	
新潟市	54	項目内回答率	64.8%	35.2%	0.0%	0.0%	55.6%	44.4%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	

中学校	調査数 (枚数)	集計項目	保健体育の授業について											
			Q11.保健体育授業でのICT活用頻度					Q11-2.活用内容(複数回答可)						
			1.毎 時 間 活 用 し て い る	2.週 に 1 時 間	3.月 に 1 時 間	4.年 に 数 時 間	5.ICT を 活 用 し て い ない	1.生 徒 の 動 き を 撮 影 し 、 生 徒 同 士 で 確 認	2.ゲ ー ム や 試 合 の 様 子 を 撮 影 し 、 作 戦 の 参 考 に す る	3.以 前 に 撮 影 し た 動 き と 比 較 し 、 変 容 を 確 認	4.毎 時 間 記 録 し 、 技 能 向 上 に 役 立 て る	5.教 師 の 業 務 改 善 に 活 用 し て い る	6.そ の 他	
全国	9,202	項目内回答率	12.6%	37.0%	26.3%	22.0%	2.2%	88.4%	35.2%	51.1%	17.2%	36.6%	7.9%	
新潟市	54	項目内回答率	24.1%	40.7%	27.8%	7.4%	0.0%	96.3%	44.4%	57.4%	24.1%	40.7%	3.7%	

■学校質問紙集計

中学校	調査数 (枚数)	集計項目	保健体育の授業について										
			Q12.保健体育の授業で大切にしていること (上位から3つ)										
			1.楽しさ を実感さ せる	2.技や動 きができ るように なる	3.仲間と 協力し課 題を解決 させる	4.苦手意 識を持た せない	5.運動量 を確保す る	6.実生活 に生かせ るように する	7.知識を 理解させ る	8.自ら工 夫して出 来よう にする	9.共に学 習させる	10.体育・ 保健分野 の関連を 図る	11.その他
全国	9,202	項目内回答率	91.0%	29.3%	63.7%	14.3%	48.7%	11.9%	12.7%	12.5%	11.7%	1.7%	0.8%
新潟市	54	項目内回答率	90.7%	25.9%	74.1%	13.0%	46.3%	0.0%	9.3%	29.6%	7.4%	1.9%	1.9%

中学校	調査数 (枚数)	集計項目	保健体育の授業について														
			Q13.保健体育の授業で課題に感じていること (上位から3つ)														
			1.体づくり 運動の指 導	2.器械運 動の指導	3.陸上競 技の指導	4.水泳の 指導	5.球技の 指導	6.武道の 指導	7.ダンス の指導	8.体育理 論の指導	9.個に応 じた指導	10.学級 全体に目 を行き渡 らせるこ と	11.評価 の方法	12.運動 が苦手な 生徒への 対応	13.障害 のある生 徒への対 応	14.共に 学習させ ること	15.その他
全国	9,202	項目内回答率	13.1%	14.3%	4.6%	28.0%	4.5%	26.5%	30.9%	9.7%	37.6%	12.3%	39.6%	36.3%	16.0%	19.0%	2.1%
新潟市	54	項目内回答率	1.9%	1.9%	0.0%	24.1%	5.6%	25.9%	24.1%	9.3%	48.1%	14.8%	48.1%	44.4%	18.5%	31.5%	0.0%

中学校	調査数 (枚数)	集計項目	保健体育の授業について											
			Q14.家庭との連携について (複数回答可)						Q15.健康三原則の大切さの伝達					
			1.一緒に 運動やス ポーツを する機会 を設ける	2.啓発す るための 資料を配 布	3.生活習 慣改善に ついての 資料を配 布	4.地域の 運動行事 に参加す るよう促 す	5.体力に 関する調 査結果を 家庭に連 絡する	6.その他	7.特に連 携はして いない	1.様々な 場面で計 画的に伝 えるよう にしている	2.機会を とらえて 適宜伝え ている	3.伝える かどうか は各担当 や担任に 任せてい る	4.特に伝 えていな い	
全国	9,202	項目内回答率	7.3%	18.8%	22.5%	19.3%	32.6%	2.0%	29.9%	33.9%	63.0%	2.7%	0.4%	
新潟市	54	項目内回答率	3.7%	22.2%	33.3%	14.8%	50.0%	0.0%	16.7%	37.0%	61.1%	1.9%	0.0%	

■学校質問紙集計

中学校	調査数 (枚数)	集計項目	保健体育の授業について														
			Q16.学校外の人材の活用人数					Q16-2.(Q16で活用している人数が1人以上と回答した学校) 学校外の人材の活用領域(複数回答可)									
			1人	2人	3人	4人	5人以上	0人	1.体づくり 運動	2.器械運 動	3.陸上競 技	4.水泳	5.球技	6.武道	7.ダンス	8.体育理 論	9.保健
全国	9,202	項目内回答率	11.1%	6.7%	4.2%	2.1%	4.7%	71.3%	7.5%	3.1%	6.3%	12.7%	9.1%	34.0%	23.9%	2.8%	40.6%
新潟市	54	項目内回答率	9.3%	7.4%	3.7%	3.7%	5.6%	70.4%	0.0%	0.0%	0.0%	12.5%	0.0%	18.8%	18.8%	0.0%	62.5%

中学校	調査数 (枚数)	集計項目	保健体育の授業について						
			Q17.実施学年 (複数回答可)			Q18.、体育分野と保健分野との関連			
			1.第1学 年	2.第2学 年	3.第3学 年	1.図っ ている	2.やや 図っ ている	3.あまり 図っ てい ない	4.図っ て いない
全国	9,202	項目内回答率	95.4%	99.2%	95.7%	48.2%	44.9%	6.4%	0.5%
新潟市	54	項目内回答率	100.0%	100.0%	100.0%	63.0%	33.3%	3.7%	0.0%

令和5年度 新潟県体力テスト 結果概要

- 調査対象校（国立及び特別支援学校を除き、新潟市を含む全公立学校）
 小学校等 433校（義務教育学校前期課程を含む＝以下「小学校」）
 中学校等 230校（義務教育学校後期課程、中等教育学校前期課程を含む＝以下「中学校」）
 高等学校等 92校（中等教育学校後期課程を含む＝以下「高等学校」）
- 調査期間
 令和5年5月から7月
- 調査内容
 小学校3年生以上、中学校、高等学校で8種目を指定して調査した。

番号	1	2	3	4	5	6	7	8
項目	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ボール投げ
要素	筋力	筋力 筋持久力	柔軟性	敏捷性	全身持久力	スピード	瞬発力	巧緻性 瞬発力

4 令和4年度の県平均値との比較

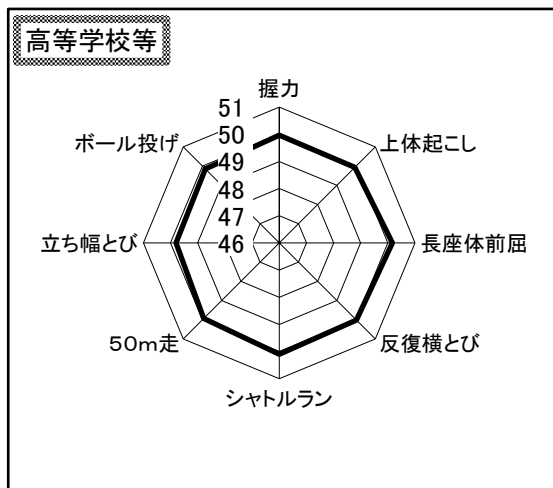
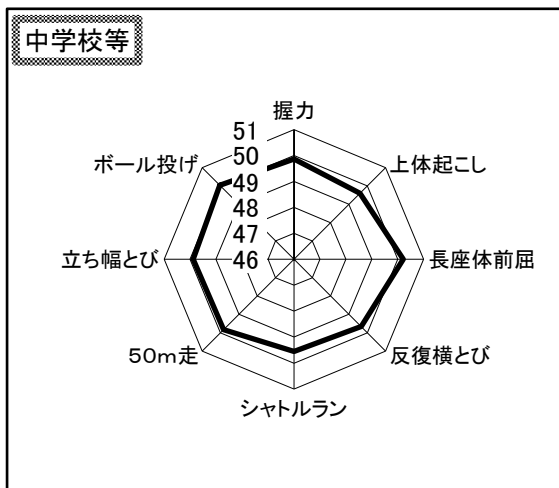
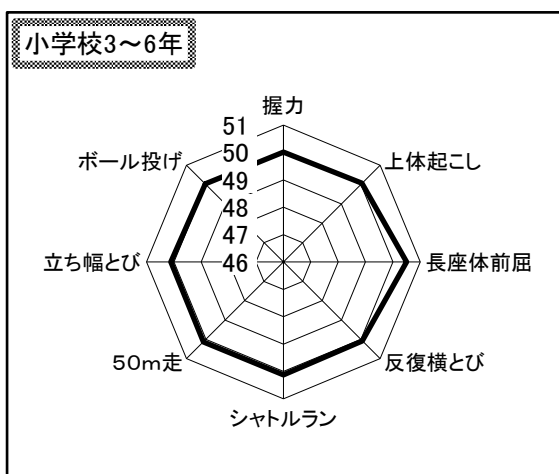
令和4年度の県平均値が「50」となるように統計処理をし、令和5年度の県平均値と比較した。小学校（3～6年生）では、令和4年度の結果を僅かではあるが、8種目すべてで上回った。一方、中学校では2種目、高等学校では3種目にとどまった。

各種目別の比較では、前年度との比較で最も高かったのは、小学校の上体起こしの50.46。

逆に最も低かったのは、中学校のシャトルランで49.55であった。

各学年の比較では、小学3年～中学1年は「50」を上回り、中学2年～高校3年は下回った。中学1年と2年を境に状況が分かれることとなった。

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、ここ3年間は大きな下降が見られたが、その下降幅は減少し、全体としてはいずれの校種でもこの動きに一定の歯止めが掛かったものと見られる。

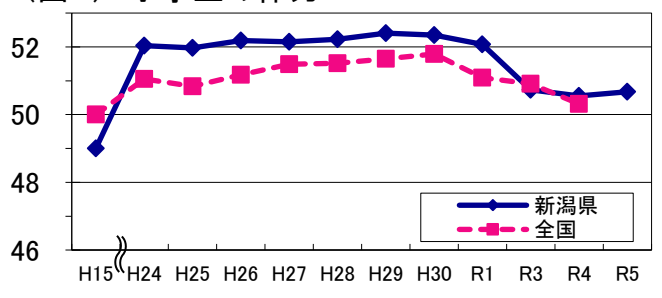


5 全国平均値を基準にした場合の体力の変化

[グラフの説明]

県内の公立小・中・高等学校の全ての子どもを対象に、体力テストを開始した平成 15 年度の全国平均値が「50」となるように統計処理をし、平成 15 年度及び、平成 24 年度から令和 4 年度までの全国平均値と、令和 5 年度までの本県平均値の変化をグラフに表したもの。
(令和 2 年度は全国・県ともに中止、令和 5 年度の全国平均値は未発表)

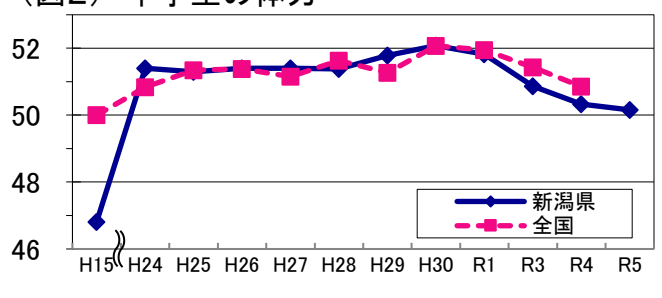
(図1) 小学生の体力



(図1) 小学生の体力

・県は、しばらく全国を上回る状態が続いていたが、令和元年度から3年度にかけて、全国を上回る下降幅となり、平成 17 年度以来、15 年ぶりに全国値を下回った。しかし、令和 4 年度に再度、全国を逆転し、令和 5 年度には、6 年ぶりに前年度を上回った。

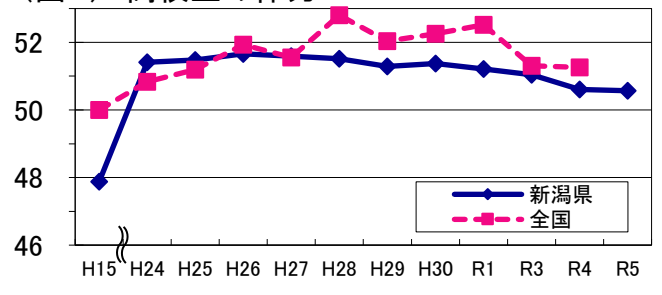
(図2) 中学生の体力



(図2) 中学生の体力

・全国は、年度ごとの変動が大きいですが、平成 30 年度をピークに下降している。県も同様に新型コロナウイルス感染症の影響を受けて下降局面に入ったが、その下降幅は、全国を上回る急激な落ち込みであった。下降の具合は落ち着いたものの、令和 5 年度も僅かながら下降し、平成 19 年度と同水準となった。

(図3) 高校生の体力



(図3) 高校生の体力

・全国は、年度ごとの変動が非常に大きい。県は、平成 26 年度をピークに緩やかに下降し、全国をやや下回る状態が続いているが、全国との差は、最大 1.28 ポイント(平成 28 年度)から 0.66 ポイント(令和 4 年度)と小さくなってきている。

6 今後の取組

(1)「健康増進・体力向上のための『1 学校 1 取組』」における課題の焦点化

本県の児童生徒の体力は平成 30 年度頃から下降しているが、体力要素を分析すると、20m シャトルラン、上体起こしの数値に急激な落ち込みが見られる。そこで、スポーツ庁がまとめる「低下の主な要因」に加え、動きを持続させる能力(ねばり強さ)の向上を本県の重要課題の一つとして設定する。調和のとれた体力の向上を図ることを目指しながらも、それらを踏まえた取組を各校で検討、実践するよう 1 学校 1 取組における課題の焦点化を図る。

(2)体力向上に関わる研究の推進

令和 5 年度は、地元大学と連携し、体力テストと 1 学校 1 取組のアンケート結果の分析を独自に進めてきた。その結果、スポーツ庁が示す傾向が本県でも見られることに加えて、体力テストの結果と「体育・保健体育の授業は楽しい」や「運動・スポーツが好き」の関係に、男女や校種、集団規模、地域等によって特徴があることが分かってきた。

令和 6 年度は、小・中・高等学校を通じて調和のとれた体力向上を図るために、それぞれの発達段階において各体力要素が総合得点にどのように影響を与えているのかについて分析を進める。

令和5年度 新潟県体力テスト 測定値一覧 (男子)

※ 令和4年度の県平均値との比較

区分	N：標本数 X：平均 SD：標準偏差	握力		上体起こし		長座体前屈		反復横とび		20mシャトルラン 折り返し数		50m走		立ち幅跳び		ソフトボール投げ ハンドボール投げ		
		R4	R5	R4	R5	R4	R5	R4	R5	R4	R5	R4	R5	R4	R5	R4	R5	
小学校	1年生 6歳	N	4652	4519	4462	4274	4785	4548	4589	4340	4470	4420	7100	6600	4591	4345	7100	6598
		X	9.13	8.92	11.67	11.56	27.42	27.45	28.22	28.19	22.24	22.38	11.72	11.79	116.59	116.21	8.14	8.34
		SD	1.93	1.93	4.57	4.55	5.68	5.53	4.72	4.90	9.53	9.60	1.17	1.13	16.11	15.74	2.96	2.99
	2年生 7歳	N	4854	4801	4728	4611	5054	4873	4922	4672	4746	4779	7084	6995	4812	4724	7055	6937
		X	10.91	10.79	14.52	14.14	29.39	29.05	32.94	32.50	32.60	32.06	10.86	10.79	128.09	127.92	11.09	11.42
		SD	2.22	2.20	4.67	4.79	5.58	5.26	5.49	5.70	13.07	12.97	1.06	1.06	16.42	16.85	4.04	4.15
	3年生 8歳	N	8387	8086	8355	8049	8376	8059	8347	8036	8334	7981	8405	7994	8361	8022	8360	7972
		X	12.58	12.59	15.87	16.07	30.49	30.89	35.24	35.59	38.04	39.10	10.34	10.29	135.45	136.65	14.31	14.52
		SD	2.66	2.68	5.06	5.08	6.07	6.18	6.46	6.57	15.70	15.83	1.07	0.98	17.78	17.85	5.29	5.34
	4年生 9歳	N	8461	8325	8435	8283	8437	8301	8426	8297	8421	8228	8451	8238	8425	8253	8426	8208
		X	14.49	14.59	17.79	17.79	32.96	33.07	39.37	39.81	44.77	45.65	9.94	9.87	144.29	144.94	17.37	17.64
		SD	2.95	3.04	5.20	5.31	6.66	6.44	6.93	6.73	17.76	18.02	1.08	0.96	19.14	19.24	6.20	6.25
	5年生 10歳	N	8686	8404	8660	8366	8671	8379	8643	8369	8598	8312	8699	8307	8655	8345	8660	8294
		X	16.83	16.73	19.34	19.44	34.88	35.26	43.01	42.95	50.85	51.97	9.55	9.53	153.55	154.00	20.63	20.52
		SD	3.50	3.54	5.15	5.32	6.95	7.10	6.73	6.84	19.15	19.70	1.02	1.00	19.90	20.62	7.09	7.05
	6年生 11歳	N	8931	8679	8870	8652	8905	8668	8862	8647	8848	8585	8902	8571	8867	8608	8879	8573
		X	19.96	20.07	21.09	21.31	37.04	37.46	46.04	46.29	57.53	59.33	9.12	9.11	165.85	166.37	24.02	24.08
		SD	4.52	4.46	5.21	4.98	7.36	7.35	6.71	6.88	20.49	20.84	0.93	1.01	22.00	22.04	8.20	8.07
中学校	1年生 12歳	N	8442	8481	8392	8438	8404	8448	8390	8428	8283	8386	8342	8378	8372	8434	8357	8422
		X	24.54	24.46	23.44	23.29	43.05	43.25	47.84	48.10	67.10	66.93	8.64	8.63	185.30	185.64	17.65	17.79
		SD	6.29	6.25	5.80	5.73	9.87	9.93	7.70	7.73	22.18	22.71	1.00	1.03	27.58	27.70	5.14	5.11
	2年生 13歳	N	8656	8137	8623	8093	8629	8113	8604	8062	8500	7987	8528	8019	8613	8068	8585	8065
		X	30.12	29.92	26.99	26.62	46.95	47.26	51.63	51.50	80.61	80.21	7.97	7.97	203.60	202.79	21.14	21.01
		SD	6.75	7.07	5.70	5.68	10.03	10.13	7.76	8.01	22.93	23.46	0.84	0.81	27.24	27.18	5.40	5.65
3年生 14歳	N	8707	8466	8676	8411	8676	8409	8634	8375	8544	8303	8566	8325	8663	8397	8641	8383	
	X	34.56	34.51	29.22	29.04	50.63	50.65	54.69	54.19	87.82	86.81	7.57	7.56	216.84	216.72	23.84	23.81	
	SD	7.10	6.92	5.70	5.56	10.42	10.11	7.52	7.94	22.63	23.45	0.68	0.74	25.68	26.73	5.83	5.31	
高等学校	1年生 15歳	N	6530	6348	6506	6327	6521	6338	6501	6322	6413	6280	6432	6275	6506	6321	6484	6322
		X	36.59	36.57	27.40	27.38	48.05	48.27	54.71	54.93	81.85	83.34	7.56	7.57	219.02	218.30	23.28	23.10
		SD	7.33	6.97	5.68	5.59	11.30	11.09	7.20	7.11	21.65	21.11	0.73	0.67	27.71	26.27	5.81	4.87
	2年生 16歳	N	6199	6245	6174	6211	6190	6236	6178	6211	6122	6183	6104	6159	6178	6215	6158	6206
		X	38.37	38.49	29.27	29.31	49.06	49.72	55.70	55.94	86.90	87.26	7.40	7.41	224.29	223.53	24.26	24.57
		SD	7.33	7.09	5.65	5.77	11.42	11.21	7.04	7.22	22.44	22.09	0.67	0.68	25.69	26.42	5.92	5.81
	3年生 17歳	N	6425	5981	6382	5964	6418	5978	6390	5954	6354	5925	6331	5868	6390	5963	6389	5943
		X	40.15	39.87	30.59	30.58	50.34	49.74	56.26	56.47	87.39	87.21	7.32	7.33	226.49	226.56	25.53	25.19
		SD	7.51	7.25	5.74	5.81	10.83	10.92	7.17	7.01	22.62	22.57	0.65	0.70	26.61	26.00	5.94	5.75
	4年生 18歳	N	36	55	36	56	36	55	36	53	36	54	37	53	36	54	37	55
		X	37.89	39.58	22.89	23.95	43.00	47.35	46.11	48.77	53.19	54.69	8.04	7.99	200.75	200.89	19.59	21.42
		SD	7.64	7.95	4.92	5.93	11.08	13.42	7.98	7.72	13.34	21.31	0.70	0.88	21.77	26.54	3.39	5.24

令和5年度 新潟県体力テスト 測定値一覧 (女子)

※ 令和4年度の県平均値との比較

区分	N：標本数	握力		上体起こし		長座体前屈		反復横とび		20mシャトルラン 折り返し数		50m走		立ち幅跳び		ソフトボール投げ	ハンドボール投げ	
	X：平均	R4	R5	R4	R5	R4	R5	R4	R5	R4	R5	R4	R5	R4	R5	R4	R5	
	S D：標準偏差																	
小学校	1年生 6歳	N	4477	4204	4323	3985	4609	4271	4431	4076	4303	4217	6807	6273	4445	4121	6817	6317
		X	8.57	8.27	11.58	11.16	29.74	29.76	27.78	27.52	19.38	18.56	11.94	12.05	110.74	109.98	5.76	5.71
		S D	1.72	1.71	4.30	4.40	5.48	5.72	4.36	4.37	7.29	6.87	1.03	1.10	14.82	14.48	1.91	1.80
	2年生 7歳	N	4629	4662	4480	4475	4825	4632	4659	4548	4511	4686	6829	6779	4555	4596	6812	6727
		X	10.19	10.08	14.09	14.00	32.18	31.79	32.21	31.90	26.26	26.01	11.12	11.08	121.55	121.20	7.64	7.71
		S D	2.03	1.97	4.42	4.38	5.71	5.82	4.83	4.90	9.28	9.40	0.97	0.89	15.11	14.71	2.41	2.36
	3年生 8歳	N	8071	7771	8052	7746	8064	7755	8045	7750	8021	7700	8068	7699	8049	7726	8050	7662
		X	11.91	11.81	15.42	15.30	33.94	34.42	34.30	34.25	30.45	30.15	10.54	10.58	129.70	129.51	9.62	9.66
		S D	2.48	2.44	4.60	4.72	6.35	6.18	5.81	5.80	11.41	11.16	0.88	0.93	16.46	16.38	3.17	3.01
	4年生 9歳	N	8134	8033	8108	8020	8114	8024	8105	8011	8079	7976	8125	7939	8108	7982	8095	7913
		X	14.03	14.06	17.06	17.08	36.71	37.05	38.32	38.57	36.90	36.38	10.12	10.10	139.42	138.97	11.68	11.71
		S D	2.95	2.95	4.49	4.71	6.58	6.83	5.97	5.80	13.32	13.11	0.83	0.83	16.94	6.07	3.76	3.72
	5年生 10歳	N	8170	8188	8146	8169	8158	8184	8138	8158	8111	8104	8169	8104	8143	8131	8127	8097
		X	16.51	16.60	18.46	18.41	39.30	39.67	41.83	41.41	42.87	42.30	9.69	9.70	148.10	148.31	13.78	13.71
		S D	3.47	3.54	4.47	4.57	7.06	7.33	5.69	5.76	14.34	14.47	0.85	0.77	18.32	18.17	4.25	4.39
	6年生 11歳	N	8498	8122	8468	8091	8486	8103	8460	8070	8426	8007	8475	7991	8455	8054	8455	7987
		X	19.44	19.41	19.69	19.66	41.88	42.06	44.06	43.84	47.16	46.21	9.34	9.34	156.68	156.27	15.65	15.41
		S D	3.83	3.90	4.36	4.50	7.64	7.66	5.53	5.64	15.04	15.12	0.72	0.78	19.42	20.11	5.49	4.73
中学校	1年生 12歳	N	8166	7987	8126	7951	8154	7974	8105	7950	7996	7876	8070	7840	8116	7945	8092	7920
		X	21.56	21.57	20.14	20.41	46.01	46.34	44.37	44.70	49.33	48.89	9.17	9.18	165.12	165.62	11.21	11.36
		S D	4.08	4.23	5.12	4.99	9.21	9.72	6.15	6.17	16.17	16.70	0.80	0.83	22.60	23.41	3.36	3.56
	2年生 13歳	N	8017	7715	7974	7676	8003	7692	7956	7645	7825	7544	7881	7540	7964	7657	7941	7642
		X	23.56	23.69	22.81	22.45	48.98	49.62	46.02	45.89	53.50	52.53	8.92	8.94	170.25	170.18	12.65	12.73
		S D	4.32	4.35	5.44	5.32	9.54	9.43	6.08	6.33	17.32	16.85	0.75	0.77	23.49	22.29	3.79	3.88
	3年生 14歳	N	7979	7608	7940	7551	7973	7576	7907	7519	7784	7400	7828	7389	7932	7523	7919	7525
		X	25.19	24.92	24.50	23.94	51.58	51.33	47.52	46.51	54.50	52.60	8.80	8.86	173.57	171.99	13.76	13.62
		S D	4.38	4.37	5.44	5.57	9.38	10.02	6.04	6.21	16.91	17.12	0.75	0.74	22.93	22.28	3.98	3.97
高等学校	1年生 15歳	N	6561	6108	6542	6097	6559	6099	6533	6083	6456	6046	6455	6036	6543	6089	6554	6084
		X	25.26	25.27	22.42	22.20	49.65	49.48	47.69	47.60	50.40	50.51	8.97	8.97	172.34	171.63	13.06	12.95
		S D	4.56	4.36	5.48	5.63	9.87	10.03	5.94	5.70	13.75	13.76	0.81	0.75	22.91	22.51	3.79	3.71
	2年生 16歳	N	6268	6584	6249	6555	6263	6575	6232	6553	6174	6517	6142	6483	6237	6558	6244	6560
		X	25.94	25.99	23.98	23.82	50.18	50.64	48.23	47.95	51.83	51.25	8.91	8.93	173.64	172.51	13.61	13.48
		S D	4.46	4.56	5.42	5.48	10.01	9.80	5.92	5.70	14.40	13.84	0.78	0.78	22.71	22.88	3.91	3.76
	3年生 17歳	N	6448	5686	6414	5666	6440	5682	6420	5656	6376	5623	6359	5612	6430	5661	6418	5662
		X	26.40	26.36	24.47	24.59	50.75	51.27	47.82	47.72	51.08	51.25	8.95	8.93	171.60	171.99	13.96	14.02
		S D	4.64	4.37	5.58	5.41	10.00	9.80	6.14	5.81	14.78	14.11	0.87	0.83	22.85	21.70	3.94	3.81
	4年生 18歳	N	27	34	27	32	27	35	27	32	27	33	27	34	27	32	26	31
		X	22.67	24.85	17.37	15.25	42.70	45.51	39.00	39.16	24.04	27.48	9.98	10.31	141.41	140.97	10.46	10.35
		S D	5.34	5.48	5.47	5.83	10.18	11.20	5.42	4.67	7.98	10.17	0.80	0.87	26.23	21.80	2.39	1.86

令和5年度 新潟県体力テスト 平均値一覧 (男子)

区分	握力(kg)	上体起こし(回)	長座体前屈(cm)	反復横とび(回)	20mシャトルラン(回)	50m走(秒)	立ち幅跳び(cm)	ボール投げ(m)
小学校	1年生 6歳	8.92	11.56	27.45	28.19	22.38	116.21	8.34
	2年生 7歳	10.79	14.14	29.05	32.50	32.06	127.92	11.42
	3年生 8歳	12.59	16.07	30.89	35.59	39.10	136.65	14.52
	4年生 9歳	14.59	17.79	33.07	39.81	45.65	144.94	17.64
	5年生 10歳	16.73	19.44	35.26	42.95	51.97	154.00	20.52
	6年生 11歳	20.07	21.31	37.46	46.29	59.33	166.37	24.08
中学校	1年生 12歳	24.46	23.29	43.25	48.10	66.93	185.64	17.79
	2年生 13歳	29.92	26.62	47.26	51.50	80.21	202.79	21.01
	3年生 14歳	34.51	29.04	50.65	54.19	86.81	216.72	23.81
高等学校	1年生 15歳	36.57	27.38	48.27	54.93	83.34	218.30	23.10
	2年生 16歳	38.49	29.31	49.72	55.94	87.26	223.53	24.57
	3年生 17歳	39.87	30.58	49.74	56.47	87.21	226.56	25.19
	4年生 18歳	39.58	23.95	47.35	48.77	54.69	200.89	21.42

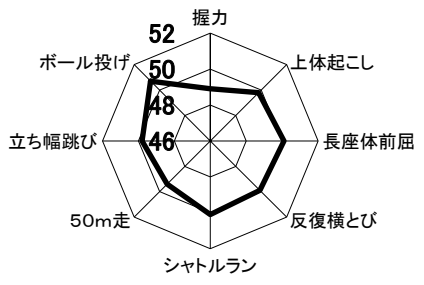
令和5年度 新潟県体力テスト 平均値一覧 (女子)

区分	握力(kg)	上体起こし(回)	長座体前屈(cm)	反復横とび(回)	20mシャトルラン(回)	50m走(秒)	立ち幅跳び(cm)	ボール投げ(m)
小学校	1年生 6歳	8.27	11.16	29.76	27.52	18.56	109.98	5.71
	2年生 7歳	10.08	14.00	31.79	31.90	26.01	121.20	7.71
	3年生 8歳	11.81	15.30	34.42	34.25	30.15	129.51	9.66
	4年生 9歳	14.06	17.08	37.05	38.57	36.38	138.97	11.71
	5年生 10歳	16.60	18.41	39.67	41.41	42.30	148.31	13.71
	6年生 11歳	19.41	19.66	42.06	43.84	46.21	156.27	15.41
中学校	1年生 12歳	21.57	20.41	46.34	44.70	48.89	165.62	11.36
	2年生 13歳	23.69	22.45	49.62	45.89	52.53	170.18	12.73
	3年生 14歳	24.92	23.94	51.33	46.51	52.60	171.99	13.62
高等学校	1年生 15歳	25.27	22.20	49.48	47.60	50.51	171.63	12.95
	2年生 16歳	25.99	23.82	50.64	47.95	51.25	172.51	13.48
	3年生 17歳	26.36	24.59	51.27	47.72	51.25	171.99	14.02
	4年生 18歳	24.85	15.25	45.51	39.16	27.48	140.97	10.35

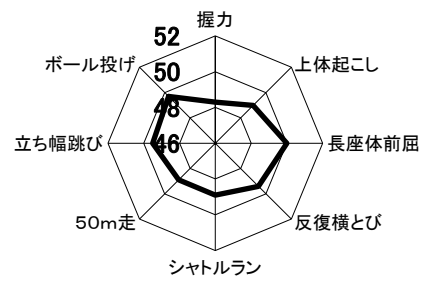
令和 5 年度 新潟県体力テスト レーダーチャート

※ 令和 4 年度の県平均値を50として示したグラフ（小学校 1・2 年生は任意実施）

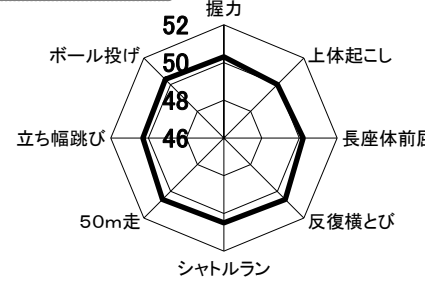
小1(6歳)男子



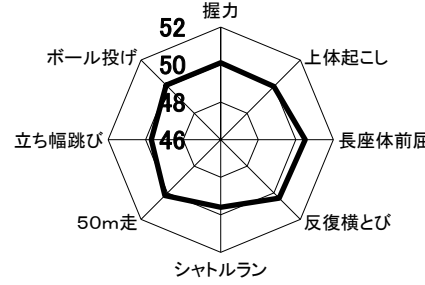
小1(6歳)女子



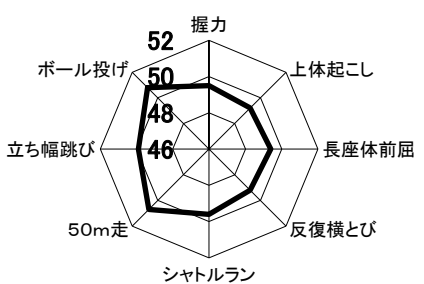
小4(9歳)男子



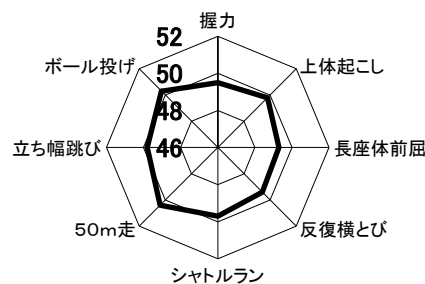
小4(9歳)女子



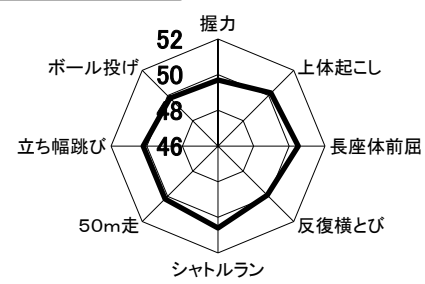
小2(7歳)男子



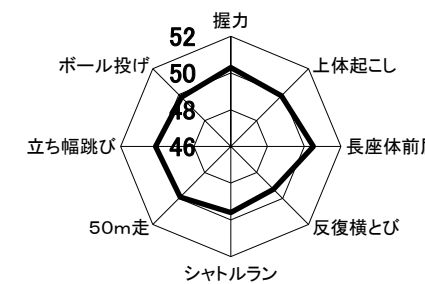
小2(7歳)女子



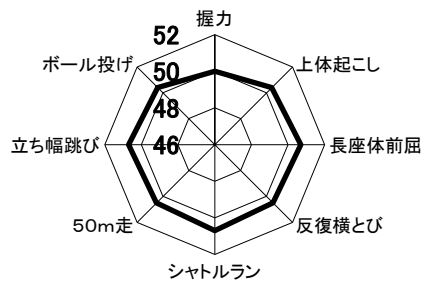
小5(10歳)男子



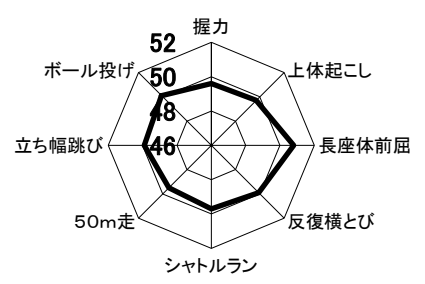
小5(10歳)女子



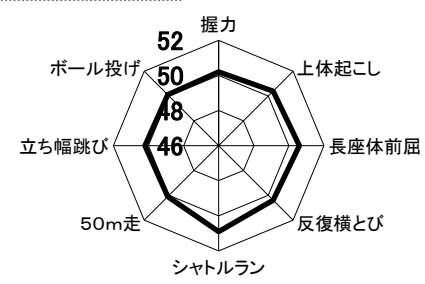
小3(8歳)男子



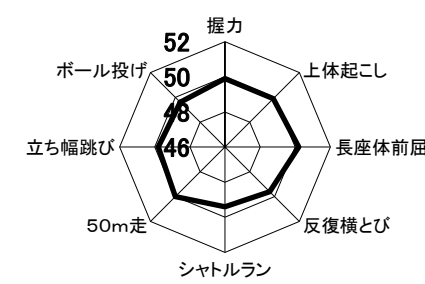
小3(8歳)女子



小6(11歳)男子



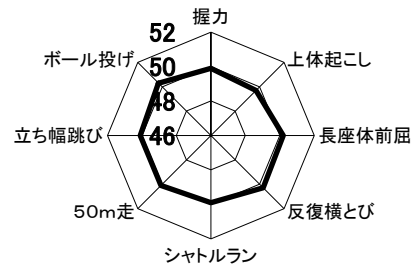
小6(11歳)女子



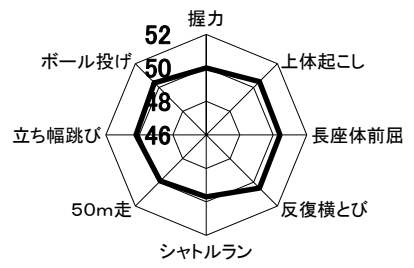
令和5年度 新潟県体力テスト レーダーチャート

※ 令和4年度の県平均値を50として示したグラフ

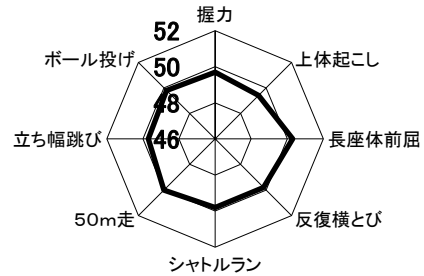
中1(12歳)男子



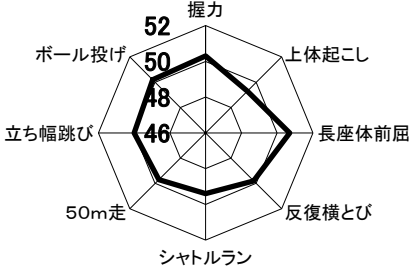
中1(12歳)女子



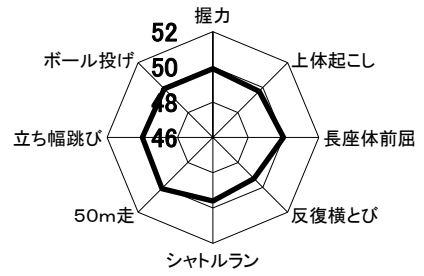
中2(13歳)男子



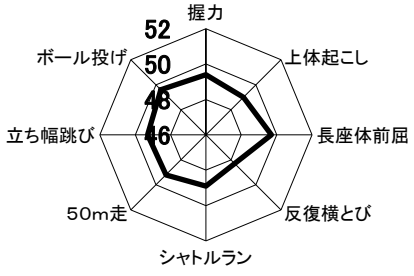
中2(13歳)女子



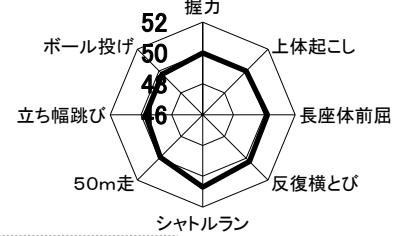
中3(14歳)男子



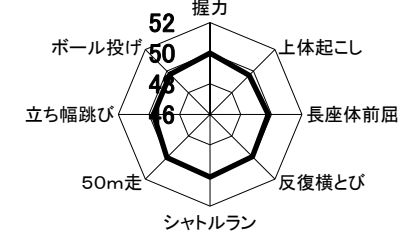
中3(14歳)女子



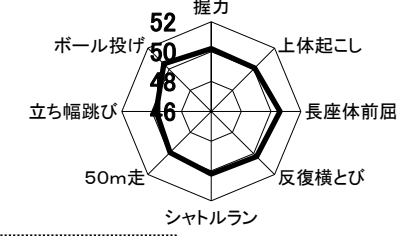
高1(15歳)男子



高1(15歳)女子



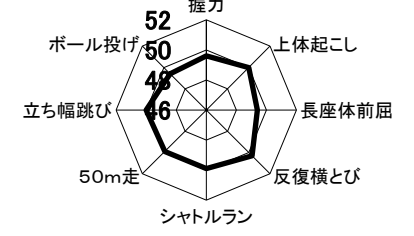
高2(16歳)男子



高2(16歳)女子



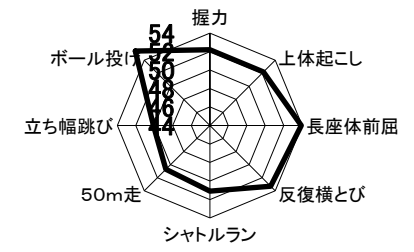
高3(17歳)男子



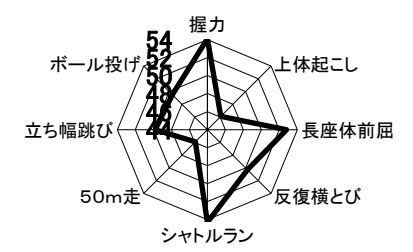
高3(17歳)女子



高4(18歳)男子



高4(18歳)女子



令和5年度 新潟県体力テスト 県平均との比較 (小1～中3 市町村別 男子)

区分		握力 (kg)		上体起こし (回)		長座体前屈 (cm)		反復横とび (回)		20mシャトルラン (回)		50m走 (秒)		立ち幅跳び (cm)		ソフトボール投げ ハンドボール投げ (m)		
		新潟市	県	新潟市	県	新潟市	県	新潟市	県	新潟市	県	新潟市	県	新潟市	県	新潟市	県	
		標本数	平均	標本数	平均	標本数	平均	標本数	平均	標本数	平均	標本数	平均	標本数	平均	標本数	平均	
小学校	1年生 6歳	標本数	922	4519	753	4274	944	4548	823	4340	789	4420	2487	6600	860	4345	2476	6598
		平均	8.67	8.92	11.73	11.56	26.19	27.45	28.01	28.19	20.81	22.38	11.86	11.79	113.07	116.21	8.18	8.34
	2年生 7歳	標本数	962	4801	859	4611	1036	4873	916	4672	839	4779	2507	6995	963	4724	2477	6937
		平均	10.91	10.79	14.55	14.14	28.69	29.05	32.88	32.50	30.56	32.06	10.72	10.79	127.78	127.92	10.66	11.42
	3年生 8歳	標本数	3007	8086	2988	8049	2994	8059	2981	8036	2950	7981	2983	7994	2962	8022	2969	7972
		平均	12.24	12.59	15.97	16.07	30.46	30.89	34.64	35.59	36.23	39.10	10.37	10.29	134.95	136.65	13.66	14.52
	4年生 9歳	標本数	3123	8325	3105	8283	3117	8301	3105	8297	3059	8228	3088	8238	3065	8253	3070	8208
		平均	14.35	14.59	17.87	17.79	32.83	33.07	39.50	39.81	43.88	45.65	9.90	9.87	144.01	144.94	16.66	17.64
	5年生 10歳	標本数	3066	8404	3058	8366	3062	8379	3057	8369	3015	8312	3027	8307	3029	8345	3022	8294
		平均	16.57	16.73	19.31	19.44	34.86	35.26	42.58	42.95	50.47	51.97	9.56	9.53	152.88	154.00	19.56	20.52
	6年生 11歳	標本数	3236	8679	3228	8652	3231	8668	3225	8647	3176	8585	3203	8571	3190	8608	3196	8573
		平均	19.87	20.07	21.12	21.31	37.21	37.46	45.70	46.29	57.88	59.33	9.14	9.11	164.86	166.37	22.82	24.08
中学校	1年生 12歳	標本数	3019	8481	3011	8438	3010	8448	3007	8428	3002	8386	2986	8378	3003	8434	2994	8422
		平均	24.08	24.46	23.16	23.29	43.65	43.25	47.36	48.10	65.38	66.93	8.64	8.63	184.35	185.64	17.22	17.79
	2年生 13歳	標本数	2884	8137	2874	8093	2876	8113	2863	8062	2848	7987	2841	8019	2868	8068	2854	8065
		平均	29.70	29.92	26.91	26.62	47.76	47.26	51.23	51.50	81.78	80.21	7.91	7.97	204.03	202.79	20.84	21.01
	3年生 14歳	標本数	3016	8466	3000	8411	2999	8409	2987	8375	2959	8303	2975	8325	2992	8397	2986	8383
		平均	34.28	34.51	29.44	29.04	51.17	50.65	53.43	54.19	86.94	86.81	7.56	7.56	216.62	216.72	23.77	23.81

令和5年度 新潟県体力テスト 県平均との比較 (小1～中3 市町村別 女子)

区分		握力 (kg)		上体起こし (回)		長座体前屈 (cm)		反復横とび (回)		20mシャトルラン (回)		50m走 (秒)		立ち幅跳び (cm)		ソフトボール投げ ハンドボール投げ (m)		
		新潟市	県	新潟市	県	新潟市	県	新潟市	県	新潟市	県	新潟市	県	新潟市	県	新潟市	県	
小学校	1年生 6歳	標本数	819	4204	656	3985	896	4271	734	4076	690	4217	2301	6273	791	4121	2317	6317
		平均	7.99	8.27	11.39	11.16	28.68	29.76	27.43	27.52	17.94	18.56	12.16	12.05	108.17	109.98	5.55	5.71
	2年生 7歳	標本数	921	4662	801	4475	889	4632	879	4548	843	4686	2480	6779	920	4596	2460	6727
		平均	10.26	10.08	14.15	14.00	31.31	31.79	32.13	31.90	24.26	26.01	11.11	11.08	121.03	121.20	7.52	7.71
	3年生 8歳	標本数	2978	7771	2965	7746	2966	7755	2966	7750	2930	7700	2955	7699	2939	7726	2935	7662
		平均	11.65	11.81	15.18	15.30	34.41	34.42	33.60	34.25	27.30	30.15	10.64	10.58	128.18	129.51	9.38	9.66
	4年生 9歳	標本数	3076	8033	3068	8020	3066	8024	3059	8011	3033	7976	3043	7939	3035	7982	3034	7913
		平均	13.85	14.06	16.88	17.08	36.83	37.05	37.93	38.57	34.16	36.38	10.16	10.10	137.31	138.97	11.19	11.71
	5年生 10歳	標本数	2965	8188	2959	8169	2963	8184	2958	8158	2908	8104	2921	8104	2922	8131	2920	8097
		平均	16.44	16.60	18.33	18.41	39.14	39.67	41.08	41.41	40.26	42.30	9.71	9.70	147.46	148.31	13.12	13.71
	6年生 11歳	標本数	3025	8122	3014	8091	3022	8103	3003	8070	2968	8007	2984	7991	2990	8054	2979	7987
		平均	19.36	19.41	19.55	19.66	41.95	42.06	43.40	43.84	43.86	46.21	9.38	9.34	155.20	156.27	14.78	15.41
中学校	1年生 12歳	標本数	2911	7987	2894	7951	2905	7974	2901	7950	2870	7876	2882	7840	2898	7945	2881	7920
		平均	21.50	21.57	20.37	20.41	46.53	46.34	44.00	44.70	47.20	48.89	9.16	9.18	164.23	165.62	11.12	11.36
	2年生 13歳	標本数	2887	7715	2880	7676	2886	7692	2873	7645	2823	7544	2848	7540	2875	7657	2869	7642
		平均	23.60	23.69	22.75	22.45	50.02	49.62	45.50	45.89	52.86	52.53	8.91	8.94	170.42	170.18	12.66	12.73
	3年生 14歳	標本数	2756	7608	2742	7551	2746	7576	2722	7519	2681	7400	2685	7389	2722	7523	2718	7525
		平均	24.79	24.92	24.23	23.94	51.61	51.33	46.18	46.51	52.46	52.60	8.79	8.86	172.93	171.99	13.62	13.62

1 はじめに

ボール運動系の魅力は、味方に得点につながるパスができること、相手からボールを奪うことなど様々であるが、やはり得点を決めることだと思う。授業場面を振り返ると、運動を得意としている子が得点を決め、苦手としている子はボールゲームで動いていないことがある。苦手な子は、このような姿で授業に参加し続けると、小学校6年間で一度も得点することなく卒業していくかもしれない。このようなことから、すべての子がゲームやボール運動の楽しさや得点を取る喜びを味わえる授業をすることが大切である。また、楽しさや喜びを味わうことによって、体育科の目標「生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現するための資質や能力を身に付けること」に結び付いていくと考える。

2 授業づくりについて

すべての子がボール運動系のゲームの楽しさや喜びを味わえることを目指して2つの視点について紹介する。

① 教材や教具の工夫

授業で扱うゲームを「易しいゲーム」（中学年）「簡易化されたゲーム」（高学年）にする。児童の発達段階や学習実態に応じて、プレイヤーの人数（攻撃優位数）、コート広さ、ネットの高さ、塁間の距離、規則やルールの緩和など、実践するボールゲームの魅力を楽しむとよい。

また、ソフトバレーボールではボールを柔らかく軽いものにしたたり、ベースボールでは打ちやすいように大きくしたりするなど教具の工夫をするとよい。

② 課題がより鮮明になる規則やルールの工夫

1つ目は、すべての子にゲームへの参加と学習機会を提供するという観点から、課題がより鮮明になる規則やルールの工夫である。しっぽ取りゲームではタグを取られてもゲームに参加し続ける規則で行う。サッカーで児童が遠くからシュートをすぐ打つ場合では、ゴールを狭くすることでパス攻撃を促すなど、規則やルールを工夫するとよい。

2つ目は、課題に気付かせる工夫である。規則やルールを易しくしても、ゲームで解決すべき課題やその課題の解決方法が理解できずに、児童がつまづく場面がある。例えば、バスケットボールでは、ノーマークになっているかどうか判断できないことがある。課題に気付かせるために、ノーマークになっていることを判断する必要性やその方法を発問などで確認したり、行ったゲームを明確な視点をもって振り返ったりする。なお、即座に適切な判断ができるようになるわけではないので、個別対応することも必要である。

3つ目は、チーム（個人）の課題に対して、仲間（自分）と試行錯誤しながら解決策を見付ける活動の工夫である。その工夫の1つが「ゲーム記録」である。アタックができたか、ノーマークでシュートできたかなど、観点を示して記録させる。そして、記録を基に課題を明らかにし、練習方法を考え、練習に取り組み、次のゲームに臨むという一連の流れで学習を展開する。

3 伝達講習会で実践したゲーム

ゲーム名	教材・教具の工夫	規則やルールの工夫
ボンバーゲーム（ネット型）	<ul style="list-style-type: none"> ・ビニール袋に新聞紙（緩衝材）を入れた軽くて滞空時間が長いものをボールにする。 ・バドミントンコートで、ネットの高さは児童の背の高さくらいにする。 ・2対2（3対3）でネットを越えるように投げたり，落下点に合わせて移動して捕球したりすることを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・チームは3人以上とし，得点を決めたら選手を交代させる。ラリーが長引いたり，得点が入らなかつたりなど交代に時間がかかるようであれば交代する。 ・ゲーム記録（キャッチ，アタック，得点）をとる。
ソフトバレーボールを基に簡易化されたゲーム（ネット型）	<ul style="list-style-type: none"> ・ボールの硬さ・大きさ・重さ，ネットの高さ，コートの広さなどを児童の実態に合わせる。 ・3対3で行う。 ・レシーブ→トス→アタックの3段攻撃の成功を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サーブ（打つ or 投げ入れ），レシーブ（ワンバウンド or キャッチ），トス（ダイレクト or キャッチ），アタック（片手のみ or 両手もOK），ブロック（あり or なし）について児童の実態に合わせる。 ・ゲーム記録（レシーブ・トス・アタックの成功の有無と得点）をとる。
バスケットボールを基に簡易化されたゲーム（ゴール型）	<ul style="list-style-type: none"> ・ボールの硬さ・大きさ・重さ，コートの広さ（ハーフコート，オールコート）などを児童の実態に合わせる。 ・ハーフコートで2分間のドリブルなしの3対3，3対2で攻守交代制のゲームをする。 ・学習状況に応じて，オールコート3対3のゲームを行う。 ・相手がないフリーの状況でのシュートや得点を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・攻撃者は，ドリブルなし，3歩以上歩かない。 ・守備者は，保持しているボールを奪わない。相手を押したり，触ったりしない。パスカットはしてもよい。 ・リングに当たったら1点。入ったら2点。ボードに当たる，どこにも当たらないは継続する。 ・ゲーム記録（フリーでのシュート有無，得点）をとる。

4 実践を受けての意見

- 教材・教具，規則やルールを工夫したことで，運動の苦手な子だけでなく，誰もが得点する機会が保たれていて，みんなで楽しむことができると思った。
- 特別な教具を用意する必要もなく，授業づくりがしやすいと感じた。
- 一連の動作を記録するゲーム記録をとることによって，何がうまくできていて，何に課題があるのかを分析できるだけでなく，繰り返し記録をとることで成長を感じることもできた。
- △教材・教具，規則やルールを工夫して授業づくりをしたとしても，勝ちにこだわったり基本的な技能が身に付いていなかったりするなど様々な子どもがいるため，個に応じた配慮についても計画しなければいけない。

【はじめに】

今年度の5月末に宮城県仙台市で行われた、スポーツ庁主催「体育・保健体育指導力向上研修」に参加させていただき、さらに11月末には伝達講習会を行う機会をいただいた。

研修では大変多くの学びがあったが、その中でも全体講義の中で強く印象に残っている言葉がある。「学校教育にとって保健体育という教科が必要とされるために…」私はこれを保健体育の目標である「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる」ために、日々の授業をよりよいものにしていくことだと捉えた。その実現のためには、体を動かし、頭を動かし、心を動かす体育授業を展開していくことが重要であることから、以下の3つの視点を軸にした授業づくりが有効であると考えている。

1 運動の本質的課題から

取り組もうとしている運動はどんな運動特性があるのか。陸上競技で例えると、ハードルであれば、走る～跳ぶ～走る…の繰り返し動作がある。跳躍競技であれば、走る～跳ぶの動きは共通するが、走り高跳びではより高く、走り幅跳びであればより遠くへとといったように特性が異なる。この、あたりまえと言えばあたりまえのことにしっかりと向き合い、「そもそもどんな運動なのか」という原点に立ち返って運動と向き合うことの大切さを再確認することができた。「そもそも」を問うことで、解像度が上がったかのように種目が鮮明に見えるようになり、イメージや捉え方が変化する。これは教師側にとってのことだけではなく生徒へも影響を与え、知識や技能の習得・向上につながるのではないかと考える。

現代はインターネットで検索すれば様々な練習方法を見ることができる。しかし、その結果「方法論」ばかりに目が行きがちになってしまう面もあることから、本質から目をそらさないような学びと実践を積み重ねていく必要がある。

2 子どものつまずきから

今回の研修におけるターゲットは運動が苦手な生徒であった。このような生徒は少子化や感染症の流行、部活動の縮小等も影響し、増加傾向にあることは現場で日々実感している。だからこそ、目の前にいる生徒は何に対してつまずきがあるのかを見極め、それをもとに授業でのアプローチの仕方を見出していく必要がある。私自身もそうであったが、従来の競技形式やルールに則りながら授業を行わなければならないという固定概念があることで、授業の内容を難しくしてしまうことがある。「～でなければならない」という考えを捨て、活動の中心にいるのは生徒であるという意識をもって授業づくりに励んでいきたい。

また、つまずきがあるのは必ずしも運動が苦手な生徒だけではない。一見得意そうに見える生徒にもつまずきがあったり、一向に記録が伸びないなどの悩みがあったりもする。そのような生徒へも目を向けることや、どの生徒も夢中になって取り組める課題や学習環境を設定することも忘れてはならない。

3 幹を教えて子どもが考える授業

自主的と主体的という言葉がある。これを「練習」に例えてみると、自主練習は、誰かに与えられた課題を自分で練習すること。主体練習は、自分で課題を見出し、何をすれば

よいかも自分で考えて練習することである。この定義の違い明確にすることが、授業における生徒の主体的な行動を引き出すポイントとなる。

授業づくりのイメージを樹木に例えるならば、幹の部分を教師が担い、枝葉の部分を生徒が広げていくといった姿を目指したい。では、幹の部分をどう教え、どう活用させていくか。実践の一例として、私が講習会で得た学びから行った授業の内容は以下の通りである。

単元は器械運動の跳び箱で、幹となる部分を「踏切～跳躍局面において、腰の位置を高くする」こととし、そうすることにより技の成功につながったり、より美しく、よりダイナミックな動きになったりするということに関連付けた。これはいわゆるティーチング（教える）の部分である。次に、コーチング（導く）の部分では、タブレットを用いて自己の動きを分析し、「腰の位置を高くする」ためには何が必要かを考え、実践する活動を行った。さらに、同じ要領で別の局面に着目してみたり、他者の動きと比較してみたりする活動も行った。この流れを生徒にルーティン化させることで、着眼点という「幹」を授業者が提示するだけで生徒が主体的に活動する姿が見られた。

また、学んだ内容が一単元のみで完結するのではなく、別の種目でも動作が発揮されたり、似た動作であることに気付くことができたりといった「汎用性」を高めていくことも、運動が苦手な生徒に対するアプローチとして非常に効果的であると感じた。

評価について、今回の実践では生徒に自分の単元はじめの姿（Before）と単元終わりの姿（After）を撮影してもらい、その両方を提出するという形をとった。それにより、実力だけでなく変容を見とることができ、すべての生徒の成長度合を図ることができた。生徒は、自分自身の課題だけでなく「上手くなった姿」を目の当たりにすることで成長を実感し、やりがいを感じながら授業に取り組んでいた。一方で、担当クラス全員分の動画を確認し、評価をするには膨大な時間を要することから、働き方改革の観点からすると課題が残った。

【おわりに】

私たち保健体育科の教師は、生徒に運動が「わかる・できる」ようにすることが求められているが、まずはその前段階として「生徒自身がわかる・できるようになりたいと思える」ことを目指して支援していきたいと考えている。なぜならば、そういった気持ちになれること自体に価値があり、だからこそ主体的に学習に取り組めるようになるからである。さらに、体育の目標である「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる」ために、する・みる・知る・支えるといった運動の多様な楽しみ方を伝えていくことが、「運動が苦手＝運動が好きではない」といった生徒の意識を変えていくことにつながるのではないかと考える。

世の中では暗いニュースが多い中、スポーツに関するニュースはいつも私たちを笑顔にし、熱い気持ちにさせてくれるパワーがある。この素晴らしさがもっと多くの人に届くよう、これからも目の前にいる生徒たちに運動の魅力を伝えていきたい。

○ 柔道を安全に楽しむための3つのキーワード

残心 潔さ 命綱

○ 授業で指導する3つの柱

- 1 礼法と基本動作
- 2 受身
- 3 固技と立技

1 礼法と基本動作

※ 武道の精神：精力善用・自他共栄 ※ 座礼と立礼：視線

2 受身

① 前受身 ② 後受身 ③ 横受身 ④ 前回り受身

※ 怪我防止：特に頭部（脳震盪、セカンドインパクト）と頸部（頸椎損傷）

- ① 頭を打たない。 …最も重要
- ② 体を丸められる。 …体の一部を痛めない。
- ③ 手で畳を強く打てる。 …衝撃を吸収する。

3 固技と投技

1) 固技

① 袈裟固め ② 横四方固め ③ 上四方固め

※ 「参った」：素早く2回以上相手か畳を叩く→すぐに離す

2) 立技

① 足技 … 膝車 大外刈 小内刈 大内刈

② 腰技 … 大腰 払腰

③ 手技 … 体落 背負投

※ 技の理合（りあい）：① 崩し → ② 作り（相手と自分） → ③ 掛け

※ 崩し：人差し指

※ 授業で安全に安心して技能を高めるための工夫

- ・ 低→高、易→難
- ・ “もどき” 技の活用



残心

バランスを崩さず、しっかりと決める。

安全に柔道を楽しむための

3 原則

命綱

取りは引き手、受けは釣り手。お互いに手を放さないでしっかりと握り合う。

潔さ

我慢せずにしっかりと受け身。

柔道の精神
精力善用
自他共栄

常に相手を思いやる **心**

後ろ受け身



受け身の達人になるための
キーワード

パー

指をしっかりと開いて手のひら全体で畳を強く叩く。手を広げる角度は狭すぎず、広げすぎず膝の下に拳1個分程度。

「うっ！」

打つ瞬間に腰筋に力を入れ、あごをしっかりと引いて帯を見る。

足ブレーキ

後ろ受け身、つま先を伸ばし、足を斜め前方に投げる。

横受け身・前回り受け身、手を打つ方の足は横で側面全体が付く位置。帯に添える方の足は足裏全体が付く位置にすると左右の足は一直線になる。足でも畳を強く叩く。

横受け身・前回り受け身



1 はじめに

市小研体育部では、昨年度の8月に教育研究発表会で成果発表を行い、6年間を見通した一つの授業構想モデルである「3本の矢」をデジタル化し、新潟市内の先生方全員に授業支援アプリケーションとして配付することができた。

しかし、「3本の矢」は、器械運動領域（マット運動）、陸上運動領域（走の運動）、ボール運動領域（ゴール型）、表現運動領域（表現）の4種類で、全ての運動領域を網羅できてはいない。また、体育部の先生方も「3本の矢」を活用しながらの授業実践ができておらず、「3本の矢」の内容についての十分な検証ができていない。

そこで今年度は、体育部の先生方全員に「①新研究グループ」「②新3本の矢作成グループ」「③3本の矢活用グループ」の中から一つ選んでもらい、三つのグループに分かれて研修を進めることにした。

各グループの年間計画

新研究グループ	新3本の矢作成グループ	3本の矢活用グループ
<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業者を立候補で募る。 （6月中） →区や学年，運動領域などの制限はしない。 ・ 研究推進委員長が提案授業を行う。（7月） ・ 9月と11月に参加する授業を部員一人一人が選択する。（7月中） ・ 選択した授業の指導案検討会（9月）と公開授業・協議会（11月）に参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作成したい3本の矢の運動領域や単元を部員一人一人が選択する。（6月中） ・ 研究推進委員が新3本の矢を提案し，協議する。（7月） ・ 研究推進委員が行う模擬授業に参加し，必要があれば新3本の矢を修正する。（8月・9月・11月） ・ 模擬授業を基に新3本の矢を完成させ，公開する。（12月） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実践したい3本の矢の運動領域と学年を部員一人一人が選択する。（6月中） ・ 運動領域ごとにグループを編成し，実践報告会の担当（3本の矢活用グループ全員1回ずつ）を決める。（7月） ・ 8月の実践検討会を基に全員が実践し，報告書を作成する。 ・ 実践報告会を基に3本の矢の修正版を完成させ，公開する。（12月）
5月	役員会（新しい研究主題の提案，研究推進委員のグループ編成）	
6月	全体会（役員・研究推進委員の紹介，新しい研究主題と研究の進め方の説明）	
7月	提案授業・協議会	研修の進め方・グループ編成
8月	提案授業のまとめ	実践検討会
9月	指導案検討会	実践報告会
11月	公開授業・協議会	実践報告会
12月	まとめ	修正版3本の矢公開
1月	全体会（12月の内容をグループごとに発表）	
2月	役員会（今年度の成果と課題，来年度に向けて）	

2 新研究グループ

今年度から、「自己の身体を見つめる力を高める児童」という研究主題を設定した。研究計画を以下に示す。

令和5年度 研究計画

令和5年度 研究主題

自己の身体を見つめる力を高める児童（1年次）

（1）研究主題設定の理由

小学校学習指導要領では、児童の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うことが求められ、児童が体育や保健の見方・考え方を働かせ、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成することが、教科の目標として示された。

堀（2019）は、「資質・能力を育成するためには、学習者自身が自分の学びについて自覚していくことが重要です」とメタ認知能力の重要性について指摘している。

また、奈須（2022）は、「メタ認知能力が高い子は、新たな領域を一から自力で学び進めることができ、熟達化する速度も速いことが知られている」と述べている。

そこで、児童が見方・考え方を働かせ、資質・能力を育成するためのキーワードとして、メタ認知能力を取り上げ、市小研体育部版メタ認知能力を「自己の身体を見つめる力」と定義した。

日下（2019）は、「子どもの意識とメタ認知能力を高めるためには、教師がメタ認知に対して明示的に焦点を当てる必要がある」と述べている。

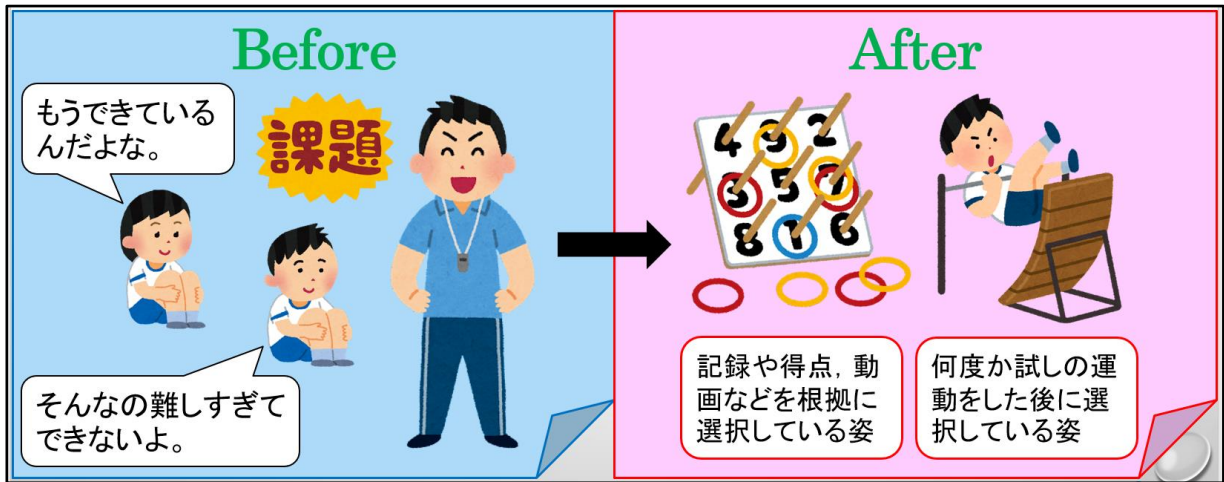
このことから、主体的・対話的で深い学びを実現しながら、児童が自己の身体を見つめる力を高めるために、「自分に合った課題や解決方法を設定する」「自分が体感したことを他者に伝える」「学んだことを自分なりの言葉で表現する」ための3つの手立てを講じる。



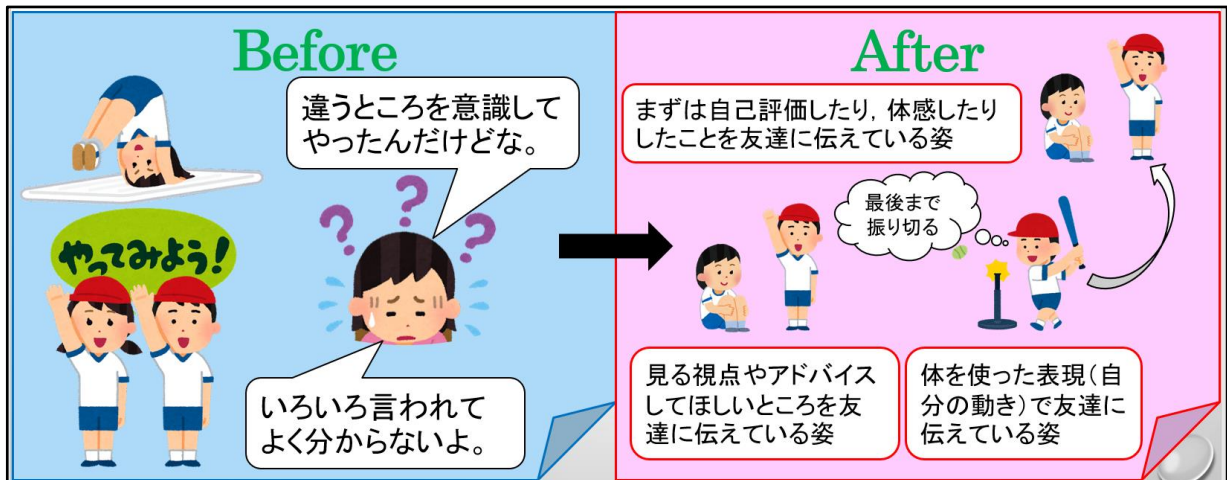
※「学んだことを自分なりの言葉で表現する」ことについて、諏訪（2022）は、「からだメタ認知」という言葉を用いて「外界から五感を通して感じたものごと（知覚）や、自身の身体の内なる体性感覚（体感）に自覚的に意識を留めて、ことばで表現しようと努力する」ことを大切にしている。

(2) 児童が自己の身体を見つめる力を高めている具体的な姿

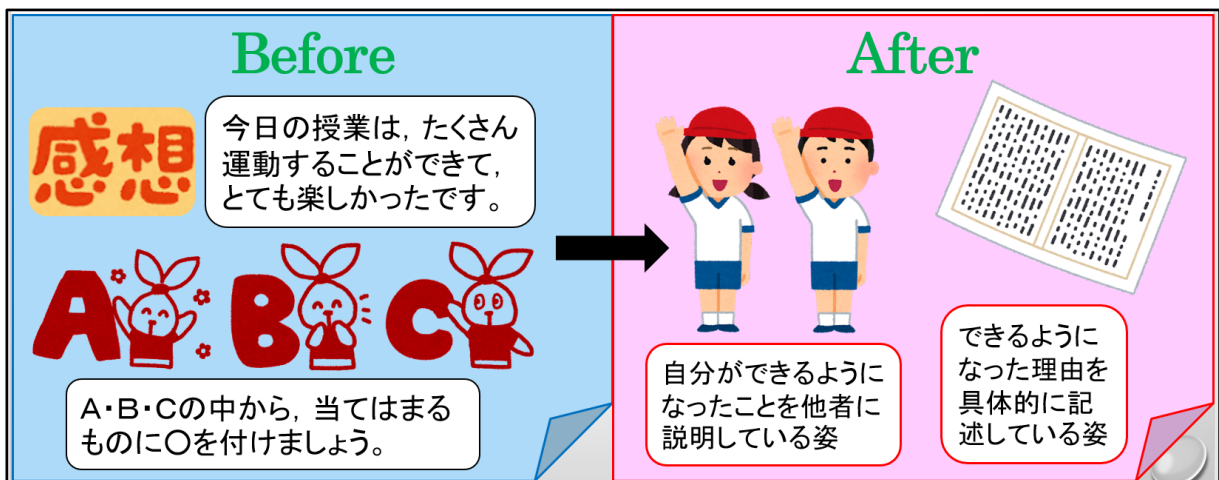
○主体的な学びを実現しながら、児童が自己の身体を見つめる力を高めるために、「自分に合った課題や解決方法を設定するための手立て」を講じる。



○対話的な学びを実現しながら、児童が自己の身体を見つめる力を高めるために、「自分が体感したことを他者に伝えるための手立て」を講じる。



○深い学びを実現しながら、児童が自己の身体を見つめる力を高めるために、「学んだことを自分なりの言葉で表現するための手立て」を講じる。



【引用・参考文献】

堀哲夫（2019）新訂 一枚ポートフォリオ評価 OPPA—一枚の用紙の可能性—．東洋館出版社．

日下智志訳（2022）メタ認知能力を育成する授業づくり—スコットランドの実践を基にした具体的方法．島影社．

文部科学省（2018）小学校学習指導要領（平成29年告示）．東洋館出版社．

奈須正裕（2022）新時代の学びを支える「授業改善キーワード」メタ認知．教育研究，77（12）．

諏訪正樹（2022）一人称研究の実践と理論—「ひとが生きるリアリティ」に迫るために．近代科学社．

（3） 提案授業・公開授業での成果と課題

【提案授業】新潟市立小針小学校 三本 雄樹 教諭

日 時：令和5年7月5日（水）14：30～15：15

単元名：第6学年 器械運動（マット運動）

手立て

- ① 「止まらずに前転2回」の連続技と「そのままの姿勢で開脚前転・前転」の組み合わせ技を実際に試し、自分で選んだ技に生かせそうなつなぎ方を選択する。
- ② 自分の感覚を言語化する「一人で練習する場」と、友達と感覚を共有する「友達と伝え合う場」を設定し、二つの場を児童一人一人が自由に選択しながら連続技や組み合わせ技に取り組む。
- ③ 「できたメーターを取り入れた OPP シート」を用いて本時を振り返り、知識・技能について自己評価したり、体感したこと（できるようになったことや課題）を言語化して表現したりする。



【公開授業】新潟市立桃山小学校 田村 真輝 教諭

日 時：令和5年11月1日（水）14：30～15：15

単元名：第3学年 体づくり運動（多様な動きをつくる運動）

手立て

- ① 「シャッターが空いたら入る」「前の人が跳んだら入る」「片足ジャンプ，片足着地」「走りながら跳ぶ」「走って出る」「急いで出る」などの言葉の中から、自分に合った解決方法を選択する。
- ② 共通の運動課題を設定し、それを達成するための跳び方について、評価（アドバイス）し合う。
- ③ 他の学級や学年に伝えるという明確な目的をもち、自分の体感と近い言葉を選んだり、必要な動きを言語化して表現したりしながら説明する。



【成果と課題】

- 学年に応じて、運動を通して体感したことを自分なりのコツとして言語化したり、教師が示したキーワードを活用しながら自分の学びを表現したりすることができた。
- ▲「自己の身体を見つめる力を高める児童」の具体的な姿を、1時間の授業の中で見取ることが難しかった。

3 新3本の矢作成グループ

昨年度に引き続き、「器械運動領域（跳び箱運動）」と「ボール運動領域（ネット型）」の2種類の「3本の矢」を新たに作成した。

【成果と課題】

- 新しい運動領域にも着手し、学習指導要領の学びを焦点化しながら、系統性を整理したことで、学びの道筋を明確に示すことができた。
- 活動を中心としながら「3本の矢」の内容を検討したことで、児童に身に付けさせたい動きとそのための方法について、より具体的に話し合い、練り上げることができた。
- ▲「3本の矢」のゴールを明らかにした後に「低・中・高」のそれぞれの矢を検討したが、系統性や検討の視点がぶれることがあった。
- ▲運動が得意な教師で内容の検討を行ったため、運動が苦手な児童の考えがイメージしにくかった。

4 3本の矢活用グループ

昨年度作成した「器械運動領域（マット運動）」「陸上運動領域（走の運動）」「ボール運動領域（ゴール型）」「表現運動領域（表現）」の4種類の「3本の矢」を実際の授業で活用し、成果と課題を踏まえながら内容の修正を行った。

【成果と課題】

- 「3本の矢」を基に、授業づくりに対する考えを広げたり深めたりすることができた。
- 一人1実践を行ったことで、「3本の矢」をよりよく活用するための視点を見つけたり、内容の修正を行ったりすることができた。
- ▲「3本の矢」を活用するための視点を、さらに検討・整理する必要がある。
- ▲体育部以外の先生方からも「3本の矢」を活用してもらえるように、再度、情報発信をしたり、内容をより分かりやすく示したりする必要がある。

新研究グループ 提案授業

〔单元名〕 第6学年 器械運動「マット運動」

〔授業者〕 小針小学校 教諭 三本 雄樹

0 本单元における自己の身体を見つめる力を高めている児童の具体的な姿

マット運動の回転系や巧技系の基本的な技やその発展技の中から、自分で選んだ技をよりスムーズにつながろうとした時に体感したこと（できるようになったことや課題）を言語化して表現している姿。

1 本時の実際（4時間目／全6時間）

（1）本時のねらい

技と技とのつなぎ方の工夫について、「止まらずに」と「そのままの姿勢で」のどちらかを選択して実際に試すことを通して、よりスムーズにつながるための体の使い方について説明することができる。

（2）本時の展開

学習活動	教師の働き掛けと予想される児童の反応	■評価・○留意点
1 学習課題を設定する。 （7分）	T1 学習課題は前回の授業と同じです。 学習課題 よりスムーズに連続して行うためにはどうしたらよいか？	○OPP シートに示されているゴールの姿を一読させる。
2 つなぎ方を選択する。 （8分）	T2 前回の授業で、技と技をスムーズに連続で行っている人がいたので、実際にやってもらいます。技と技をどんなふうにつないでいるか、よく見てください。 ①主体的な学びを実現するための手立て	○「止まってから」と「姿勢を元に戻してから」連続で行う示範を行う。
3 自己の能力に適した技を行う。 （18分）	T3 「止まらずに前転2回」と「そのままの姿勢で開脚前転・前転」を実際に試して、自分で選んだ技に生かせそうなつなぎ方を選びましょう。 ②対話的な学びを実現するための手立て	○「止まらずに」「そのままの姿勢で」「両方」の中から選んで、ネームプレートを貼らせる。
4 本時のまとめを行う。 （7分）	T4 「一人で練習する場」と「友達と伝え合う場」を自由に選択しながらやってみましょう。 C1 技が変わっても、すぐにマットに手を着くことができるように、手を前に出したらスムーズになった。 まとめ 【止まらずに】すぐに手を前に出す。 【そのままの姿勢で】床をしっかりと蹴る。	○苦手な児童に対しては、教師が積極的にかかわり、動きの変化を伝えたり、体感したことを聞いて価値付けたりする。
5 本時の振り返りを行う。 （5分）	③深い学びを実現するための手立て T5 「できたメーター」に線を引いて、メーターの長さの理由を OPP シートに書きましょう。 C2 「止まらずに」を選んで、すぐに手を着けるように手を前に出したら、技のスピードが速くなった。	○児童が体感したポイントを、2つのつなぎ方で分けて板書する。 ■よりスムーズにつながるための体の使い方について説明することができる。 （思考・判断・表現／学習カード）

2 成果と課題

○自己の身体を見つめたことで、自分の動きを認識し、自分自身の動きの質をさらに高めたり、友達にアドバイスをしたりする姿が見られた。

○OPP シートの記述内容から、児童が運動している時に考えていたことを見とることができた。

▲「自己の身体を見つめる力を高める児童」を45分間の授業の中で見とることが難しかった。

新研究グループ 授業実践

[単元名] 第3学年「体づくり運動」(多様な動きをつくる運動) 長なわ～連続回旋跳び～

[授業者] 桃山小学校 教諭 田村 真輝

0 本単元における自己の身体を見つめる力を高めている児童の具体的な姿

多様な動きをつくる運動の長なわで、なわに入るタイミングの取り方や跳び方について、気付いたことやできるようになったことを言語化して表現している姿。

1 本時の実際(4時間目/全7時間)

(1) 本時のねらい

「むかえなわ」の跳び方について、自分の体感と近い言葉を選ぶことを通して、「むかえ連続」を行うために必要な動きを自分の言葉で説明することができる。

(2) 本時の展開

学習活動	教師の働き掛けと予想される児童の反応	■評価・○留意点
1 前時の復習をする (5分)	T1 それではみなさん、まずは「かぶりなわ」で連続10回跳んでみましょう。 C1 うまくで跳べた。	○跳んだ後にかぶり連続の跳び方を掲示物で確認する。
2 学習課題を設定する (10分)	T2 今日は「むかえなわ」で連続で跳ぶには、どんな跳び方がいいか、みんなで見付けていきましょう。 学習課題 「むかえなわ」でれんぞくでとぶには、どんなとび方がいいか?	○単元を通して跳び方を「入る」「とぶ」「出る」の3つに分ける。 ○ロイロノートで跳び方の課題と、自分に合う解決方法を選択させる。
3 自分に合った解決方法を選び、再挑戦する (15分)	T3 跳び方の課題を決めて、解決できそうな言葉を選びましょう。 T4 自分が選んだ言葉を意識したり、友達とアドバイスし合ったりして、連続10回に挑戦しましょう。 C2 片足でジャンプして、片足で着地すると、両足の時よりも早く出ることができた。	○苦手な児童に対しては、なわをゆっくり回すように声を掛けたり、教師が回したりするなど、教師が積極的にかかわる。
4 本時のまとめを行う (10分)	まとめ 【入る】 前の人をとんだら入る。 【とぶ】 かた足ジャンプ、かた足着地。 【出る】 走って出る。	
5 本時の振り返りを行う (5分)	T5 今日の授業の振り返りをします。隣のクラスに説明できるように書きましょう。 C3 「とぶ」が課題で、友達から「片足でジャンプして、片足で着地する」といいと言われて、それをやってみたら上手く跳ぶことができた。	■「むかえ連続」を行うために必要な動きを自分の言葉で説明することができる。(思考・判断・表現/学習カード)

2 成果と課題

○最初はできなかった「むかえなわ連続跳び」が、自己の課題を見付け、自己の身体を見つめながら試すことで、最後はできるようになった。

▲仲間同士の対話的な場面が少なく、アドバイスする子が限られていた。

1 主 題 「課題をもち、主体的に学び合う生徒の育成」
～深い学びにいたる、わかる・できる授業を目指して～

2 研究内容

1 一斉研修会

一斉研修会の内容については、事業一覧を参照。

2 分科会

(1) 第一分科会（北・東区）

新潟市立葛塚中学校 授業者：渡部 洋太 教諭
器械運動 「跳び箱運動」

(2) 第二分科会（中央・江南区）

新潟市立寄居中学校 授業者：大島 佳子 教諭
器械運動 「マット運動」

(3) 第三分科会（秋葉・南区）

新潟市立白根北中学校 授業者：新井 慧真 教諭
保健分野 「心の健康（心身の機能の発達と心の健康）」

(4) 第四分科会（西・西蒲区）

新潟市立中野小屋中学校 授業者：大滝 泰樹 教諭
器械運動 「マット運動」

3 成果と今後の課題

今年度は県中教研指定研究 2 年目となり、第 3 分科会が県中教研指定研究校を兼ねて分科会を行った。第 3 分科会へは各校の体育主任の参加、他の分科会へは、2 名以上の部員が所属する学校から主任以外の部員の参加を求めた。昨年度より多くの部員から分科会へ参加していただき、授業者にとっても、参会者にとっても充実した公開授業、協議会を持つことができた。特に、若手の部員にとっては貴重な時間となり、自身の実践への活用に役立ったと考える。

各分科会の振り返りと研究主題達成に向けた授業の視点から考えられる成果としては、運動の持つ楽しさや特性に触れさせようと、授業者の生徒に対する声掛けや、わかる・できる授業のために仕掛けた手立てが効果的に働いている場面が多かったことが挙げられる。また、課題解決に向け、仲間とかかわったり、教え合ったりする活動が多く取り入れられており、運動技能の向上や学習内容の深まりを促すことにつながっていた。

iPad の活用についても、課題解決のために運動の映像を比較することや、考えや振り返りを視覚的にとらえることで学びの蓄積と深まりに効果が見られた。

一斉研修会では、各分科会の公開授業の様子や協議会の様子を部員と共有することができた。

研究主題の「深い学びにいたる」について、より具体的な「深い学びの姿」を設定し、部員とともに共有していくことが課題であると考えられる。

令和5年度

「保健体育部」事業一覧

月	日	事業名	会場	内容	参加者数
5	11	保健体育部総会 第1回幹事会	巻東中学校	令和4年事業報告、会計報告 令和5年事業計画、予算案	11
8	31	第2回幹事会	巻東中学校	分科会指導案検討 等	18
9	21	第1分科会	葛塚中学校	授業者：渡部 洋太 教諭	16
10	12	第2分科会	寄居中学校	授業者：大島 佳子 教諭	22
10	18	第3分科会	白根北中学校	授業者：新井 慧真 教諭	64
10	26	第4分科会	中野小屋中学校	授業者：大滝 泰樹 教諭	17
11	9	一斉研修会 日 時 11月9日(木) 14:00～16:45 開催方法 参集型、ZOOMによるWEB会議形式 内 容 1 令和5年度市中教研保健体育部 活動報告 2 今年度の各分科会について(授業者・担当幹事) ① 第1分科会 「器械運動」(跳び箱運動) 葛塚中学校 渡部 洋太 教諭 ② 第2分科会 「器械運動」(マット運動) 寄居中学校 大島 佳子 教諭 ③ 第3分科会 保健分野「心身の機能の発達と心の健康」 白根第一中学校 新井 慧真 教諭 ④ 第4分科会 「器械運動」(マット運動) 中野小屋中学校 大滝 泰樹 教諭 3 ご指導 市立総合教育センター 指導主事 音田 和行 様 4 情報交換		140	
2	22	第3回幹事会	巻東中学校	令和5年度事業反省 令和6年度事業計画立案 等	12

第一分科会授業実践

[単元名] 第3学年「器械運動（跳び箱運動）」

[授業者] 新潟市立葛塚中学校 教諭 渡部 洋太

1 児童（生徒）と単元の指導構想

○単元について

器械運動は、マット運動、鉄棒運動、平均台運動、跳び箱運動で構成され、器械運動の特性に応じて多くの「技」がある。これらの技に挑戦し、その技ができる楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。器械運動で学習する技は、逆さになって回転したり、ぶら下がって回転したり、手で支えて跳び越したりする巧技的な運動で、日常においてあまり経験しない非日常性を特徴にしている。そのため目標とする技を学習対象にして、その動き方を身につける学習が必要になってくる。技の特性から、「できる」「できない」が見た目に明確に表れるため、苦手とする生徒も含めてすべての生徒が技を身につけたり成長する喜びを味わうことができるように、自己の技能の程度に適した技を自ら選択することができたり、課題に応じた練習方法を工夫したりすることが大切である。

器械運動では、中学校第1学年および第2学年は「技がよりよくできる」こと、第3学年は「自己に適した技で演技する」ことをねらいとされている。跳び箱運動では、「切り返し系や回転系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技、発展技を行うこと」をねらいとしている。「知識・技能」においては、自分の技能の状態や技の難易度に応じて、どの「できる」を目標に学習を進めるかを明確にすることで、高めることができるようにする。「思考・判断・表現」においては、段階的な練習の仕方や技の習熟のさせ方、組み合わせ方などを考え工夫するとともに、他者にそれらを伝えることができるようにする。「主体的に学習に取り組む態度」においては、仲間と自己の目指す動きの違いなどを教え合いながら協力し合って学習することや、安全に運動をできるようにする。これらのことを単元の中で生徒が実践できるように伝えたり示したりすることはもちろん、指導者が広い視野で生徒を見取りながら学習を展開していきたい。

2 本時の計画（3時間目／全5時間）

（1）本時のねらい

跳び箱運動の選択技について、iPadを一つのコミュニケーションツールとして活用し小グループ内の仲間から自分の演技を評価してもらおう活動を通して、より滑らかな演技に高めるための新たな課題に気づいたりことができる。

（2）本時の構想

本時は、前時までに自分視点で改善点や課題を見つけて活動する取り組みを行った上での活動を行う。iPadを用いて動画撮影等の活動を小グループで行い、仲間から客観的な視点で評価をしてもらうことで、自分の演技に自信がついたり、生徒同士が互いによりよい技になるように高め合う環境をつくりたい。指導者からではなく仲間からの客観的な視点でのアドバイスをもらったり、よいところを褒めてもらったりする活動を通して、別の視点での課題が見つかったり、自信がついたりするような体験をすることで生徒の支持的活動による授業をつくりたい。そして、テスト用の提出動画撮影に向けて、より滑らかで美しい演技を目指していく意識づけをしたい。

(3) 本時の流れ

学習活動	教師の働き掛け (T) と 予想される児童生徒の反応 (S)	■評価・○留意点
<p>導入 (10分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・整列, あいさつ, 点呼, ラジオ体操, ストレッチ ・跳び箱準備 	<p>S : あいさつ, 点呼, ラジオ体操・ストレッチを行う。</p> <p>S : 分担ごとに跳び箱等を準備する。</p>	<p>体育館に来た生徒から持ち物をステージ上に置いて整列。</p>
<p>展開 (25分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の流れの確認 ・前時の復習 ・学習課題の提示 ・本時の視点 	<p>T : 次回からテスト動画の撮影を行うために今日は, 自分の選択している繰り返し技と回転技の確認練習をします。</p> <p>T : 今日の流れはこの通りです。(ホワイトボードに示しておく)</p> <p>T : 前回の復習をします。「滑らか」な演技につながるポイントにはどのようなポイントがありましたか。(3つの視点を利用)</p> <p>S : 助走スピードを出しすぎない。</p> <p>S : 踏切の方向や強さ。</p> <p>S : 手のつき方。</p> <p>T : そうですね。前回みんなで確認した「滑らか」な演技になるためのポイントはこうでした</p> <p>T : 前回は, 自分自身で気を付けて演技してみました。その中で, 自分がしている演技が完璧に滑らかかどうか自信をもって言えますか?</p> <p>S : うーんそう言われると・・・。</p> <p>T : ではそのために, 今日はグループで, もっと良くなるポイントはないか, 「滑らか」かどうかみ合ったりアドバイスし合ったりしてみたいと思います。</p>	<p>準備が終わったらホワイトボード前に前回のグループごとに集合する</p> <p>【3つの視点】</p> <p>①助走・踏切・着手</p> <p>②空中姿勢(台上姿勢)</p> <p>③着地</p> <p>の3つの視点を使う</p> <p>ロイロノートの利用で繰り返し技と回転技のポイントをそれぞれ確認する</p>
<p>学習課題 : 選択した自分の技がより「滑らか」になるには具体的に何を意識すればよいだろうか。</p>		
<p>T : では今日はグループの仲間を互いに見合って, 仲間が選択した技をより滑らかにするための課題は何か, また, よいところはどこかを見つけてみたいと思います。みなさんは, 繰り返し技と回転技から今日はより滑らかにしたい技をどちらか1つ選んで仲間に見せてみましょう。</p> <p>T : 流れは, ウォーミングアップをした後, まず個人で技の練習をする時間を少しとります。その後, 練習した技をグループの中で見合ったり, 動画撮影をしたりします。最後にその動画を見せ合いながらお互いに気づきたいところや課題になるところを伝え合ってみます。今日みてほしい視点は, 前回から示している, 「滑らかになるための3つの視点」</p>		

<ul style="list-style-type: none"> ・ウォーミングアップ ・個人練習（5分程度） ・グループ活動（動画撮影） （10分） 	<p>です。この3つシーンの中で課題やポイントは何かを意識して後でアドバイスしてもらいます。まず、アップをします。</p> <p>S：列ごとに台に分かれて基本的な動きを入れたアップを行う。終わった人から座る。</p> <p>T：ではここから選択技の個人練習に入ります。まず、段数は変えず進めて個人練習をして、後ほど撮影をしながら上げていきますので後ほど申し出てください。では練習を始めます。</p> <p>T：発展的な技を見ながら課題につまずいている生徒へ声かけや働きかけを行う。</p> <p>T：いったん個人練習をやめてください。これからグループごとにアドバイスや映像撮影を行います。今日は最初に選択した技を1つ選んで演技をして、お互いにアドバイスや撮影をしてください。ここからは、必要に応じて段数を変えて練習しながら撮影してもかまいません。では、アドバイスをしあったり自分のタブレットを預けて撮影してもらう時間をとります。</p>	
<p style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">終末（15分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の小グループでのアドバイスタイム （10分） 	<p>T：小グループの仲間の映像を見合いながらよいところや課題になると思うところを伝え合ってみましょう。アドバイスをする人たちは、最初に示した3つの視点を元にアドバイスやよいところを伝えてください。アドバイスをもらう人は、アドバイスやよいところをプリントに記入しながら聞きましょう。（やり方を示す）</p> <p>ではアドバイスをもらう人の順番を決めてください。1人2分ほど時間をとります。では1人目のアドバイスタイムです。スタート。 （2人目、3人目と進める・・・）</p> <p>S：着地はきれいだけど、空中姿勢は乱れる。 S：回転する形はいいけど、おしりが奥にぶつかっている。</p> <p>T：では、アドバイスタイムを終了します。今もらったアドバイスやよかったところをいくつか教えてください。</p> <p>S：空中姿勢が乱れていた。 S：踏み切りが弱い。 S：視線が低くて着地が悪い。</p> <p>T：様々な課題やよいところが出てきました。これらはすべて「滑らか」につながるポイントですし多くの方が自分もその課題に当てはまるというものがあると思います。たくさん出てきましたが、おおきくまとめるとこれが今日の課題のまとめになります。次回からのテスト用の映像撮影につなげていきましょう。</p>	<p>生徒の活動の様子や時間をみて区切りをつける。その後タブレットとプリントを持ってホワイトボード前に集合させる</p>

第二分科会授業実践

[单元名] 第1学年 「器械運動(マット運動)」

[授業者] 新潟市立寄居中学校 教諭 大島 佳子

1 生徒と単元の指導構想

今回の単元の前半では、全員が倒立前転の技能習得・技能向上を目指して単元を展開する。その手立ての一つとして毎回の動きづくりに、倒立前転につながる動きを取り入れる。

一人ひとりがより良い倒立前転にするために運動観察(自己観察・他者観察)を行うことを通して、運動の感覚をつかませたい。特に、倒立前転では、上体が鉛直になるため、自身の体感している体の角度と他者から見られた実際の角度を互いに共有し、比較することを通して、主体的に自身の運動の感覚を探らせる。

また、倒立から前転に入る局面では、下半身が鉛直を過ぎてから、前転に入る局面で自己の体を支える感覚をつかませたい。そのために大きな前転を動きづくりに取り入れ、耐える時間を実感しながら、体を下ろし前転にはいるようにしたい。自分の課題を見つけ、課題解決のために考えを深め、考えたことを練習で実践し、「できる」を実感できる授業を目指したい。

<動きづくり>

- ① 四足歩行 2本
- ② ウサギ 2本
- ③ 首のストレッチ 10秒
- ④ 首倒立 10秒
- ⑤ 首倒立から手を放して起きる 3回
- ⑥ ゆりかご 5回
- ⑦ ゆりかごから起きる 3回
- ⑧ 前転 2回
- ⑨ 後転 2回
- ⑩ 頭倒立から前転 3回
- ⑪ 大きい前転 4回
- ⑫ 耐える大きい前転 4回
- ⑬ 脚の入れ替え 3回
- ⑭ 鉛直まで脚の入れ替え(徐々に鉛直に近づける) 3回
- ⑮ 補助者の腕をタッチして脚の入れ替え 2回

2 本時の実際(4時間目/全6時間)

(1) 本時のねらい 倒立前転がより良くできるためのポイントについて、仲間との対話を通し、自己の課題を明確にし、より良い演技ができる。

(2) 本時の構想

各自が自己の技の映像を見たり、他者からのアドバイスを聞いたりする中で、足の位置や体の角度などを理解しながら、少しずつ理想的な倒立前転に近づけるように、主体的に練習に取り組ませたい。そのために、前時までは自分の動きを動画で確認し課題となる点を考えてきたが、本時は班のメンバーからアドバイスをもらうことで新たな気づきやアドバイスを参考に、より良い演技へつなぎたい。

各班が学習した倒立前転のポイントを確認しながら練習を行うとともに、動きづくりがより良い倒立前転につながることを理解させたい。また、課題解決に主体的、協働的に取り組む活動を取り入れる。

(3) 本時の展開

学習活動	教師の働き掛けと予想される児童生徒の反応	■評価規準(観点/方法)・○留意点
導入 15分 整列 号令 点呼 本時の説明 動きづくり	S1 一斉に決められたウォーミングアップをする。 S2 基礎感覚づくり運動をする(15種目)	○安全に留意しながら運動に取り組むことができる。
学習課題 倒立前転がより良くできるために、大切なことは何だろう。 また、動きづくりのどの練習が効果的か考えよう。		

	<p>T1各自で、倒立前転をより良くするためのポイントを確認する。うまくいっていること、改善が必要なことを各班で確認する。改善が必要な場合、動きづくりの中のどの運動を練習することが効果的か考える。</p> <p>T2 各班でアドバイスをするとき大切なポイントを確認する。</p> <p>T3 出し合った意見をそれぞれの視点でお互いにタブレットで撮影し、それぞれの課題を見つける。</p>	<p>○前時の、各班での練習をテレビに投影する。</p> <p>運動の観察の視点と練習の取り組み方についてテレビに投影する。</p>
<p>展開① 15分</p> <ul style="list-style-type: none"> 倒立前転を撮影し、自分で見る。 自分の状態を仲間に相談し、仲間と検討する。 動きづくりと関連させながら考えさせる。 互いに見合ったり、アドバイスしあったりする。 <p>展開② 10分</p> <ul style="list-style-type: none"> プロGRESSカードに、自己の課題を記入する。 グループで倒立前転がより良くできるために、大切なことについて話し合う。 ポイントをまとめる。 	<p>S3 班内でアドバイスしあう。</p> <p>T4 各班で、より良い倒立前転を確認し大切なことをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 今日の練習で明らかになった自分の課題をプロGRESSカードに記入。 演技を見直して、発表の準備をする。 	<p>○安全に運動に取り組んでいるか巡回して助言する。</p> <p>○映像の確認が長い班に、確認時間と、活動時間の分配について助言する。</p> <p>○仲間の課題について、ポイントを絞ってアドバイスができる。</p> <p>○各班での話し合いの様子を観察しながらフィードバックに生かす。</p> <p>■体をマットに順々に接触させて回転する動き方や、回転力を高める動き方で、基本的な技の一連の動きを滑らかにして回ることができる。</p> <p>(技能①/観察、ワークシート)</p>
<p>終末 10分</p> <p>集合・整列 学習のまとめ</p>	<p>T5 各班のまとめを発表</p> <p>S4 代表生徒の発表</p>	<p>■技の行い方は技の課題を解決するための合理的な動き方のポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。</p> <p>(知識②/発表、ワークシート)</p> <p>○和やかな雰囲気での発表ができるよう配慮する。</p> <p>○生徒から出された言葉を取り入れながらまとめる。</p> <p>○自己の課題を明確にして、次時以降の学習に主体的に取り組もうとしているか。</p>
<p>まとめ より良い倒立前転で大切なこと</p> <p>① 倒立時にマットを見る ② 優しく脚を振り上げる</p> <p>② おへそを見ながら前転する 動きづくりとの関連も確認する。</p>		
<p>フィードバック 振り返り記入 号令 挨拶・解散</p>	<p>T6 基本的ポイントを挙げ、仲間と話し合ったり、協力して課題を解決しようとしたかを確認する。各班で考えたポイントを次の練習につなげさせる。</p>	

3 成果

- ① iPadを活用することで、客観的に自分の動きを見たり、映像を止めたり、スロー再生で見ることでポイントに対して振り返りや意見交換、アドバイスが行いやすい。
- ② 倒立前転習得のための「15種類の動きづくり」は段階を踏んで練習することで、もっている力に合わせて上達していくことを生徒が実感できた。

4 課題

- ① 課題別班を作るなど、班編成に工夫が必要だと感じた。できる生徒からのアドバイスも有効ではあったが、同じ課題を共有する者同士で、解決策を考える時間を設け練習を充実させていきたい。

第三分科会授業実践（保健分野）

【単元名】 第1学年 単元：心身の発達と心の健康

【授業者】 新潟市立白根北中学校 教諭 新井 慧真

1 単元と指導の構想

(1) 単元について

「保健分野:心身の発達と心の健康」の単元は、体の諸器官が発達することや内分泌系の働きによって生殖に関わる機能が成熟すること、また、精神と身体は相互に影響を与え、関わり合っていることなど将来の自分に深く関わる内容を取り扱っている。中学校の年代は、これらの発達が著しいことから保健体育の授業で扱うことは重要であるといえる。

思春期の年代は疾風怒濤の時代とも言われるように、自らの体の発育と心の発達が噛み合わず、アンバランスとなることもしばしば見られる。さらに、人間関係での軋轢や様々な欲求不満が原因で生じるストレスの正しい対処を理解できていないと、自分をコントロールできなくなってしまうこともある。本単元では、教える知識量が多い為、講義型で進める場面が多くなってしまうことが予想される。そこで、ロイロノートを活用し、シンキングツールを用いることで生徒が少しでも自分事として捉えるようにし、他の生徒と考えをやりとりすることを通して互いに成長していく関係性を築いていきたい。

(2) 指導の構想

今回授業を行う1年3組は男子15人、女子15人の計30人で、授業中には活発な発言や意見交流が見られる。保健分野の授業にも意欲的に参加し、自分もった疑問を教師につけるなど、活発な意見交流がみられる。欲求不満の状態は時として人間が成長するために必要不可欠であり、欲求を満たそうと努力することで自己肯定感が醸成されるという一面もあることに気付かせたい。そこで以下の手立てを講じることにした。

手立て1：「座標軸」を用いて「テストで良い点を取りたかったけれど、取れなかった」という欲求不満への対処の仕方を分類する。

「テストで良い点を取りたい」という欲求への対処の仕方を座標軸に配置する。この活動では、欲求不満への対処の仕方を提示する。この活動を通して、欲求への対処とその行動が、欲求を満たすものかどうか、適切な行動かどうかを可視化する。そうすることで、手立て2での欲求への対処法を考える際の手がかりとする。

手立て2：「欲しいものが手に入らない」という身近なテーマについて、欲求不満への対処の仕方を考え、それが適切な行動かどうかを考える。

次に、適切な欲求不満への対処の仕方を考えるため、「欲しいものが手に入らない」時にどのような行動を取るかを考える。まず個人で考えた後、班の中で選択した行動とその根拠を共有する。こうすることで、対処の仕方は1つではなく、数ある中から取捨選択をし、行動に映すことが大切であることに気づかせる。また、班で共有することで自分では思いつかなかった欲求不満への対処の方法に触れることができる。そうすることで今までとは異なる視点で解決法を考えることにつながる。また、無意識で行なっている行動の判断基準を可視化することで、欲求が単に満たされるかどうかだけで判断しているわけではないことにも気づかせる狙いがある。

2 本時の実際

(1) 本時のねらい

欲求の対処について、シンキングツール(座標軸)を用いて分類し、欲求が満たされない際にどのような行動をとるべきかを考える活動を通して、適切な問題解決が大切であることに気づくことができる。

(2) 展開

学習活動	教師の働きかけ (T) と予想される生徒の反応 (S)	■評価規準・留意点
<p>【導入】 7分</p> <p>1.前時の学習内容の確認</p> <p>2. テーマ1について考えながら、座標軸の使い方を確認する</p>	<p>T1:前回の保健の授業の復習をします。前回は欲求についてやりました。教科書を見ると書いてありますが、3種類ありましたね。覚えていますか?</p> <p>S1:覚えています。</p> <p>T2:今日は、身近なテーマで、欲求を満たすためにどのように行動するかを考えてみます。</p> <p>T3:これから提示する行動が、グラフのどこに配置できるか考えてみます。縦軸が、その行動が「アリ」か「ナシ」か、横軸はその行動をとることで欲求が満たされるかどうかです。つまり、欲求が満たされて「アリ」の行動はグラフの右上に配置されるということです。</p> <p>T4:「テストで目標点を取れなかった時」がテーマです。まず、「コツコツ努力する」はどうですか?</p> <p>S2:グラフの右上です。</p> <p>T5:「高い授業料を払って塾に行く」はどうですか?</p> <p>S3:座標軸の右上です。</p> <p>T6:違う意見はありませんか?</p> <p>S4:座標軸の右下です。</p> <p>T7:そう思ったのはなぜですか?</p> <p>S5:塾に行けば点数は取れるかもしれないけど、高い授業料は払えないからです。</p> <p>T8:人によって、同じ行動でも「アリ」か「ナシ」か違うんですね。</p> <p>T9:では、皆さんはどうやってその行動が「アリ」なのか、「ナシ」なのか判断するのでしょうか。それを今日は考えてみましょう。</p>	<p>・生徒がわかりやすいような言葉で前時の内容を確認する。</p> <p>・黒板上でカードの位置を確認しながら座標軸の使い方を確認する。</p>

【展開】30分		
3. テーマ2について個人で考える	T10:では次に、別のテーマについて考えます。「あなたには今10000円の欲しいものがあります。その欲しい物は1万円です。しかし、あなたの所持金は8000円です。」というテーマです。こちらで用意したカードと、自由記述のカードを座標軸に配置してみましょう。自由記述のカードには、こんな方法もあるんじゃない?というものを書いてください。たくさん書ける人は、4枚全て書いても構いません。	<ul style="list-style-type: none"> ・考える活動に集中するため、相談せずに個人で考える。 ■意欲的に自分の考えをカードに記入している。(態)
4. 行動選択をし、その理由を考える	T11:次に、自分だったらどの行動をするかを選び、その行動をとる理由を記入してください。	<ul style="list-style-type: none"> ■自分の考えたことを仲間に伝えようとしている。(思)
5. テーマ2について班で共有する	T12:では、班の中で自分が選んだ行動と、その理由を共有します。班長から時計回りに発表してください。 S6:「きょうだいでお金を出し合って買う」を選びました。理由は・・・	<ul style="list-style-type: none"> ■自分の意見を積極的に仲間に伝えている。(態)
6. 生徒の意見をシェアリングする	T14:○○さんだったらどの行動を選びますか? S8:私だったら「中古品の安くなった物を買う」を選びます。なぜなら、私の家ではお手伝いをしてもお金はもらえないからです。 T15:同じカードでも、違う理由があるんですね。	<ul style="list-style-type: none"> ・同じカードでも違う理由があることなどに着目させる。 ・個人作業に集中するため、机を元に戻す。 ・異なる行動を選んだ生徒数人に意見を訊く。

<p>【終末】 17分</p> <p>8. まとめ</p>	<p>T:では、今回のまとめです。欲求不満の状態になった時の行動の仕方として次の3つがあります。そもそも、その欲求を自分が満たせそうかどうかを判断する。もう1つは欲求を満たすための何を考えますか？</p> <p>S:別の方法 S:現実的な方法 S:努力する</p> <p>T:その通りです。この3つを考えて欲求不満の状態にうまく対処していくことが大切です。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>【まとめ】 欲求不満には、適切に対処することが大切である。 ・その欲求が自分にふさわしいかどうか判断する。 ・欲求を満たすための別の方法を考える。 ・欲求を満たすために今以上に努力する。</p> </div>	<p>■欲求への対処には様々な方法があり、選択することが必要であることを記入している。(技)</p>
<p>9. 振り返り</p>	<p>T:では、数人に聞いてみます。〇〇さんはどのように記述しましたか？</p> <p>S:私は、合唱コンクールで最優秀賞をとりたいので、さらに練習を頑張りたいと思いました。</p>	<p>■実生活と授業でのケースを関連づけて振り返りを記入している。(知)</p>

3. 成果

- ① 座標軸や行動カードの使用は、視覚的にも分かりやすく、学習課題からまとめまで自分ごととして捉えやすかった。
- ② 抽象的である「アリ・ナシ」というワードをあえて使うことで、表現が苦手な生徒も自分の意思を発信できた。
- ③ ICTを使用して欲求不満への対処の仕方を分類したことで、「人によって対処法は異なる」ということを強調することができた。

4. 課題

- ① 事前アンケートを実施し、テーマをより自分事として捉えさせることができなかった。
- ② まとめや振り返りの場面で、最終て時に自分事としての落とし込みと共有の時間が足りなかった。
- ③ 「アリ・ナシ」という言葉が、個人としてなのか、社会的になのあなどの指針を示しても良かった。

第四分科会授業実践

【単元名】第2学年「器械運動(マット運動)」

【授業者】新潟市立中野小屋中学校 教諭 大滝 泰樹

1 生徒と単元の指導構想

(1) 単元について

器械運動は、マット運動、鉄棒運動、平均台運動及び跳び箱運動で構成され、器械の特性に応じて多くの「技」がある。これらの技に挑戦し、その技ができる楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。また、「できる」「できない」がはっきりとわかり、技が完成するまでの過程が大切な運動でもある。技を習得する過程で、生徒が自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えを他者に伝えることができる力を育成したい。また、器械運動の学習に積極的に取り組み、良い演技を認め合うことや、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認め合うことなどに意欲を持てるよう、単元の構成を工夫したい。

(2) 指導観

マット運動を行う際、基本的な技を滑らかに行うことができないと、発展技を習得することは難しい。まずは基本的な技を滑らかに行えるように、フローチャートを活用し、「できる」「できない」の可視化から学習をスタートしたい。そこで、技群ごとの授業のはじめに、基本的な技のフローチャートを1つ作成し、滑らかに行うことを目標に学習するよう促す。単元の2時間目(本時)でフローチャートの使い方を学習し、各授業でフローチャートを活用できるようにする。可視化の良い点として、1つの観点ができるごとに、「できる」達成感を味わえることが挙げられる。本単元の構成は、もともと達成感を味わいやすいものになっているが、さらに細かく授業ごとに達成感を味わうことで、生徒の意欲を高めることができる。

授業では、ICT 機器を活用し、自己の技の動画と手本の動画を見比べたり、授業の最初と最後での変容を動画で確かめたりして、「できない」もしくは「できる」ポイントを見つけやすくする。

単元の最後には、フローチャートを利活用し、練習してきた技を「はじめ～なか～おわり」で構成し、テストを行う。さらに、技の一覧シートを用意し、できた技に動画もつけて提出することで技能の評価を行う。このことにより、技能習得が強化されると考える。



(3) 生徒観

今回授業を行う2年1組は男子5人、女子5人の合計10人で、活発な発言や意見交流が見られる。一方で、授業と関係のない話が出たり、集中力が続かなかつたりする生徒が数人いる。男女の仲は良好であるが、対立することもある。また、自己肯定感の低い生徒や、体育に苦手意識を持つ生徒もいる。そこで、授業内で自己の動きを見て考えるだけにならないように、同じ班の人にアドバイスする機会等を設けて、取り組みやすい環境づくりをする。

アンケート調査を行い、技が「①できる ②それなりにできる ③できない」の3択で回答欄を設けた。結果としては、後転は「①5人 ②3人 ③2人」、開脚後転は「①5人 ②2人 ③3人」であった。

2 本時の計画 (2時間目/全10時間 生徒数10名)

(1) 本時のねらい

後転について、自己の動きを分析し、班員とアドバイスをし合いながら作成したフローチャートを活用して技の習得に適した練習をすることを通して、滑らかな後転ができるようにする。(知技)(思判表)

(2) 本時の展開

学習活動	教師の働き掛けと予想される児童・生徒の反応	■評価 ○留意点
0 準備体操, 挨拶 導入 (10分) 1 “できる”後転をみて、何が足りないかを考える。 2 課題を確認する。	T1: 事前にとったアンケートの結果を見てみましょう。 T2: みんなは、「できる・できない」をどうやって判断しましたか? S1: わかんない…! 後ろに回れば! まっすぐ回れる! T3: では、この後転はどうですか? S2: 両手がしっかりついている! 勢いがある! 足が上に上がっていない! T4: この後転のどこがいいんだろう…	○テレビでアンケート結果を表示する。 ○滑らかな後転が開脚や伸膝や後転倒立につながることを伝える。 ○課題をテレビに提示する。
<学習課題>	滑らかな後転ができるようにするにはどうしたらよいか。	
展開 (35分) 3 後転の動画を撮る。(4分) 4 班員とフローチャートを作成する。(8分) 5 フローチャートで出た「できない」の中から1つ選び、それに合った練習を行う。(6分) 6 場を戻し、後転の練習をした後(3分)、もう一度動画を撮る。(4分) 7 授業前後の変化を確かめる。(8分)	T4: まずは後転の動画を撮りましょう。カメラで撮るようにしましょう。 T5: 見本と自分の動画を見比べて班全員でフローチャートを作成しましょう。 T6: 自分の「できない」から練習を選んでもらいたいと思います。 T7: 自分の練習したい場を選んでください。 S3: 勢い! 足の方向! 手の付き方! T8: (4分ほど経ったら)ほかの場でも練習してよいです。 T9: それでは、練習した成果を出せるように後転をやってみましょう。 T10: 撮影タイムに入ります。右スタートになるように撮影しましょう。 T11: 今の動画と最初の動画を見比べましょう。	○右スタートで撮るように促す。 ■仲間の課題や出来映えを伝えている。 ○難しそうであれば、動画を止めながらヒントを与える。 ○「できる」人へのフォローをする。(教える役&手伝い役) ○場を作る ①タンブリン ②ボタンプッシュ ③坂道 ■滑らかな後転ができる。 ○ロイロノートで撮影する。 ■仲間の課題や出来映えを伝えている。 ○大きなポイントがあったことを促す。

8 まとめ(2分)	T12: 授業の前半と後半で変化のあった人はいますか? S4: 変わりません。あります! T13: どこがどう変わりましたか?	○まとめにつながるようにまとめる。
終末 (5分)	<まとめ>フローチャートで「できない」ことを可視化し、スモールステップで練習すると良い。	
9 振り返りをする。	T14: フローチャートを基に練習した感想を書きましょう。 T15: 終わったら提出してください。	■ 自分のポイントを言ったり書きだしたりしている。

3 成果

本時の手立ては以下の2つであった。

- ①自分の動きと手本の動きを比較する動画を作成して、成功するためのポイントを見つける。
- ②フローチャートを活用することで、得意な人も苦手な人も自分にあった目標設定をして取り組めるようにする。

①の手立てに関して、学習用端末のスプリットビューを利用し、比較しやすい動画を作成した。その動画を活用し、コマ送りにしてポイントを見つけたり、動きを途中で止めて位置を確認したりすることができた。

②の手立てに関して、個人の目標に合った場を選択できるように、3つの場を用意した。フローチャートでは、色分けやマーク付けをすることで、自分の「できる」「できない」を確認しやすくすることができた。

4 課題

- ①ICTの活用や説明に時間をかけすぎず、活動量を増やす工夫。
- ②できる生徒に、発展的な課題を用意しておくこと。
- ③練習時、お互いにアドバイスしやすい活動を組織すること。

Ⅲ 体育連盟の活動

[1] 新潟市小学校体育連盟の活動

1 第53回新潟市小学校陸上競技記録会

(1) 日 時 [東地区大会] 令和5年7月25日(火) 8:30(開会式)~13:10
 [西地区大会] 令和5年7月26日(水) 8:30(開会式)~13:10

(2) 会 場 デンカビッグスワンスタジアム

(3) 過去3年間の参加校数及び出場選手数

*令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大のため中止

*令和4年度は熱中症・新型コロナウイルス感染拡大防止の観点より、6年生児童のみの参加

年度	東地区大会						西地区大会					
	5年		6年		合計	参加校数	5年		6年		合計	参加校数
	男子	女子	男子	女子			男子	女子	男子	女子		
令和3	296	303	302	287	1188	52	255	229	255	232	971	55
令和4			300	302	602	52			259	228	487	52
令和5	236	250	249	266	1001	52	207	224	206	226	863	55

(4) 第52回大会までの大会記録 * < >内は20年度より導入した写真判定による大会記録

種目	性別	男 子		女 子	
		5年	6年	5年	6年
100m		13秒3 <13秒50>	12秒2 <12秒61>	14秒0 <14秒61>	13秒3 <13秒86>
200m		28秒6	27秒1	————	————
800m		————	————	2分35秒5 <2分33秒65>	2分29秒6 <2分28秒01>
1500m		4分59秒3 <4分55秒88>	4分52秒2 <4分47秒72>	————	————
80mH		13秒3 <13秒67>	12秒3 <12秒46>	13秒7 <14秒01>	13秒0 <13秒30>
走り幅跳び		4m43cm	5m23cm	4m18cm	4m45cm
走り高跳び		1m44cm	1m60cm	1m32cm	1m48cm
4×100mR		57秒4 <57秒66>	52秒4 <53秒78>	57秒2 <59秒45>	55秒5 <56秒38>

(5) リレー優勝チーム及び大会新記録者 *令和5年度は男女混合4×100mリレーを新種目として新設

	東地区大会	西地区大会
		男女混合4×100mリレー
リレー優勝5年	葛塚東小学校	坂井輪小学校
リレー優勝6年	鳥屋野小学校	巻北小学校
大会新記録者	該当なし	

2 新潟市小学校体育実技講習会

	第 1 回	第 2 回
日 時	令和5年 6月16日 (金)	令和5年 11月16日 (木)
会 場	白根総合体育館	白根総合体育館
講 師	新潟市中学校体育連盟 丸山 穂高 教諭 (松浜中学校) 太田 昌彦 教諭 (曾野木中学校)	日本ソフトバレーボール連盟 理事 川上 春雄 様
内 容	「短距離走 (リレー)・走り幅跳び」 小・中体連連携事業	「ボール運動 (ネット型)、ネット型ゲーム」
参加者数	38名	21名

3 新潟市水泳競技記録会 ※令和2年度より休止

4 令和6年度 陸上競技記録会実施日

	西地区大会	東地区大会
第54回新潟市小学校陸上競技記録会	令和6年 7月24日 (水)	令和6年 7月25日 (木)
	予備日 26日 (金)	29日 (月)
	於：デンカビッグスワンスタジアム	

5 まとめと来年度の方向

第53回新潟市小学校陸上競技記録会では、熱中症対策や感染症対策、そして大会の内容を熟慮し運営を進めてきた。特に、今年は記録的な暑さの中での大会運営となったため、クールダウン室利用の励行、スターティングブロックやスタート位置の冷却等、大会当日の気候に応じ柔軟に対応した。

また、これまでの熱中症・感染防止対策に加え、競技編成を新たに見直した。これまでコロナ禍のため休止していた走り幅跳びを再度取り入れ、4×100m リレーは男女混合種目として新設した。競技時間の短縮を図るとともに、大会の新たな方向性も見出すことができた。新潟市教育委員会とも連携を取り合い、熱中症対策、感染症対策を万全にし、大会を実施することができた。

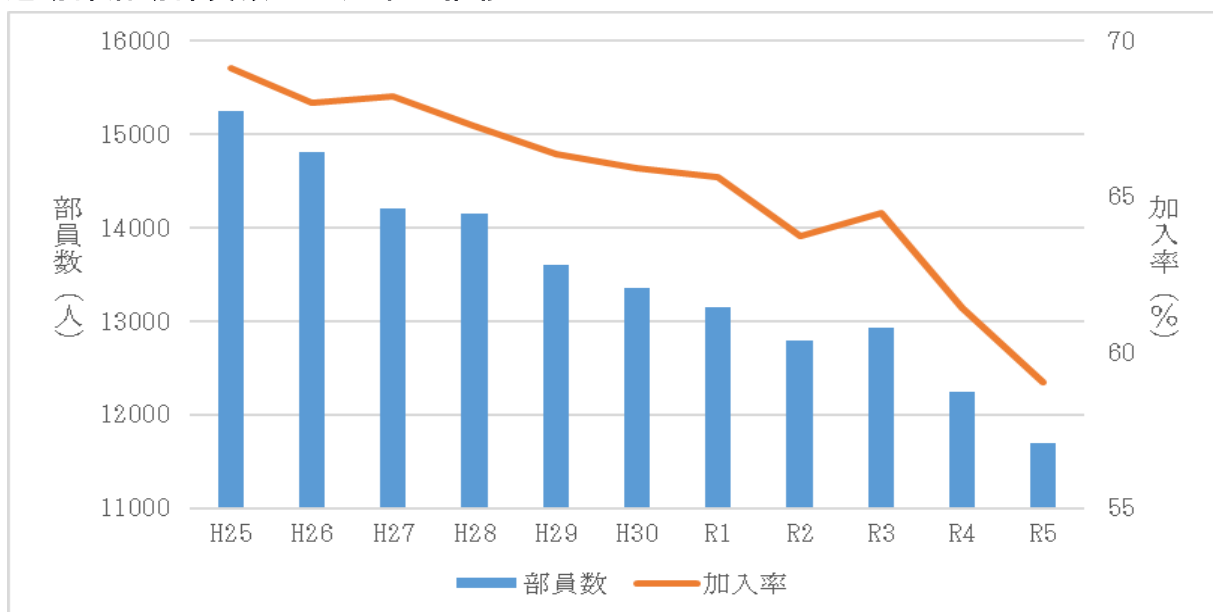
第1回体育実技講習会では、新潟市中学校体育連盟との連携事業である陸上運動指導について講習会を開催することができた。今回は、市内中学校から2名の講師をお招きした。陸上運動の種目ごとに、感覚づくりや動きづくりについて、指導のポイントを分かりやすく教えていただき、専門性の高い指導に触れられる機会となった。多くの先生から参加いただき、今年度も大変好評であった。

第2回では、「ボール運動 (ネット型)、ネット型ゲーム」をテーマに講習会を行った。ネット型ゲームの授業をする際の導入の指導例や、楽しみながら身に付くボール操作練習法などについて、理論や実技を交えながら教えていただくことができた。また、苦手な児童でも楽しめるゲームなど、明日の体育授業に使える内容ばかりで、参加した多くの先生も実際に体を動かしながら体験することで、たくさんの気付きや学びがあり、充実した会となった。

今後も猛暑の中での小体連事業の実施が予想される。そこで、現在、次年度以降の事業における対策や内容について検討している。子どもたちや保護者、参加する職員の安全を最優先に、子どもたちの力を伸ばしていける小体連事業を目指していき、新潟市の体育的な事業を支えていきたい。

潟市中学校体育連盟の活動

1 運動部活動部員数・加入率の推移



今年度の新潟市全体の生徒数は昨年度より135人減り19,810人でした。そのうち、運動部活動に所属している生徒数は、11,697人で新潟市全体生徒数の約59%にあたります。運動部員の加入率は年々減少傾向にあり、今年度は6割を切りました。

日本中体連による中体連大会の参加資格の緩和により、地域クラブが大会に参加可能になったことや、令和8年度から部活動時間が大幅に削減になることなどから、今後ますます運動部活動の加入率は減少していく可能性があります。

2 各種競技大会

今年度より新潟県中体連から認定を受けた地域クラブが中体連大会に参加しました。新潟市では7団体26クラブが認定を受け、23のクラブが実際に大会に参加をしました。

(1) 第64回 新潟市中学校体育大会

- ① 主催 新潟県中学校体育連盟 新潟市中学校体育連盟
- ② 期日 令和5年6月12日(月)・13日(火)・17日(土)
19日(月)・20日(火)・24日(土)
【競技によって開催日が異なるが、最大3日間開催】
- ③ 会場 新潟市体育施設・新潟市内中学校

(2) 第54回 新潟県中学校総合体育大会

- ① 主催 新潟県中学校体育連盟
- ② 期日 令和5年7月15日(土)・16日(日)・17日(月祝)
【サッカー・軟式野球のみ3日間開催】
- ③ 会場 新潟県内の体育施設(新潟市開催は、3種目)

(3) 第44回 北信越中学校総合競技大会

- ① 主催 北信越中学校体育連盟 北信越各県中学校体育連盟
 ② 期日 令和5年8月1日(火)～4日(金)
 ③ 会場 石川県内各地
 ④ 入賞(3位以上)校・選手一覧

競技	種目	順位	氏名 (学校名)
	1年男子100m	3	岡田 寿希也 (新潟アルビレックスRC)
陸上	3年男子100m	3	曾山 蒼生 (山潟)
	男子200m	3	大川 治斗 (下山)
	男子800m	2	圓山 寛人 (新潟第一)
	男子110mH	3	川村 悠太 (白根北)
	男子4×100mR	1	神保 柁・小出 聖人 大林 楓太・曾山 蒼生 (山潟)
	男子4×100mR	2	高山 泰樹・加藤 滉太 富永 琉維我・池田 開翔 (東石山)
	男子砲丸投	1	佐藤 祐輔 (山潟)
	女子200m	1	田中 麗愛 (宮浦)
		3	金谷 梨花 (大形)
	女子4×100mR	2	渡邊 香花・山口 紗英 多田 音咲・仲由 緋彩 (小針)
	女子走高跳	1	野村 寧音 (小針)
	女子砲丸投	1	岩野 愛花 (巻東)
水泳	男子200m自由形	3	服村 健太郎 (高志中等)
	男子1500m自由形	3	吉澤 怜央 (亀田)
	男子200m平泳ぎ	3	今泉 悠成 (新津第二)
	男子100mバタフライ	3	服村 健太郎 (高志中等)
	男子200m個人メドレー	2	清水 優希 (亀田)
	男子400m個人メドレー	2	清水 優希 (亀田)
	女子50m自由形	2	神田 行空 (新津第二)
		3	橋本 志保 (木戸)
	女子100m自由形	2	佐藤 花帆 (藤見)
	女子200m自由形	2	佐藤 花帆 (藤見)
	女子100m背泳ぎ	3	神田 行空 (新津第二)
	女子100m平泳ぎ	3	神田 倫来 (木戸)
	女子200m平泳ぎ	1	神田 倫来 (木戸)
	女子100mバタフライ	2	橋本 志保 (木戸)

バスケットボール	女子	3	新潟清心女子中学校
サッカー	男子	1	内野中学校
体操競技	男子団体	3	小新中学校
バレーボール	男子	3	中之口中学校
	女子	3	中之口中学校
ソフトテニス	男子団体	3	巻西中学校
	女子団体	3	内野中学校
卓球	男子団体	3	黒埼中学校
バドミントン	男子団体	3	豊栄ジュニアバドミントンクラブ
柔道	男子 90 kg 超級	3	小林 倫太郎（白根第一）
剣道	男子団体	1	小針中学校
	男子個人	3	石井 隆大（小針）

(4) 令和5年度 全国中学校体育大会 夏季大会

- ① 主催 日本中学校体育連盟
- ② 期日 令和5年8月17日（木）～26日（土）
- ③ 会場 四国ブロック
- ④ 入賞校・選手一覧

競技	種目	順位	氏名（学校名）
陸上	男子 4×100mR	5	新津第一中学校
	男子 110mH	8	川村 悠太（白根北）
	男子砲丸投	6	佐藤 祐輔（山潟）
	女子走高跳	5	野村 寧音（小針）
水泳	女子 200m 平泳ぎ	6	神田 倫来（木戸）
バレーボール	男子	1	中之口中学校

(5) 第64回 新潟市中学校新人大会

- ① 主催 新潟市教育委員会 新潟市中学校体育連盟
- ② 期日 令和5年9月26日（火）西地区
27日（水）東地区
- ③ 会場 新潟市体育施設・新潟市内中学校

(6) 第33回 新潟市中学校駅伝競走大会

- ① 主催 新潟県中学校体育連盟 新潟市中学校体育連盟
新潟市陸上競技協会
- ② 期日 令和5年10月4日（水）
- ③ 会場 デンカビッグスワンスタジアム発着特設駅伝コース
（新潟県スポーツ公園内園地）

(7) 第33回 新潟県中学校駅伝競走大会

- ① 主催 新潟県中学校体育連盟 新潟陸上競技協会
- ② 期日 令和5年11月2日（木）
- ③ 会場 小千谷市白山運動公園陸上競技場周辺特設コース

- (8) 第67回 新潟県中学校スキー大会
 - ① 主催 新潟県中学校体育連盟
 - ② 期日 令和6年1月9日(火)～11日(木)
 - ③ 会場 アルペン：松之山温泉スキー場
- (9) 令和5年度 全国中学校体育大会 冬季大会
 - ① 主催 日本中学校体育連盟
 - ② 期日 令和6年2月
 - ③ 会場 長野県

3 会議

- (1) 第1回本部会・第1回事務局会【4月11日：市陸上競技場】
第1回常任理事会提出資料と会議の持ち方の検討
- (2) 部活動顧問会【4月11日・12日・14日・17日：市陸上競技場】
市中学校体育大会・新人大会、専門部事業についての検討
- (3) 第1回常任理事会【4月18日：万代シルバーホテル】
役員承認・前年度決算報告・当年度の予算案審議
市中学校体育大会要項審議等
- (4) 地域スポーツ団体向けの説明会
中体連大会参加についての説明
- (5) 市中学校新人大会準備会【7月7日：黒崎市民会館】
市中学校新人大会運営の確認・会計事務の説明
- (6) 第2回本部会【9月22日：市陸上競技場】
来年度の事業計画についての検討
- (6) 第3回本部会・第2回事務局会【1月22日：市陸上競技場】
第2回常任理事会提出資料と会議の持ち方の検討
- (7) 第2回常任理事会【2月2日：万代シルバーホテル】
来年度の事業計画等の確認

6 おわりに

いつも当連盟の諸事業に対し、温かくご支援いただいている市教育委員会・関係競技団体・各中学校の皆様には深く感謝申し上げます。

令和5年5月より新型コロナウイルスが5類になったことにより、制限のない中での大会開催が可能になりましたが、引き続き感染症対策・熱中症対策を徹底しながら、滞りなく事業を進めることができました。

また、令和5年度から中体連主催大会に地域スポーツ団体の参加が可能となりました。認定に関して課題は残りましたが、丁寧に対応し地域のスポーツ団体の大会参加をスムーズに進めることができました。

今後も生徒の心身の健康増進および健全育成に寄与することをねらいとし、『社会の流れに対応しつつ、中学校体育・スポーツの振興を図る』活動を続けてまいります。

	4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1 体育	体づくり 体ほくしの運動(2) ゲーム 鬼遊び(3)	走・跳 かけっこ遊び(2) 投げ遊び(2) リレー遊び 体づくり いろいろな動きづくり(4)	器械・器具 跳び箱遊び(3) 表現リズム遊び	水遊び 水遊び(10)	体づくり いろいろな動きづくり(6) 器械/器具	ゲーム ボール蹴りゲーム(10)	ゲーム ボール投げゲーム(4) 器械・器具	ゲーム 走・跳 跳び遊び(6)	体づくり 器械・器具 マット遊び(8)	ゲーム 表現リズム遊び 表現遊び(7)	走・跳 走・跳 リレー遊び(3)
2 体育	体づくり 体ほくしの運動(3) ゲーム 鬼遊び(3)	表現リズム遊び リズム遊び(6) 体づくり いろいろな動きづくり(4)	器械/器具 鉄棒遊び(4)	水遊び 水遊び(10)	走・跳 かけっこ遊び(2) 投げ遊び(2) リレー遊び(2) 器械/器具 鉄棒遊び(3)	走・跳 跳び遊び(6) 器械・器具 遊具遊び(3) 体づくり いろいろな動きづくり	走・跳 かけっこ遊び(3) 器械・器具	表現リズム遊び 表現遊び(5) 走・跳 リレー遊び(3)	体づくり 体ほくしの運動 器械・器具 マット遊び(7) 体づくり いろいろな動きづくり(3)	ゲーム ボール蹴りゲーム(10)	ゲーム 鬼遊び(3)
3 体育	体づくり 体ほくしの運動(3) 体づくり いろいろな動きづくり(4)	走・跳の運動 ゲーム ネット型ゲーム	走・跳の運動 ゲーム ネット型ゲーム	水泳運動 水泳運動(10) 保健(4) けんこうな生活	体づくり いろいろな動きづくり(2) 走・跳の運動 器械運動 マット運動(6)	走・跳の運動 器械運動 鉄棒運動(5) ゲーム ネット型ゲーム	ゲーム ゴール型ゲーム タグラグビー(6)	表現運動 表現(6) 体づくり いろいろな動きづくり(4)	体づくり運動 表現運動 リズムダンス(4)	ゲーム ベースボール型ゲーム キャッチボール 器械運動 跳び箱運動(6)	ゲーム ゴール型ゲーム ラインサッカー(6)
4 体育	体づくり 体ほくしの運動(3) 走・跳の運動	体づくり いろいろな動きづくり(3) 走・跳の運動	ゲームネット型ゲーム ソフトバレーボール(8) 保健(4) 体の成長とわ たし	水泳運動 水泳運動(10)	走・跳の運動 体づくり いろいろな動きづくり	器械運動 ゲーム ベースボール型ゲーム	ゲーム ゴール型ゲーム セストボール(6) 走・跳の運動	器械運動 跳び箱運動(6) 体づくり運動	表現運動 表現(5) ゲーム ゴール型ゲーム	体づくり いろいろな動きづくり 表現運動 リズムダンス(4)	ゲーム ゴール型ゲーム ハンドボール(6)
5 体育	体づくり 体ほくしの運動(3) 体づくり いろいろな動きづくり(3)	陸上運動 投運動(1) 陸上運動 短距離・リレー(6) ボール運動 ネット型 ソフトバレーボール(10)	水泳運動 水泳運動(10) 保健 心の健康(3)	体づくり いろいろな動きづくり	陸上運動 投運動(1) 器械運動	ボール運動 ベースボール型 ティーンボール(11)	表現運動 表現(6) 陸上運動 走り幅跳び(4) 保健 けがの防止(5)	体づくり運動 表現運動	ボール運動 ゴール型(12) サッカー タグラグビー		
6 体育	体づくり 体ほくしの運動(3) 体づくり いろいろな動きづくり(3)	陸上運動 器械運動 鉄棒運動(7) 陸上運動 ハードル走(5)	水泳運動 水泳運動(10) 保健 病気の予防1(4)	ボール運動 ネット型 ソフトバレーボール(9)	体づくり いろいろな動きづくり(3) 陸上運動 投運動(1)	ボール運動	器械運動 跳び箱運動(6) 陸上運動 走り高跳び(5)	表現運動 外国のフォークダンス(2) 表現(6)	ボール運動 ゴール型(10) ハンドボール バスケットボール 保健 病気の予防(4)		

教科名	4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1 保健体育	体づくり運動	体育理論	球技 ネット型(8)		体づくり運動 (9)		保健 健康な生活と病気の予防(5)		保健 心身の発達と心の健康(11)		
		陸上競技-1 (7)	ダンス (9)	水泳 (9)	陸上競技-2	武道	器械運動 マット運動+ (鉄棒運動・平均台運動・跳び箱運動から1つ)(10)	体づくり運動 (3)	球技		
2 保健体育	体育理論 運動やスポーツの意義や効果(3)	陸上競技-1 (7)	ダンス	球技 ベースボール型 ソフトボール(8)	水泳 (9)	陸上競技-2	保健 健康な生活と病気の予防(7)		保健		
	体づくり運動 (2)						武道 (12)	器械運動 マット運動 +(鉄棒運動・平均台運動・跳び箱運動から1つ)(9)	体づくり運動 (3)	球技 ネット型(12)	
3 保健体育	体育理論 文化としてのスポーツの意義(3)		球技 ネット型(6)	選択2	体づくり運動 (4)		保健		保健		
	体づくり運動	選択1 陸上競技、器械運動から選択 (17)			選択3 陸上競技、ダンスから選択 (14)		選択4 球技、ベースボール型、武道から選択 (18)			球技	

V-2 評価に関する参考資料

文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター編
「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料

【 小学校体育 】

https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_taiku.pdf



【 中学校保健体育 】

https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_mid_hokent.pdf



事 務 連 絡
令和5年7月26日

各都道府県・指定都市教育委員会学校体育主管課
各都道府県私立学校主管課 御中
附属学校を置く各国公立大学法人担当課

スポーツ庁政策課企画調整室

小学校体育（運動領域）指導の手引について（周知）

このたび、スポーツ庁では、小学校学習指導要領（平成29年告示）解説体育編に示された内容をもとに、授業づくりに資する資料として作成した小学校体育（運動領域）指導の手引の映像コンテンツ（器械運動系、ボール運動系、表現運動系）を作成し、スポーツ庁ホームページに掲載しました。

については、各学校において、児童の実態や年間指導計画等に応じて、適宜、活用されるよう、御周知ください。

【掲載ページ】

スポーツ庁HP「小学校体育（運動領域）指導の手引」

https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/sports/mcatetop04/list/jsa_00003.htm

【本件担当】

スポーツ庁政策課企画調整室

電話 03-5253-4111（内線2674）